

學 則

同 志 社 大 学

(2023年4月1日改正)

目 次

第1章 総 則	1
第2章 学 部	2
第1節 修業年限, 学年, 学期及び休業日	2
第2節 学部学科等の組織	2
第3節 教育課程及び履修方法	4
第4節 試 験	6
第5節 卒業及び学位の授与	6
第6節 収容定員及び教育研究実施組織	7
第7節 入学, 転入学, 編入学, 休学, 留学, 退学, 除籍及び再入学	9
第8節 科目等履修生, 聴講生及び外国人留学生	11
第9節 学 費	12
第3章 附 属 施 設	13
附 則	13
別表Ⅰ 学 費	20
別表Ⅰの2 履修料	22
別表Ⅰの3 聴講料	23
別表Ⅰの4 外国人留学生(特別学生) 入学金及び研修料	23
別表Ⅰの5 入学検定料	25
別表Ⅱ 各学部人材養成目的及び教育課程表	26
全学共通教養教育科目	26
日本語・日本文化教育科目	32
神学部	34
文学部	40
社会学部	60
法学部	79
経済学部	92
商学部	97
政策学部	103
文化情報学部	108
理工学部	111
生命医科学部	139
スポーツ健康科学部	149
心理学部	152
グローバル・コミュニケーション学部	155
グローバル地域文化学部	162
国際教育インスティテュート	172
教育職員免許状を得るための課程	176

同志社大学学則

1948年4月1日	制定	1978年4月1日	改正	2003年4月1日	改正
1950年4月1日	改正	1979年4月1日	〃	2004年4月1日	〃
1951年4月1日	〃	1980年4月1日	〃	2005年4月1日	〃
1952年4月1日	〃	1981年4月1日	〃	2006年4月1日	〃
1954年4月1日	〃	1982年4月1日	〃	2007年4月1日	〃
1955年4月1日	〃	1983年4月1日	〃	2008年4月1日	〃
1959年4月1日	〃	1984年4月1日	〃	(規則名変更)	
1960年4月1日	〃	1985年4月1日	〃	2009年4月1日	〃
1961年4月1日	〃	1986年4月1日	〃	2010年4月1日	〃
1962年4月1日	〃	1987年4月1日	〃	2011年4月1日	〃
1963年4月1日	〃	1988年4月1日	〃	2012年4月1日	〃
1964年4月1日	〃	1989年4月1日	〃	2013年4月1日	〃
1965年4月1日	〃	1990年4月1日	〃	2014年4月1日	〃
1966年4月1日	〃	1991年4月1日	〃	2014年11月1日	〃
1967年4月1日	〃	1992年4月1日	〃	2015年4月1日	〃
1968年4月1日	〃	1993年4月1日	〃	2016年4月1日	〃
1969年4月1日	〃	1994年7月1日	〃	2016年5月1日	〃
1970年4月1日	〃	1995年4月1日	〃	2017年4月1日	〃
1971年4月1日	〃	1996年4月1日	〃	2017年10月1日	〃
1972年4月1日	〃	1997年4月1日	〃	2018年4月1日	〃
1973年4月1日	〃	1998年4月1日	〃	2019年4月1日	〃
1974年4月1日	〃	1999年4月1日	〃	2020年4月1日	〃
1975年4月1日	〃	2000年4月1日	〃	2021年4月1日	〃
1976年4月1日	〃	2001年4月1日	〃	2022年4月1日	〃
1977年4月1日	〃	2002年4月1日	〃	2023年4月1日	〃

第1章 総 則

第1条 本大学は、教育基本法にのっとり、学校教育法の定める大学として、学術を教授研究し、あわせてキリスト教的教育の特色を発揮し、国家社会に有用な人物を養成することを目的とする。

第1条の2 本大学は、教育研究水準の向上を図り、本大学の目的及び社会的使命を達成するため、文部科学大臣の定めるところにより、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するとともに、その結果を踏まえ、教育研究活動等について不断の見直しを行う。

2 点検及び評価に関する規程は、別に定める。

3 本大学は、第1項の点検及び評価の結果について、政令で定める期間ごとに、文部科学大臣の認証を受けた者による評価を受けるものとする。

第1条の3 本大学は、教育研究活動等の状況について、適切な体制を整えたうえで、刊行物への掲載、インターネットの利用その他広く周知を図ることができる方法によって、公表するものとする。

第2条 本大学に、学部、大学院その他の教育研究組織を置く。

2 大学院に関する学則は、別にこれを定める。

第2条の2 本大学は、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を各学部において学科毎に定め、別表Ⅱに記載する。

第2章 学 部

第1節 修業年限、学年、学期及び休業日

第3条 学部の修業年限は、4年とする。

2 在学年限は、8年を超えることができない。

第4条 削除

第5条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

2 学年を次の2学期に分ける。

春学期 4月1日から9月20日まで

秋学期 9月21日から翌年3月31日まで

第6条 休業日は、次のとおりとする。

(1) 日曜日

(2) 「国民の祝日に関する法律」に定める休日

(3) 創立記念日 11月29日

(4) キリスト降誕日 12月25日

(5) 夏期、冬期及び春期休業に関しては、別に定める。

2 前項に規定する休業日において、必要ある場合は授業を行うことがある。また休業日は、臨時に定めることができる。

第2節 学部学科等の組織

第7条 本大学に、次の学部学科を置く。

神 学 部

神 学 科

文 学 部

英 文 学 科
哲 学 科
美学芸術学科
文化史学科
国 文 学 科
社 会 学 部
 社 会 学 科
 社会福祉学科
 メディア学科
 産業関係学科
 教育文化学科
法 学 部
 法 律 学 科
 政 治 学 科
経 済 学 部
 経 済 学 科
商 学 部
 商 学 科
政 策 学 部
 政 策 学 科
文 化 情 報 学 部
 文 化 情 報 学 科
理 工 学 部
 インテリジェント情報工学科
 情報システムデザイン学科
 電 気 工 学 科
 電 子 工 学 科
 機械システム工学科
 機 械 理 工 学 科
 機能分子・生命化学科
 化学システム創成工学科
 環境システム学科
 数理システム学科
生 命 医 科 学 部
 医 工 学 科
 医 情 報 学 科

医生命システム学科
スポーツ健康科学部
スポーツ健康科学科
心 理 学 部
心 理 学 科
グローバル・コミュニケーション学部
グローバル・コミュニケーション学科
グローバル地域文化学部
グローバル地域文化学科

第7条の2 削除

第7条の3 本大学にキリスト教文化センターを置く。

2 キリスト教文化センターに関する規程は、別に定める。

第7条の4 本大学にハリス理化学研究所を置く。

2 ハリス理化学研究所に関する規程は、別に定める。

第7条の5 削除

第7条の6 本大学に歴史資料館を置く。

2 歴史資料館に関する規程は、別に定める。

第7条の7 本大学に日本語・日本文化教育センターを置く。

2 日本語・日本文化教育センターに関する規程は、別に定める。

第7条の8 本大学に全学共通教養教育センターを置く。

2 全学共通教養教育センターに関する規程は、別に定める。

第7条の9 本大学に国際教育インスティテュートを置く。

2 国際教育インスティテュートに関する規程は、別に定める。

第7条の10 本大学に免許資格課程センターを置く。

2 免許資格課程センターに関する規程は、別に定める。

第7条の11 本大学に学習支援・教育開発センターを置く。

2 学習支援・教育開発センターに関する規程は、別に定める。

第7条の12 本大学にグローバル教育センターを置く。

2 グローバル教育センターに関する規程は、別に定める。

第7条の13 本大学に文部科学省共同利用・共同研究拠点として、赤ちゃん学研究センターを置く。

2 赤ちゃん学研究センターに関する規程は、別に定める。

第3節 教育課程及び履修方法

第8条 各学部学科の教育課程は、各学部学科が学校教育法施行規則第165条の2第1項により定める方針に基づき編成し、履修方法とともに別表Ⅱにこれを定める。

第8条の2 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

2 本大学は、文部科学大臣が別に定めるところにより、前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

3 本大学は、第1項の授業を、外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても、同様とする。

第8条の3 本大学は、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

第9条 学生は、所属学部学科の規定に従って、一定単位数の授業科目を履修しなければならない。

2 教育職員免許状を得るための資格及び司書、司書教諭、学芸員の資格を得たい者は、特に指定された授業科目を履修しなければならない。

3 授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、次の基準による。

(1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で本大学が定める時間の授業をもって1単位とする。

(2) 実験、実習、実技等については、30時間から45時間までの範囲で本大学が定める時間の授業をもって1単位とする。

(3) 第1号に規定する授業の方法と前号に規定する授業の方法を併用する場合の単位数の基準は、前2号に規定する基準を考慮して本大学が定める。

4 前項の規定にかかわらず、卒業論文等の授業科目については、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定める。

第9条の2 本大学は、各学部において教育上有益と認めるときは、学生が学部の定めるところにより他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、60単位を超えない範囲で認定することができる。

2 第27条の2により留学した大学において単位を修得した者には、前項により認定した単位と合わせて60単位を超えない範囲で認定することができる。

3 外国の大学又は短期大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し修得した単位及び外国の大学又は短期大学の教育課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該教育課程における授業科目を我が国において履修し修得した単位を、前2項により認定した単位と合わせて60単位を超えない範囲で認定することができる。

第9条の3 本大学は、各学部において教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本大学における授業科目の履修とみなし、学部の定めるところにより単位を与えることができる。

2 前項の単位数は、前条第1項、第2項及び第3項と合わせて60単位を超えないものとする。

第9条の4 本大学は、各学部において教育上有益と認めるときは、学生が入学前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）を、本大学において修得したものとして認定することができる。

2 本大学は、各学部において教育上有益と認めるときは、学生が入学前に行った短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本大学における授業科目の履修とみなし、学部の定めるところにより単位を与えることができる。

3 前2項の単位数は、転入学及び編入学の場合を除き、本大学において修得した単位以外のものについては、第9条の2第1項、第2項及び第3項並びに前条第1項により修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

第9条の5 第8条の2第2項の授業の方法により修得する単位は、各学部における卒業に必要な単位数から64単位を除いた単位数を上限として、卒業に必要な単位とすることができる。

第9条の6 本大学は、学生に対して、授業の方法及び内容並びに1年間の授業の計画をあらかじめ明示する。

2 本大学は、学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行う。

第10条 削除

第4節 試 験

第11条 履修した授業科目については、春学期及び秋学期の終りに定期試験を行う。また臨時に試験を行うことがある。

第12条 削除

第13条 試験の成績は、A、B、C、D及びFで評価し、D以上の成績を合格とする。ただし、学部の定めるところにより、特定の授業科目については試験の成績を、合格又は不合格で評価することができる。

第14条 疾病その他やむを得ない事由により受験できなかった場合は、その授業科目の試験日の翌日から起算して3日以内に願い出れば、追試験を行うことがある。

第5節 卒業及び学位の授与

第15条 学部学科所定の教育課程に従って授業科目を履修し、所定の単位を修得した者に卒業の認定を行い、卒業した学部学科の種類により次の学士の学位を授与する。在学期間に関しては、学部の定めるところにより、所定の単位を優れた成績で修得したと認められる者については、3年以上在学すれば足りるものとする。

学士（神学、英文学、哲学、美学芸術学、文化史学、国文学、社会学、社会福祉学、メディア学、産業関係学、教育文化学、法学、政治学、経済学、商学、政策学、文化情報学、工学、理

学，スポーツ健康科学，心理学，グローバル・コミュニケーション学，グローバル地域文化学，国際教養）

2 前項に規定する学位には，「学士（神学）（同志社大学）」のように明記することを必要とする。

第6節 収容定員及び教育研究実施組織

第16条 各学部の入学定員，編入学定員及び収容定員は，次のとおりとする。

学部学科別	入学定員	編入学定員	収容定員
神学部	63名		252名
神学科	63名		252名
文学部	705名		2,820名
英文学科	315名		1,260名
哲学科	70名		280名
美学芸術学科	70名		280名
文化史学科	125名		500名
国文学科	125名		500名
社会学部	442名		1,768名
社会学科	90名		360名
社会福祉学科	98名		392名
メディア学科	88名		352名
産業関係学科	87名		348名
教育文化学科	79名		316名
法学部	893名		3,572名
法律学科	683名		2,732名
政治学科	210名		840名
経済学部	893名		3,572名
経済学科	893名		3,572名
商学部	893名		3,572名
商学科	893名		3,572名
政策学部	420名		1,680名
政策学科	420名		1,680名
文化情報学部	294名		1,176名
文化情報学科	294名		1,176名
理工学部	756名	20名	3,064名
インテリジェント情報工学科	83名	2名	336名
情報システムデザイン学科	83名	2名	336名
電気工学科	80名	2名	324名
電子工学科	86名	2名	348名
機械システム工学科	96名	2名	388名
機械理工学科	70名	2名	284名
機能分子・生命化学科	83名	2名	336名

化学システム創成工学科	83 名	2 名	336 名
環境システム学科	51 名	2 名	208 名
数理システム学科	41 名	2 名	168 名
生命医科学部	265 名		1,060 名
医工学科	100 名		400 名
医情報学科	100 名		400 名
医生命システム学科	65 名		260 名
スポーツ健康科学部	221 名		884 名
スポーツ健康科学科	221 名		884 名
心理学部	158 名		632 名
心理学科	158 名		632 名
グローバル・コミュニケーション学部	158 名		632 名
グローバル・コミュニケーション学科	158 名		632 名
(うち英語コース	85 名		340 名)
グローバル地域文化学部	190 名		760 名
グローバル地域文化学科	190 名		760 名
計	6,351 名	20 名	25,444 名

第17条 本大学に、教授、准教授、助教及び助手を置く。

2 本大学に、特別任用教授、特別任用助教（有期研究員）及び特別任用助手（有期研究員）を置くことができる。

3 本大学に、客員教授、客員准教授及び客員助教を置くことができる。

第17条の2 本大学に、実験講師を置く。

第18条 本大学に、学長を置く。

2 学長は、本学を代表するとともに、校務をつかさどり、教職員を統括する。

3 学長は、教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため、教職員に必要な知識及び技能を習得させ、並びにその能力及び資質を向上させるための研修等を実施する。

4 学長に関し必要な事項は、別に定める。

第18条の2 本大学に、副学長を置く。

2 副学長に関し必要な事項は、別に定める。

第18条の3 本大学に、学部長を置く。

2 学部長は、学部に関する校務をつかさどる。

第18条の4 本大学に、機構長、部長、所長、館長、室長等を置く。

第18条の5 本大学に、学長補佐を置くことができる。

2 学長補佐に関し必要な事項は、別に定める。

第18条の6 本大学に、その事務を遂行するため、職員を置く。

2 事務組織に関する規程は、別に定める。

第19条 本大学の各学部に教授会を置く。

2 教授会は、学部に関する次の事項を審議する。

- (1) 学生の入学，退学，休学，卒業等に関する事項及び学位の授与に関する事項
- (2) 教育課程に関する事項
- (3) 教員の人事に関する事項
- (4) 学則，学部諸規程に関する事項
- (5) その他学部長がつかさどる教育研究に関する事項

3 教授会は，学長から諮問された事項について審議する。

4 教授会は，学生の入学，卒業及び学位の授与，その他教育研究に関する重要な事項で教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるものについて，学長が決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

5 教授会の組織及び運営に関する事項は，各学部教授会において定める。

第19条の2 本大学に部長会を置く。

2 大学及び各学部に通ずる重要事項は，部長会で審議する。

3 部長会に関する規程は，別に定める。

第19条の3 本大学に大学評議会を置く。

2 大学評議会は，本学の中長期的方針に関わる事項を審議し，その達成状況を検証する。

3 大学評議会に関する規則は，別に定める。

第19条の4 本大学に大学教授会を置く。

2 大学教授会は，大学の重要な事項に関し学長の諮問に応じる。

第7節 入学，転入学，編入学，休学，留学，退学，除籍及び再入学

第20条 入学の時期は，学年の始めとする。ただし，学部が必要とするときには，入学の時期を学期の始めとすることができる。

第21条 学部第1年次に入学することができる者は，次の各号のいずれかに該当しなければならない。

- (1) 高等学校卒業生
- (2) 中等教育学校卒業生
- (3) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程により，これに相当する学校教育を修了した者を含む。）
- (4) 高等学校に文部科学大臣の定める年数以上在学した者（これに準ずる者として文部科学大臣が定める者を含む。）であつて，本学の定める分野において特に優れた資質を有すると認めたもの
- (5) 大学への入学に関し，高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者として，学校教育法施行規則第150条に規定された者

第22条 前条の資格を有する入学志願者について，各学部が学校教育法施行規則第165条の2第1項により定める方針に基づき，高等学校卒業程度の入学試験を行い，入学を許可する。

第23条 学部第2年次及び第3年次では、第2項又は第3項の各号のいずれかに該当する入学志願者について選考を行い、転入学又は編入学を許可することがある。

2 第3年次に転入学又は第2年次若しくは第3年次に編入学することができる者は、次のとおりとする。

- (1) 大学第2年次修了者
- (2) 短期大学卒業者
- (3) 高等専門学校卒業者
- (4) 専修学校の専門課程のうち、文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者（ただし、学校教育法第90条第1項に規定する大学入学資格を有する者に限る。）
- (5) 短期大学又は高等専門学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者として、学校教育法施行規則第155条第2項又は同第177条に規定された者並びに文部省令第1号により大学への編入学を認められた者
- (6) 高等学校の専攻科の課程のうち、文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者（ただし、学校教育法第90条第1項に規定する大学入学資格を有する者に限る。）

3 第2年次に転入学することができる者は、次のとおりとする。

- (1) 大学第1年次修了者
- (2) 外国の大学において前号に準じる課程を修了した者

4 第3年次に転入学又は編入学することを許可された転入学生及び編入学生の修業年限は2年とし、在学年限は6年を超えることができない。

5 第2年次に転入学又は編入学することを許可された転入学生及び編入学生の修業年限は3年とし、在学年限は7年を超えることができない。

第24条 入学志願者は、指定期日までに所定の書類を提出し、別表Ⅰの5に定める入学検定料を納入しなければならない。

2 災害等の特別な事情により入学検定料の納入が困難であると認められる入学志願者には、申請に基づき、入学検定料を免除することがある。

3 前項の入学検定料の免除の詳細は、別に定める。

第25条 入学許可を得た者は、指定期日までに所定の書類を提出し、定められた学費を納入しなければならない。

2 本大学の複数の学部・学科・コース（以下「学部等」という。）の入学許可を得て、一方の学部等の学費を納入した者が、もう一方の学部等へ入学を希望する場合は、申請に基づき、既に納入した学費を、もう一方の学部等の学費に振替を認めることがある。

3 前項の振替の詳細は、別に定める。

第26条 連帯保証人は1名とし、父又は母（父母のいない者は、これにかわる親戚等）とする。

2 連帯保証人は、その学生の在籍中、本学学費及び本学に損害を与えた場合の損害賠償等の債務につき、極度額の範囲において連帯保証しなければならない。極度額は別表Ⅰに定める学費1年分とする。

- 3 連帯保証人が転籍、転居等をしたときは、その旨直ちに届け出なければならない。
- 4 連帯保証人が死亡したとき、又はその資格を失ったときは、あらたに連帯保証人を定めて届け出なければならない。
- 第27条** 学生が疾病その他やむを得ない事由により、休学しようとするときは、連帯保証人連署のうえ、春学期又は秋学期授業開始日までにその旨願い出て、許可を得なければならない。
- 2 休学期間は、1年又は半年とする。
- 3 休学の期間は、通算して4年を超えることができない。
- 4 休学期間は、第3条並びに第23条第4項及び第5項に定める修業年限、在学年限には算入しない。
- 第27条の2** 学生は、在学中当該学部教授会が本人の教育上有益と認め、学長が承認した場合に限り、本学の認定する外国の大学に留学することができる。
- 2 留学の期間は、第3条並びに第23条第4項及び第5項に定める修業年限及び在学年限に算入できる。
- 3 留学の取扱いについては、別にこれを定める。
- 第28条** 学生が、疾病その他やむを得ない事由により、退学しようとするときは、連帯保証人連署のうえ、その旨願い出なければならない。
- 第29条** 学長は、学力劣等にして成業見込みなしと認める者、又は出席常でない者を、当該学部教授会の審議を経て、諭旨退学させることがある。
- 第30条** 学長は、品行不良の者、学業怠慢の者、学校の秩序を乱した者、その他学生としての本分に反した者で、当該学部教授会において懲戒の対象となりうると認められたときには、けん責、停学又は退学に処することができる。
- 2 前項の懲戒に関する規程は、別に定める。
- 第30条の2** 次の各号のいずれかに該当する者は、除籍する。ただし、第1号については、春学期末卒業予定者は春学期末、それ以外の者は該当学年末（秋学期入学者は春学期末）、また第2号並びに第3号については、該当学期末に除籍する。
- (1) 学費の納入を怠り、督促を受けても納入しない者
- (2) 在学期間が第3条第2項並びに第23条第4項及び第5項に規定する在学年限を超える者
- (3) 学費未納で履修科目の登録をしていない者
- 第30条の3** 退学者及び前条第1項第1号又は第3号により除籍された者が、連帯保証人連署のうえ、再入学を願い出た場合は、それを許可することがある。
- なお、除籍された者が再入学を願い出る場合は、事前に未納学費を完納しなければならない。
- 第30条の4** 再入学許可を得た者は、指定期日までに所定の書類を提出し、定められた学費を納入しなければならない。

第8節 科目等履修生、聴講生及び外国人留学生

- 第31条** 各学部等に設置する一又は複数の授業科目を履修し単位を修得しようとする者があるとき

は、 相当の資格があると認めた者につき、科目等履修生とすることができる。

- 2 科目等履修生のうち、他の大学の学生で、協定に基づき本大学の授業科目を履修する者については、交流学生又は単位互換履修生として受け入れることができる。

第32条 科目等履修生が履修した授業科目について試験を受け合格したときは、所定の単位を与える。

- 2 前項に定めるもののほか、科目等履修生に関する内規は、別に定める。

第33条 削除

第34条 削除

第35条 各学部を設置する一又は複数の授業科目を聴講しようとする者があるときは、相当の資格があると認めた者につき、聴講生とすることができる。

第36条 聴講生に関する内規は、別に定める。

第36条の2 外国人留学生に関する内規は、別に定める。

第9節 学 費

第37条 在学生の学費は、春学期及び秋学期の学年暦に定める日までに納入しなければならない。

ただし、春学期の学費を納入するときに、当該年度の秋学期の学費も納入することができる。

- 2 外国人留学生（特別学生）研修料は、春学期及び秋学期の学年暦に定める日までに納入しなければならない。

- 3 履修料及び聴講料は、所定の期間内に納入しなければならない。

第38条 学費は、入学金、授業料（履修料、聴講料、研修料を含む。）、教育充実費、特別在籍料及び休学在籍料とし、その額は、別表Ⅰから別表Ⅰの4にこれを定める。

- 2 協定に基づくダブルディグリープログラムにより、本大学から1学期間以上留学する者は、特別在籍料を納入するものとし、入学金を除く他の学費の納入を要しない。

- 3 休学を許可された者は、休学在籍料を納入するものとし、入学金を除く他の学費の納入を要しない。

- 4 第31条第2項に定める、協定に基づき本大学の授業科目を履修するため、他の大学から受け入れた交流学生及び単位互換履修生の学費については、当該大学との協定に基づき設定する。

- 5 いったん納入した学費は、返還しない。ただし、入学許可を得た者で、入学日の前日までに入学手続の取消しを願い出たものについては、入学金又はこれに相当する金額を除く学費を返還することがある。

- 6 履修科目の登録に際して実験実習料を要する科目及びその実験実習料については、別に定める。

- 7 退学者又は除籍された者については、別に定める場合を除き、当該学期の学費を徴収する。

- 8 第30条第1項に基づく停学に処せられた者については、その期間中も学費を徴収する。

第39条 やむを得ない事情があると認められる場合は、申請に基づき、学費（特別在籍料及び休学在籍料を除く。）を延納又は分納することができる。

2 前項の学費の延納又は分納の詳細は、別に定める。

第39条の2 本大学は、大学等における修学の支援に関する法律に基づき、授業料及び入学金の減免を行う。

2 前項の授業料及び入学金の減免の詳細は、別に定める。

第39条の3 災害等の特別な事情により学費の納入が困難であると認められる者には、申請に基づき、学費の一部を免除することがある。

2 前項の学費の一部免除の詳細は、別に定める。

第3章 附属施設

第40条 図書館を設け、図書、学術雑誌、電磁的方法により提供される学術情報等を系統的に整備し、教育研究を促進する。

2 大学には学部研究室、実験室、研究所等を設ける。

第41条 寄宿舎を設け、一部学生を入舎させる。

第42条 学生支援機構保健センターを設け、教職員及び学生の保健医療に当る。

附 則

1 この学則は、2005年4月1日から施行する。

2 第27条第3項の規定は、1989年度入学生から適用する。

3 第9条に規定する教育職員免許状を得るための資格（高等学校地理歴史・公民科）については、1990年度入学生から適用する。

4 第7条、第16条は、知識工学科設置、機械工学科、機械工学第二学科の機械システム工学科、エネルギー機械工学科への名称変更及び工業化学科、化学工学科の機能分子工学科、物質化学工学科への改組転換により1994年4月1日から改正施行する。

5 第7条は、学部第2部を1997年度入学生から学生募集停止及び文学部第1部、法学部第1部、経済学部第1部、商学部第1部の文学部、法学部、経済学部、商学部への名称変更により1997年4月1日から改正施行する。

第16条は、文学部英文学科、文化学科国文学専攻、法学部法律学科、政治学科、経済学部、商学部昼間主コース、夜間主コースを設置。これにともなう学部、学科の収容定員増加変更により1997年4月1日から改正施行する。

なお、各学部の第2部は、当該学部の第2部に在学する者がいなくなるまでの間存続するものとし、教育課程に関する規程は、従前によるものとする。（1997年4月1日改正）

6 第7条、第16条は、神学部神学科、経済学部経済学科、商学部商学科の学科名明示により、1999年4月1日から改正施行する。（1999年4月1日改正）

- 7 第7条, 第16条は, 文学部社会学科新聞学専攻のメディア学専攻への名称変更, 政策学部政策学科, 工学部情報システムデザイン学科及び環境システム学科の設置により 2004 年 4 月 1 日から改正施行する。(2004 年 4 月 1 日改正)
- 8 第7条は, 文学部の改組・再編による文化学科, 社会学科及び各学科内の専攻の廃止, それに伴う文学部哲学科, 心理学科, 美学芸術学科, 文化史学科, 国文学科及び社会学部社会学科, 社会福祉学科, メディア学科, 産業関係学科, 教育文化学科の設置並びに文化情報学部文化情報学科の設置により 2005 年 4 月 1 日から改正施行する。
- 第16条は, 文学部の改組・再編に伴う学部・学科の設置及び文化情報学部の設置並びに法学部及び経済学部の昼間主コース, 夜間主コースの廃止により 2005 年 4 月 1 日から改正施行する。
- なお, 廃止する文化学科及び社会学科の各専攻並びに法学部及び経済学部の昼間主コース及び夜間主コースは, 2005 年度より学生募集を停止する。ただし, 各学科・専攻及びコースは, 当該学科・専攻及びコースに在学する者がいなくなるまでの間存続するものとし, 教育課程に関する規程は, 従前によるものとする。(2005 年 4 月 1 日改正)
- 9 第13条に規定する試験の成績評価は, 2004 年度第1年次入学生から適用し, 2003 年度以前の入学生については, 従前の規程による。
- 10 第15条に規定する学位は, 2005 年度第1年次入学生から適用し, 2004 年度以前の入学生については, 従前の規程による。
- 11 第30条の3に規定する再入学は, 2004 年度第1年次入学生から適用する。
- 12 第8条の別表Ⅱの各学部教育課程表は, 2005 年度第1年次入学生から適用し, 2004 年度以前の入学生については, 別に定めるもののほか, 従前の教育課程表による。
- 13 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち, 入学金, 授業料, 教育充実費及び実験実習料については, 2005 年度入学生に適用する。2004 年度以前の入学生については, 従前の学費による。
- 14 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち, 休学在籍料については, 2003 年度以降在学の学生に適用する。ただし, 2002 年度以前の入学生のうち, 従前の学費による休学中の学費が休学在籍料を下回る場合は, その額とする。

附 則

- 1 この学則は, 2006 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第7条及び第16条は, 工学部知識工学科の名称変更により, 改正・施行する。なお, 知識工学科は, 2006 年度より学生募集を停止する。ただし, 当該学科は, 当該学科に在籍する学生がいなくなるまでの間存続するものとし, 教育課程に関する規程は, 従前によるものとする。
- 3 第8条の別表Ⅱの各学部教育課程表は, 2006 年度第1年次入学生から適用し, 2005 年度以前の入学生については, 別に定めるもののほか, 従前の教育課程表による。
- 4 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち, 入学金, 授業料, 教育充実費及び実験実習料については, 2006 年度入学生に適用する。2005 年度以前の入学生については, 従前の学費による。

附 則

- 1 この学則は、2007 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 16 条は、文学部英文学科及び国文学科の昼間主コース、夜間主コースの廃止により、改正・施行する。なお、文学部英文学科及び国文学科の昼間主コース及び夜間主コースは、2007 年度より学生募集を停止する。ただし、当該コースは、当該コースに在籍する学生がいなくなるまでの間存続するものとし、教育課程に関する規程は、従前によるものとする。
- 3 第 8 条の別表Ⅱの各学部教育課程表は、2007 年度第 1 年次入学生から適用し、2006 年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の教育課程表による。
- 4 第 38 条第 1 項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2007 年度入学生に適用する。2006 年度以前の入学生については、従前の学費による。

附 則

- 1 この学則は、2008 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 7 条は、理工学部数理システム学科、生命医科学部医工学科、医情報学科、医生命システム学科及びスポーツ健康科学部スポーツ健康科学科の設置並びに工学部、機能分子工学科及び物質化学工学科の理工学部、機能分子・生命化学科及び化学システム創成工学科への名称変更により、改正・施行する。

第 16 条は、政策学部政策学科の昼間主コース及び夜間主コースの廃止、理工学部数理システム学科、生命医科学部及びスポーツ健康科学部の設置並びにこれにともなう学部・学科の収容定員変更及び工学部、機能分子工学科及び物質化学工学科の理工学部、機能分子・生命化学科及び化学システム創成工学科への名称変更により改正・施行する。

なお、政策学部政策学科の昼間主コース及び夜間主コース並びに工学部は、2008 年度より学生募集を停止する。ただし、各学部・学科及びコースは、当該学部・学科及びコースに在籍する学生がいなくなるまでの間存続するものとし、教育課程に関する規程は、従前によるものとする。

- 3 第 8 条の別表Ⅱの各学部教育課程表は、2008 年度第 1 年次入学生から適用し、2007 年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の教育課程表による。
- 4 第 38 条第 1 項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2008 年度入学生に適用する。2007 年度以前の入学生については、従前の学費による。

附 則

- 1 この学則は、2009 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 7 条は、心理学部心理学科の設置及びこれに伴う文学部心理学科の廃止により、改正・施行する。

第 16 条は、心理学部心理学科の設置及びこれに伴う文学部心理学科の廃止並びに学部・学科の収容定員変更により改正・施行する。

なお、文学部心理学科は、2009 年度より学生募集を停止する。ただし、文学部心理学科は、当該

学科に在籍する学生がいなくなるまでの間存続するものとし、教育課程に関する規程は、従前によるものとする。

- 3 第8条の別表Ⅱの各学部教育課程表は、2009年度第1年次入学生から適用し、2008年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の教育課程表による。
- 4 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2009年度入学生に適用する。2008年度以前の入学生については、従前の学費による。

附 則

- 1 この学則は、2010年4月1日から施行する。
- 2 第8条の別表Ⅱの各学部教育課程表は、2010年度第1年次入学生から適用し、2009年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の教育課程表による。
- 3 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2010年度入学生に適用する。2009年度以前の入学生については、従前の学費による。

附 則

- 1 この学則は、2011年4月1日から施行する。
- 2 第7条及び第16条は、グローバル・コミュニケーション学部グローバル・コミュニケーション学科の設置により、改正・施行する。
- 3 第8条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2011年度第1年次入学生から適用し、2010年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。

附 則

- 1 この学則は、2012年4月1日から施行する。
- 2 第8条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2012年度第1年次入学生から適用し、2011年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。

附 則

- 1 この学則は、2013年4月1日から施行する。
- 2 第7条は、グローバル地域文化学部グローバル地域文化学科の設置により、改正・施行する。
第16条は、学部・学科の収容定員変更、商学部商学科の昼間主コース及び夜間主コースの廃止並びにグローバル地域文化学部グローバル地域文化学科の設置により、改正・施行する。

なお、商学部商学科の昼間主コース及び夜間主コースは、2013年度より学生募集を停止する。ただし、当該コースは、当該コースに在籍する学生がいなくなるまでの間存続するものとし、教育課程に関する規程は、従前によるものとする。

- 3 第8条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2013年度第1年次入学生から適用し、2012年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。

附 則

- 1 この学則は、2014年4月1日から施行する。
- 2 第8条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2014年度第1年次入学生から適用し、2013年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。

附 則

この学則は、2014年11月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、2015年4月1日から施行する。
- 2 第8条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2015年度第1年次入学生から適用し、2014年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。
- 3 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2015年度入学生に適用する。2014年度以前の入学生については、従前の学費による。

附 則

- 1 この学則は、2016年4月1日から施行する。
- 2 留学生別科は、2016年度より学生募集を停止する。ただし、当該組織に在籍する学生がいなくなるまでの間存続するものとし、教育課程に関する規程は、従前によるものとする。
- 3 第8条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2016年度第1年次入学生から適用し、2015年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。
- 4 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2016年度入学生に適用する。2015年度以前の入学生については、従前の学費による。

附 則

この学則は、2016年5月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、2017年4月1日から施行する。

- 2 第8条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2017年度第1年次入学生から適用し、2016年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。
- 3 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2017年度入学生に適用する。2016年度以前の入学生については、従前の学費による。

附 則

この学則は、2017年10月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、2018年4月1日から施行する。
- 2 第8条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2018年度第1年次入学生から適用し、2017年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。
- 3 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2018年度入学生に適用する。2017年度以前の入学生については、従前の学費による。

附 則

- 1 この学則は、2019年4月1日から施行する。
- 2 第8条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2019年度第1年次入学生から適用し、2018年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。
- 3 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2019年度入学生に適用する。2018年度以前の入学生については、従前の学費による。

なお、再入学生の入学金に関する規定のただし書きについては、2020年4月1日以降に再入学する学生に適用する。

- 4 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、特別在籍料については、2019年4月1日以降に派遣を決定する学生に適用する。

附 則

- 1 この学則は、2020年4月1日から施行する。
- 2 第7条及び第16条は、理工学部エネルギー機械工学科の名称変更により改正・施行する。
なお、理工学部エネルギー機械工学科は、2020年度より学生募集を停止する。ただし、当該学科は、当該学科に在籍する学生がいなくなるまでの間存続するものとし、教育課程に関する規程は、従前によるものとする。
- 3 第8条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2020年度第1年次入学生から適用し、

2019 年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。

- 4 第 38 条第 1 項の別表 I に定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2020 年度入学生に適用する。2019 年度以前の入学生については、従前の学費による。

附 則

- 1 この学則は、2021 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 8 条の別表 II の各学部人材養成目的及び教育課程表は、2021 年度第 1 年次入学生から適用し、2020 年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。

附 則

- 1 この学則は、2022 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 8 条の別表 II の各学部人材養成目的及び教育課程表は、2022 年度第 1 年次入学生から適用し、2021 年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。
- 3 第 26 条に規定する連帯保証人は、2022 年度第 1 年次入学生から適用し、2021 年度以前の入学生については、従前の規程による。

附 則

- 1 この学則は、2023 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 8 条の別表 II の各学部人材養成目的及び教育課程表は、2023 年度第 1 年次入学生から適用し、2022 年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。
- 3 第 26 条第 2 項に規定する極度額は、2023 年度第 1 年次入学生から適用する。2022 年度の入学生については、従前の規定による。
- 4 第 38 条第 1 項の別表 I に定める学費のうち、入学金、授業料及び教育充実費については、2023 年度入学生に適用する。2022 年度以前の入学生については、従前の学費による。

別表Ⅰ 学 費

入学金，授業料及び教育充実費

(年額)

		入 学 金	授 業 料	教育充実費
神 学 部 文 学 部 社 会 学 部 法 学 部 経 済 学 部 商 学 部 政 策 学 部 グ ロ ー バ ル 地 域 文 化 学 部	第 1 年次	200,000 円	753,000 円	162,000 円
	第 2 年次		953,000 円	162,000 円
	第 3 年次		953,000 円	162,000 円
	第 4 年次		953,000 円	162,000 円
文 化 情 報 学 部	第 1 年次	200,000 円	862,000 円	175,000 円
	第 2 年次		1,062,000 円	175,000 円
	第 3 年次		1,062,000 円	175,000 円
	第 4 年次		1,062,000 円	175,000 円
理 工 学 部 (数理システム学科を除く) 生 命 医 科 学 部	第 1 年次	200,000 円	1,250,000 円	245,000 円
	第 2 年次		1,450,000 円	245,000 円
	第 3 年次		1,450,000 円	245,000 円
	第 4 年次		1,450,000 円	245,000 円
理 工 学 部 (数理システム学科)	第 1 年次	200,000 円	1,173,000 円	245,000 円
	第 2 年次		1,373,000 円	245,000 円
	第 3 年次		1,373,000 円	245,000 円
	第 4 年次		1,373,000 円	245,000 円

ス ポ ー ツ 健 康 科 学 部	第 1 年次	200,000 円	895,000 円	175,000 円
	第 2 年次		1,095,000 円	175,000 円
	第 3 年次		1,095,000 円	175,000 円
	第 4 年次		1,095,000 円	175,000 円
心 理 学 部	第 1 年次	200,000 円	912,000 円	183,000 円
	第 2 年次		1,112,000 円	183,000 円
	第 3 年次		1,112,000 円	183,000 円
	第 4 年次		1,112,000 円	183,000 円
グ ロ ー バ ル ・ コミュニケーション学部	第 1 年次	200,000 円	862,000 円	183,000 円
	第 2 年次		1,062,000 円	183,000 円
	第 3 年次		1,062,000 円	183,000 円
	第 4 年次		1,062,000 円	183,000 円

- (1) 授業料及び教育充実費については、各々2分の1を春学期学費及び秋学期学費とする。
- (2) 4年を超えて在籍した場合(再修生)の学費は、第4年次の学費を適用する。
- (3) 転入学生及び編入学生の入学金は、200,000円とし、授業料及び教育充実費は、転入学又は編入学を許可された年次に在籍する学生と同額とする。ただし、本学卒業生に限り、入学金は2分の1とする。
- (4) 再入学生の入学金は、100,000円とし、授業料及び教育充実費は、再入学を許可された年次に在籍する学生と同額とする。ただし、学費未納により学年末をもって除籍された者が翌年度4月30日までに再入学手続をする場合及び春学期末をもって除籍された者が次の秋学期10月31日までに再入学手続をする場合の入学金は、50,000円とする。

特別在籍料

ダブルディグリープログラムによる留学期間	特別在籍料
1 年	300,000 円
1 学期	150,000 円

休学在籍料

休 学 期 間	休学在籍料
1 年	120,000 円
半 年	60,000 円

- ・ 母国における兵役義務による休学が認められた者は、休学在籍料の納入を要しない。

別表 I の 2 履 修 料

履 修 登 録 料	全 学 部	25,000 円
履 修 料 (1 単位につき)	神, 文, 社会, 法, 経済, 商, 政策, グローバル地域文化学部	21,000 円
	文化情報, スポーツ健康科学部	23,000 円
	理工, 生命医科学部	31,000 円
	心理, グローバル・ コミュニケーション学部	24,000 円

- (1) 履修料の総額が当該年度の第 1 年次の「授業料及び教育充実費の合計額」を超える場合は、その額にとどめる。
- (2) 本学出身者及び前年度から継続の履修生の履修登録料は、2 分の 1 とする。
- (3) 学期をまたがって履修する場合、履修登録料は、重複して徴収しない。
- (4) 複数の学部に応願する場合、履修登録料は、重複して徴収しない。

別表 I の 3 聴 講 料

聴 講 登 録 料	全 学 部	25,000 円
聴 講 料 (1 単位につき)	神, 文, 社会, 法, 経済, 商, 政策, グローバル地域文化学部	14,000 円
	文化情報, スポーツ健康科学部	15,000 円
	理工, 生命医科学部	21,000 円
	心理, グローバル・ コミュニケーション学部	16,000 円

- (1) 聴講料の総額が当該年度の第 1 年次の「授業料及び教育充実費の合計額」を超える場合は、その額にとどめる。
- (2) 本学出身者及び前年度から継続の聴講生の聴講登録料は、2 分の 1 とする。
- (3) 学期をまたがって聴講する場合、聴講登録料は、重複して徴収しない。
- (4) 複数の学部に応願する場合、聴講登録料は、重複して徴収しない。

別表 I の 4 外国人留学生 (特別学生) 入学金及び研修料

	入 学 金	研 修 料 (年額)	研 修 料 (年度内の在 学期間が 7 月 以内の場合)
神学部 文学部 社会学部 法学部 経済学部 商学部 政策学部 グローバル地域文化学部	25,000 円	420,000 円	210,000 円
文化情報学部 スポーツ健康科学部	25,000 円	460,000 円	230,000 円
理工学部 生命医科学部	25,000 円	620,000 円	310,000 円
心理学部 グローバル・コミュニケーション学部	25,000 円	480,000 円	240,000 円
グローバル教育センター 日本語・日本文化教育センター	25,000 円	636,000 円	318,500 円

- (1) 研修料については、2 分の 1 を春学期学費及び秋学期学費とする。
- (2) 特別学生が正規課程に進学した場合、正規課程の入学金は特別学生時の入学金相当額を差し引いた額とする。
- (3) 期間延長者（同志社大学外国人留学生内規第 4 条第 2 項該当者）については、重複して入学金を徴収しない。また、研修料は入学年度の額を適用する。
- (4) 秋学期入学者の学費については、入学年度の春学期入学者の学費を適用する。
- (5) 特別学生が、年度内に 20 単位（グローバル教育センター及び日本語・日本文化教育センターは、30 単位）を超えて学科目登録をする場合は、超過する分 1 単位につき上記入学金及び研修料のほかに、学部授業科目を登録するときは学則別表 I の 2 に定める履修料相当額を、ビジネス研究科ビジネス専攻を除く大学院授業科目を登録するときは大学院学則別表 I の 2 に定める履修料相当額を、ビジネス研究科ビジネス専攻授業科目を登録するときは専門職大学院学則別表 I の 2 に定める履修料相当額を、グローバル教育プログラム科目、日本語・日本文化教育プログラム科目及び日本語・日本文化教育科目を登録するときは学則別表 I の 2 に定める神、文、社会、法、経済、商、政策、グローバル地域文化学部の履修料相当額を研修料として納入すること。
- (6) 研修料の総額が当該年度の第 1 年次の授業料を超える場合は、その額にとどめる。
- (7) 外国の大学の教育計画で在学する特別学生又は本学と特定の外国の大学との協定により在学する特別学生その他特別の事情のある場合は、部長会の審議を経てこの学費を適用しないときがある。

別表 I の 5 入学検定料

区 分		金 額
一般選抜入学試験 推薦入学試験 転入学試験 編入学試験		35,000 円
大学入学共通テストを利用する入学試験	個別学力検査を課す場合	25,000 円
	個別学力検査を課さない場合	15,000 円
アドミッションズオフィス方式による入学者選抜	第 1 次審査	25,000 円
	第 2 次審査	10,000 円
推薦選抜入学試験 自己推薦入学試験 その他特別入学試験		35,000 円
推薦選抜入学試験における二段階選考 自己推薦入学試験における二段階選考 その他特別入学試験における二段階選考	第 1 次選考	10,000 円
	第 2 次選考	25,000 円
外国人留学生入学試験 その他外国人留学生特別入学試験 外国人留学生転入学試験 外国人留学生編入学試験	書類選考及び学部独自試験を課す場合	15,000 円
	書類選考のみの場合	10,000 円
グローバル・コミュニケーション学部 (日本語コース) 入学試験	書類選考及び学部独自試験を課す場合	15,000 円
	書類選考のみの場合	10,000 円
国際教育インスティテュート (国際教養コース) 入学試験		15,000 円

別表Ⅱ 各学部人材養成目的及び教育課程表

全学共通教養教育科目

科 目	履修単位		
日本とアジア 1	2		
日本とアジア 2	2		
スタンフォード大学科目	2		
AKP科目	2		
KCJS科目	2		
テュービンゲン大学科目	2		
建学の精神とキリスト教	2	日本近現代史	2
旧約聖書とキリスト教	2	世界近現代史	2
新約聖書とキリスト教	2	世界の宗教	2
キリスト教の歴史 1	2	Intercultural Studies	2
キリスト教の歴史 2	2	EUキャンパス特別講義	2
同志社の歴史	2	Freshman “Go Global” Program	2
同志社の良心とダイバーシティ	2	Mid-college “Be Strong” Program	4
キャリア形成支援科目		Introduction to Japanese Culture in the	2
キャリア開発と学生生活	2	Global Context	
キャリア開発の課題と方法	2	Introduction to Japanese Society in the	2
労働市場の動向とキャリア形成	2	Global Context	
インターンシップ入門	2	Introduction to the Nature of Japan and	2
メガトレンドを読む	2	Asia in Global Context	
SDGsで考える社会課題とキャリア形成	2	Humanities and Global Issues	2
働くということ	2	Social Sciences and Global Issues	2
キャリア形成とインターンシップ	2	Natural Sciences and Global Issues	2
アントレプレナーシップ論	2	Japan in Modern World History	2
国際教養科目		International Relations in the Postwar	2
国際教養基礎論 1	2	Era	
国際教養基礎論 2	2	Issues in Japanese Culture	2
比較言語文化論 1	2	Democracy and Politics : A Comparative	2
比較言語文化論 2	2	Perspective	
地域言語文化論 1	2	Education in the Age of Globalization	2
地域言語文化論 2	2	Issues in Intercultural Communication	2
メタ言語文化論 1	2	Economy and Business in the Global	2
メタ言語文化論 2	2	Context 1	
ジョイント・セミナー比較文化論	4		

Economy and Business in the Global Context 2	2	Tradition and Art in Japan 1	2
Principles of Economics	2	Tradition and Art in Japan 2	2
Environmental Economics and Sustainability	2	クールジャパン科目	2
Critical Social Issues in Contemporary Japan 1	2	Japan Today 1	2
Critical Social Issues in Contemporary Japan 2	2	Japan Today 2	2
The Divisions of Identity in Society	2	クリエイティブ・ジャパン科目	2
Statistics for the Social Sciences and Humanities	2	○人文科学系科目	
Introduction to Computer Science and Information Technology	2	宗教学(1)	2
Human Science in the Global Age	2	宗教学(2)	2
Introduction to Quantitative Data Analysis	2	哲学(1)	2
Conservation of Japanese Nature and Environment	2	哲学(2)	2
Mathematics and its History	2	倫理学(1)	2
Science of Natural Disasters	2	倫理学(2)	2
Advanced Seminar 1	2	論理学(1)	2
Advanced Seminar 2	2	論理学(2)	2
Advanced Seminar 3	2	論理的思考の基礎(1)	2
○クリエイティブ・ジャパン科目		論理的思考の基礎(2)	2
京都科目	2	論理的思考の応用(1)	2
日本の伝統と美	2	論理的思考の応用(2)	2
日本の伝統と文化	2	芸術学(1)	2
日本の伝統と芸能	2	芸術学(2)	2
日本の伝統と能楽	2	日本史(1)	2
日本の伝統と芸術	2	日本史(2)	2
Japanese Thought and Religion 1	2	東洋史(1)	2
Japanese Thought and Religion 2	2	東洋史(2)	2
		西洋史(1)	2
		西洋史(2)	2
		考古学(1)	2
		考古学(2)	2
		日本語(1)	2
		日本語(2)	2
		日本文学(1)	2

日本文学(2)	2	科学史・科学論 2	2
ドイツ文学	2	環境の科学	2
フランス文学	2	心理学 1	2
中国文学	2	心理学 2	2
スペイン文学	2	○複合領域科目	
ラテンアメリカ文学	2	複合領域科目 1	2
ロシア文学	2	複合領域科目 2	2
コリア文学	2	○プロジェクト科目	
○社会科学系科目		プロジェクト科目 1	2
法学 1	2	プロジェクト科目 2	2
法学 2	2	○外国語教育科目	
政治学 1	2	英語	
政治学 2	2	Intensive Advanced English 1	3
経済学 1	2	Intensive Advanced English 2	3
経済学 2	2	Core English (LS) - Intermediate 1	2
商学	2	Core English (LS) - Intermediate 2	2
○自然・人間科学系科目		Core English (RW) - Intermediate 1	1
データサイエンス概論	2	Core English (RW) - Intermediate 2	1
データサイエンス基礎	2	Core English (LS) - Pre-Intermediate 1	2
データエンジニアリング基礎	2	Core English (LS) - Pre-Intermediate 2	2
A I 基礎	2	Core English (RW) - Pre-Intermediate 1	1
数学 1	2	Core English (RW) - Pre-Intermediate 2	1
数学 2	2	Basic English (LS) 1	2
データサイエンス 1	2	Basic English (LS) 2	2
データサイエンス 2	2	Basic English (RW) 1	1
物質の科学 1	2	Basic English (RW) 2	1
物質の科学 2	2	General Academic English (LS) -	1
地球と宇宙の科学 1	2	Intermediate	
地球と宇宙の科学 2	2	General Academic English (RW) -	1
生命の科学 1	2	Intermediate	
生命の科学 2	2	General Academic English (LS) -	1
科学史・科学論 1	2	Pre-Intermediate	

General Academic English (RW) -	1	ドイツ語インテンシヴ V	2
Pre-Intermediate		ドイツ語インテンシヴ VI	2
English for Professional Purposes 1	1	ドイツ語文化事情 1	2
English for Professional Purposes 2	1	ドイツ語文化事情 2	2
English for Academic Purposes 1	2	ドイツ語表現法 1	2
English for Academic Purposes 2	2	ドイツ語表現法 2	2
English for Academic Purposes 3	2	言語文化原典演習(ドイツ語) 1	2
Study Abroad Preparation (TOEFL TEST) 1	2	言語文化原典演習(ドイツ語) 2	2
Study Abroad Preparation (TOEFL TEST) 2	2	現代地域事情・上級講読(ドイツ語圏) 1	2
Study Abroad Preparation (IELTS) 1	2	現代地域事情・上級講読(ドイツ語圏) 2	2
Study Abroad Preparation (IELTS) 2	2	サマープログラム・ドイツ語 A	4
サマープログラム・英語 A	4	サマープログラム・ドイツ語 B	3
サマープログラム・英語 B	3	スプリングプログラム・ドイツ語	3
サマープログラム・英語 C	2	セメスタープログラム・ドイツ語 I	4
スプリングプログラム・英語 A	4	セメスタープログラム・ドイツ語 II	4
スプリングプログラム・英語 B	3	ドイツ語会話初級 1	1
スプリングプログラム・英語 C	2	ドイツ語会話初級 2	1
スプリングプログラム・英語 D	1	ドイツ語会話中級 1	1
セメスタープログラム・英語 I	4	ドイツ語会話中級 2	1
セメスタープログラム・英語 II	4	ドイツ語会話上級 1	1
〈英語以外の外国語〉		ドイツ語会話上級 2	1
ドイツ語		フランス語	
ドイツ語入門 I	2	フランス語入門 I	2
ドイツ語入門 II	2	フランス語入門 II	2
ドイツ語応用 1	1	フランス語応用 1	1
ドイツ語応用 2	1	フランス語応用 2	1
ドイツ語応用 3	1	フランス語応用 3	1
ドイツ語応用 4	1	フランス語応用 4	1
ドイツ語インテンシヴ I	3	フランス語インテンシヴ I	3
ドイツ語インテンシヴ II	3	フランス語インテンシヴ II	3
ドイツ語インテンシヴ III	3	フランス語インテンシヴ III	3
ドイツ語インテンシヴ IV	3	フランス語インテンシヴ IV	3

フランス語インテンシヴ V	2	中国語インテンシヴ VI	2
フランス語インテンシヴ VI	2	中国語インテンシヴ VII	2
フランス語インテンシヴ VII	2	中国語インテンシヴ VIII	2
フランス語インテンシヴ VIII	2	中国語文化事情 1	2
フランス語文化事情 1	2	中国語文化事情 2	2
フランス語文化事情 2	2	中国語表現法 1	2
フランス語表現法 1	2	中国語表現法 2	2
フランス語表現法 2	2	言語文化原典演習(中国語) 1	2
言語文化原典演習(フランス語) 1	2	言語文化原典演習(中国語) 2	2
言語文化原典演習(フランス語) 2	2	現代地域事情・上級講読(中国語圏) 1	2
現代地域事情・上級講読(フランス語圏) 1	2	現代地域事情・上級講読(中国語圏) 2	2
現代地域事情・上級講読(フランス語圏) 2	2	サマープログラム・中国語 B	3
サマープログラム・フランス語	4	スプリングプログラム・中国語	1
スプリングプログラム・フランス語	3	中国語会話初級 1	1
フランス語会話初級 1	1	中国語会話初級 2	1
フランス語会話初級 2	1	中国語会話中級 1	1
フランス語会話中級 1	1	中国語会話中級 2	1
フランス語会話中級 2	1	中国語会話上級 1	1
フランス語会話上級 1	1	中国語会話上級 2	1
フランス語会話上級 2	1	スペイン語	
中国語		スペイン語入門 I	2
中国語入門 I	2	スペイン語入門 II	2
中国語入門 II	2	スペイン語応用 1	1
中国語応用 1	1	スペイン語応用 2	1
中国語応用 2	1	スペイン語応用 3	1
中国語応用 3	1	スペイン語応用 4	1
中国語応用 4	1	スペイン語インテンシヴ I	3
中国語インテンシヴ I	3	スペイン語インテンシヴ II	3
中国語インテンシヴ II	3	スペイン語インテンシヴ III	3
中国語インテンシヴ III	3	スペイン語インテンシヴ IV	3
中国語インテンシヴ IV	3	スペイン語インテンシヴ V	2
中国語インテンシヴ V	2	スペイン語インテンシヴ VI	2

スペイン語文化事情 1	2	言語文化原典演習(ロシア語) 2	2
スペイン語文化事情 2	2	現代地域事情・上級講読(ロシア語圏) 1	2
スペイン語表現法 1	2	現代地域事情・上級講読(ロシア語圏) 2	2
スペイン語表現法 2	2	サマープログラム・ロシア語	4
言語文化原典演習(スペイン語) 1	2	ロシア語会話初級 1	1
言語文化原典演習(スペイン語) 2	2	ロシア語会話初級 2	1
現代地域事情・上級講読(スペイン語圏) 1	2	ロシア語会話中級 1	1
現代地域事情・上級講読(スペイン語圏) 2	2	ロシア語会話中級 2	1
サマープログラム・スペイン語	4	ロシア語会話上級 1	1
スプリングプログラム・スペイン語 B	3	ロシア語会話上級 2	1
スペイン語会話初級 1	1	ロシア語	
スペイン語会話初級 2	1	ロシア語入門 I	2
スペイン語会話中級 1	1	ロシア語入門 II	2
スペイン語会話中級 2	1	ロシア語応用 1	1
スペイン語会話上級 1	1	ロシア語応用 2	1
スペイン語会話上級 2	1	ロシア語応用 3	1
ロシア語		ロシア語応用 4	1
ロシア語入門 I	2	ロシア語インテンシヴ I	3
ロシア語入門 II	2	ロシア語インテンシヴ II	3
ロシア語応用 1	1	ロシア語インテンシヴ III	3
ロシア語応用 2	1	ロシア語インテンシヴ IV	3
ロシア語応用 3	1	ロシア語インテンシヴ V	2
ロシア語応用 4	1	ロシア語インテンシヴ VI	2
ロシア語インテンシヴ I	3	ロシア語文化事情 1	2
ロシア語インテンシヴ II	3	ロシア語文化事情 2	2
ロシア語インテンシヴ III	3	ロシア語表現法 1	2
ロシア語インテンシヴ IV	3	ロシア語表現法 2	2
ロシア語文化事情 1	2	言語文化原典演習(ロシア語) 1	2
ロシア語文化事情 2	2	言語文化原典演習(ロシア語) 2	2
ロシア語表現法 1	2	現代地域事情・上級講読(ロシア語圏) 1	2
ロシア語表現法 2	2	現代地域事情・上級講読(ロシア語圏) 2	2
言語文化原典演習(ロシア語) 1	2	サマープログラム・ロシア語	3

スプリングプログラム・コリア語	3	日本語 1(文章表現Ⅴ)	1
コリア語会話初級 1	1	日本語 1(文章表現Ⅵ)	1
コリア語会話初級 2	1	日本語 1(文章表現Ⅶ)	1
コリア語会話中級 1	1	日本語 1(文章表現Ⅷ)	1
コリア語会話中級 2	1	日本語 1(文章表現Ⅸ)	1
コリア語会話上級 1	1	日本語 1(口頭表現AⅠ)	1
コリア語会話上級 2	1	日本語 1(口頭表現AⅡ)	1
イタリア語		日本語 1(口頭表現AⅥ)	1
基礎イタリア語Ⅰ	1	日本語 1(口頭表現AⅦ)	1
基礎イタリア語Ⅱ	1	日本語 1(口頭表現AⅧ)	1
基礎イタリア語Ⅲ	1	日本語 1(口頭表現AⅨ)	1
基礎イタリア語Ⅳ	1	日本語 1(口頭表現BⅠ)	1
○保健体育科目		日本語 1(口頭表現BⅡ)	1
スポーツ・健康の科学 A	2	日本語 1(口頭表現BⅢ)	1
スポーツ・健康の科学 B	2	日本語 1(口頭表現BⅣ)	1
スポーツ・健康の科学 C	2	日本語 1(口頭表現BⅤ)	1
スポーツ・パフォーマンス 1	1	日本語 1(口頭表現BⅥ)	1
日本語・日本文化教育科目		日本語 1(口頭表現BⅦ)	1
日本語 1(読解AⅥ)	1	日本語 1(口頭表現BⅧ)	1
日本語 1(読解AⅦ)	1	日本語 1(口頭表現BⅨ)	1
日本語 1(読解AⅧ)	1	日本語 1(文法Ⅰ)	1
日本語 1(読解AⅨ)	1	日本語 1(文法Ⅱ)	1
日本語 1(読解BⅥ)	1	日本語 1(文法Ⅲ)	1
日本語 1(読解BⅦ)	1	日本語 1(文法Ⅳ)	1
日本語 1(読解BⅧ)	1	日本語 1(文法Ⅴ)	1
日本語 1(読解BⅨ)	1	日本語 1(文法Ⅵ)	1
日本語 1(語彙Ⅵ)	1	日本語 1(文法Ⅶ)	1
日本語 1(語彙Ⅶ)	1	日本語 1(文法Ⅷ)	1
日本語 1(語彙Ⅷ)	1	日本語 1(文法Ⅸ)	1
日本語 1(語彙Ⅸ)	1	日本語 2(読解AⅥ)	1
日本語 1(文章表現Ⅲ)	1	日本語 2(読解AⅦ)	1
日本語 1(文章表現Ⅳ)	1	日本語 2(読解AⅧ)	1

日本語 2(読解A IX)	1	日本語 2(文法Ⅱ)	1
日本語 2(読解B VI)	1	日本語 2(文法Ⅲ)	1
日本語 2(読解B VII)	1	日本語 2(文法Ⅳ)	1
日本語 2(読解B VIII)	1	日本語 2(文法Ⅴ)	1
日本語 2(読解B IX)	1	日本語 2(文法Ⅵ)	1
日本語 2(語彙Ⅵ)	1	日本語 2(文法Ⅶ)	1
日本語 2(語彙Ⅶ)	1	日本語 2(文法Ⅷ)	1
日本語 2(語彙Ⅷ)	1	日本語 2(文法Ⅸ)	1
日本語 2(語彙Ⅸ)	1	ビジネス日本語 A	1
日本語 2(文章表現Ⅲ)	1	ビジネス日本語 B	1
日本語 2(文章表現Ⅳ)	1	ビジネス日本語 C	1
日本語 2(文章表現Ⅴ)	1	ビジネス日本語 D	1
日本語 2(文章表現Ⅵ)	1	日本の文学 A	2
日本語 2(文章表現Ⅶ)	1	日本の思想・宗教 1	2
日本語 2(文章表現Ⅷ)	1	日本の思想・宗教 2	2
日本語 2(文章表現Ⅸ)	1	日本の法と政治	2
日本語 2(口頭表現AⅠ)	1	日本の歴史 1	2
日本語 2(口頭表現AⅡ)	1	日本の歴史 2	2
日本語 2(口頭表現AⅥ)	1	日本の社会 1	2
日本語 2(口頭表現AⅦ)	1	日本の社会 2	2
日本語 2(口頭表現AⅧ)	1	日本の文化 1	2
日本語 2(口頭表現AⅨ)	1	日本の文化 2	2
日本語 2(口頭表現BⅠ)	1	日本の教育	2
日本語 2(口頭表現BⅡ)	1	日本の伝統と人間形成	2
日本語 2(口頭表現BⅢ)	1	日本の伝統と美	2
日本語 2(口頭表現BⅣ)	1	日本の伝統と文化	2
日本語 2(口頭表現BⅤ)	1	日本の伝統と芸能	2
日本語 2(口頭表現BⅥ)	1	日本の伝統と能楽	2
日本語 2(口頭表現BⅦ)	1	日本の伝統と芸術	2
日本語 2(口頭表現BⅧ)	1	日本の芸術 1	2
日本語 2(口頭表現BⅨ)	1	日本の芸術 2	2
日本語 2(文法Ⅰ)	1	世界の歴史 1	2

世界の歴史 2	2	聖書学演習 1	2
		聖書学演習 2	2
		聖書学演習 3	2
神 学 部		聖書学演習 4	2
神 学 科		聖書解釈演習 1	2
人材養成目的		聖書解釈演習 2	2
神学部神学科は、人類が作り上げ蓄積してきた、生きるための知恵である宗教について、とりわけキリスト教、イスラーム、ユダヤ教という中東生まれの3つの一神教とその世界について、包括的・多角的・学際的な研究をととして、人間・言語・歴史・文化・社会に対する広く深い理解と知的洞察力を身に付けて、キリスト教関連のスペシャリストや宗教に関する知識を持ったスペシャリストとして文明の共存に貢献する人材を養成することを目的とする。		聖書解釈演習 3	2
		聖書解釈演習 4	2
		新約聖書学演習 1	2
		新約聖書学演習 2	2
		新約聖書学演習 3	2
		新約聖書学演習 4	2
		キリスト教史入門 1	2
		キリスト教史入門 2	2
		中世キリスト教史	2
科 目	履修単位	歴史神学概論	2
○必修科目		日本キリスト教史 1	2
神学入門	2	日本キリスト教史 2	2
○選択科目		東南アジアのキリスト教史	2
【1 類】		近世キリスト教史 1	2
旧約聖書学入門 1	2	近世キリスト教史 2	2
旧約聖書学入門 2	2	キリスト教史特講 1	2
旧約聖書解釈学 1	2	キリスト教史特講 2	2
旧約聖書解釈学 2	2	アメリカ史における宗教	2
旧約聖書解釈学 3	2	中世キリスト教史演習	2
旧約聖書解釈学 4	2	歴史神学概論演習	2
新約聖書学入門 1	2	宗教改革の研究演習 1	2
新約聖書学入門 2	2	宗教改革の研究演習 2	2
新約聖書解釈学 1	2	宗教改革の研究演習 3	2
新約聖書解釈学 2	2	宗教改革の研究演習 4	2
聖書とその周辺 1	2	近現代キリスト教史演習 1	2
聖書とその周辺 2	2	近現代キリスト教史演習 2	2

近現代キリスト教史演習 3	2	エコ神学演習	2
近現代キリスト教史演習 4	2	エキュメニカル神学演習	2
日本キリスト教史演習 1	2	実践神学総論	2
日本キリスト教史演習 2	2	牧会カウンセリング 1	2
日本キリスト教史演習 3	2	牧会カウンセリング 2	2
日本キリスト教史演習 4	2	臨床牧会学 1	2
近世キリスト教史演習 1	2	臨床牧会学 2	2
近世キリスト教史演習 2	2	宗教と差別	2
近世キリスト教史演習 3	2	礼拝学 1	2
近世キリスト教史演習 4	2	礼拝学 2	2
ヨーロッパの宗教	2	教会教育学	2
キリスト教倫理	2	牧会学	2
現代神学	2	説教学	2
教義学 1	2	宣教学	2
教義学 2	2	賛美歌の研究	2
現代神学の論点 1	2	現代実践神学の課題 1	2
現代神学の論点 2	2	現代実践神学の課題 2	2
現代神学の論点 3	2	実践神学の課題(卒業論文演習) 1	2
現代神学の論点 4	2	実践神学の課題(卒業論文演習) 2	2
エキュメニカル神学	2	実践神学の課題(卒業論文演習) 3	2
近現代思想家の宗教観演習 1	2	実践神学の課題(卒業論文演習) 4	2
近現代思想家の宗教観演習 2	2	実践神学の課題(卒業論文演習) 5	2
近現代思想家の宗教観演習 3	2	実践神学の課題(卒業論文演習) 6	2
近現代思想家の宗教観演習 4	2	実践神学の課題(卒業論文演習) 7	2
宗教・歴史・人間(卒業論文演習) 1	2	実践神学の課題(卒業論文演習) 8	2
宗教・歴史・人間(卒業論文演習) 2	2	東南アジアのキリスト教演習	2
宗教・歴史・人間(卒業論文演習) 3	2	牧会学演習 1	2
宗教・歴史・人間(卒業論文演習) 4	2	牧会学演習 2	2
キリスト教からの展望(卒業論文演習) 1	2	教会探検隊 1	2
キリスト教からの展望(卒業論文演習) 2	2	教会探検隊 2	2
キリスト教からの展望(卒業論文演習) 3	2	メディアと宗教 1	2
キリスト教からの展望(卒業論文演習) 4	2	メディアと宗教 2	2

宗教と社会福祉 2	2	イスラームと現代社会(卒業論文演習) 3	2
宗教と社会活動	2	イスラームと現代社会(卒業論文演習) 4	2
宗教と国際社会	2	イスラーム法学演習(卒業論文演習) 1	2
アメリカ映画とキリスト教	2	イスラーム法学演習(卒業論文演習) 2	2
キャリア・ガイダンス・セミナー 1	2	イスラーム法学演習(卒業論文演習) 3	2
キャリア・ガイダンス・セミナー 2	2	イスラーム法学演習(卒業論文演習) 4	2
パイプオルガン演習 1	2	シーア派・イスラーム論 1	2
パイプオルガン演習 2	2	シーア派・イスラーム論 2	2
パイプオルガン演習 3	2	シーア派・イスラーム論 3	2
パイプオルガン演習 4	2	シーア派・イスラーム論 4	2
C CM(現代的キリスト教音楽)演習	2	イスラーム史概論 1	2
ワーシップ音楽演習	2	イスラーム史概論 2	2
アフリカン・アメリカンの霊歌演習	2	現代イスラーム社会と文化 1	2
ゴスペル音楽演習	2	現代イスラーム社会と文化 2	2
イスラーム概論 1	2	初期・古典イスラーム研究 1	2
イスラーム概論 2	2	中世・近世イスラーム研究 1	2
クルアーン・ハディース学 1	2	現代イスラームの諸問題 1	2
クルアーン・ハディース学 2	2	現代イスラームの諸問題 2	2
クルアーン・ハディース学 3	2	現代イスラーム社会と文化の演習 1	2
クルアーン・ハディース学 4	2	現代イスラーム社会と文化の演習 2	2
イスラーム法学 1	2	イスラーム社会文化演習 1	2
イスラーム法学 2	2	イスラーム社会文化演習 2	2
イスラーム法学 3	2	イスラーム社会の諸相(卒業論文演習) 1	2
イスラーム法学 4	2	イスラーム社会の諸相(卒業論文演習) 2	2
イスラーム思想 1	2	イスラーム社会の諸相(卒業論文演習) 3	2
イスラーム思想 2	2	イスラーム社会の諸相(卒業論文演習) 4	2
現代イスラーム世界 1	2	ペルシア語入門 1	2
現代イスラーム世界 2	2	ペルシア語入門 2	2
イスラーム経済学演習 1	2	ペルシア語会話 1	2
イスラーム経済学演習 2	2	ペルシア語会話 2	2
イスラームと現代社会(卒業論文演習) 1	2	ペルシア語入門 3	2
イスラームと現代社会(卒業論文演習) 2	2	ペルシア語入門 4	2

アッカドの言語と文化 1(歴史)	2	宗教人類学 2	2
アッカドの言語と文化 2(文学)	2	諸宗教とキリスト教	2
ヒッタイトの言語と文化 1(歴史)	2	キリスト教的世界観	2
ヒッタイトの言語と文化 2(文学)	2	古代イスラエル宗教史 1	2
ヘブライ語碑文 1(起源と発達)	2	古代イスラエル宗教史 2	2
ヘブライ語碑文 2(諸言語比較)	2	仏教概論 1	2
シュメールの言語と文化 1	2	仏教概論 2	2
シュメールの言語と文化 2	2	同志社とキリスト教	2
古代イスラエル史演習	2	日本宗教	2
ヒッタイト王国史演習	2	一神教研究	2
イスラエルの宗教演習	2	宗教と平和	2
古代近東学入門	2	日本宗教入門演習	2
ユダヤ学概論 1	2	一神教研究演習 1	2
ユダヤ学概論 2	2	一神教研究演習 2	2
ユダヤ学概論 3	2	宗教科教育法 A1	2
中世ユダヤ世界 1	2	宗教科教育法 A2	2
中世ユダヤ世界 2	2	宗教科教育法 B	2
ユダヤ教とその周辺文化 1	2	宗教科教育法 C	2
ユダヤ教とその周辺文化 2	2	教職実践演習(中・高)	2
アラム語 1	2	教育実習指導	1
アラム語 2	2	教育実習 A	2
アブラハム像演習 1	2	教育実習 B	2
アブラハム像演習 2	2	教育実習 C	4
モーセ像演習 1	2	アカデミック・ライティング	2
モーセ像演習 2	2	卒業論文	4
20世紀のユダヤ教演習	2	【2 類】	
ユダヤ人の祈りの演習	2	神学英語・基礎	1
ユダヤ女性演習	2	神学英語・講読 1	1
宗教研究入門	2	神学英語・講読 2	1
宗教社会学 1	2	神学英語・講読 3	1
宗教社会学 2	2	選択科目2類は、上記科目のほか、全学共通教養教育	
宗教人類学 1	2	科目の外国語教育科目の英語から履修すること。	

実用英語技能検定試験, TOEFL(Test of English as a Foreign Language), TOEIC(Test of English for International Communication)で一定水準以上の成果を修めた者は, 2 単位を限度として, 選択科目 2 類の単位に認定する。

【3 類】

神学ドイツ語 1	2
神学ドイツ語 2	2
神学ドイツ語 3	2
神学ドイツ語 4	2
神学ドイツ語 5	2
神学ドイツ語 6	2
神学ドイツ語 7	2
神学ドイツ語 8	2
アラビア語入門と文法 1	2
アラビア語入門と文法 2	2
アラビア語入門と講読 1	2
アラビア語入門と講読 2	2
アラビア語講読 1	2
アラビア語講読 2	2
アラビア語会話初級 1	2
アラビア語会話初級 2	2
アラビア語会話中級 1	2
アラビア語会話中級 2	2
聖書ヘブライ語 1	2
聖書ヘブライ語 2	2
聖書ヘブライ語 3	2
聖書ヘブライ語 4	2
聖書ヘブライ語 5	2
聖書ヘブライ語 6	2
現代ヘブライ語初級 1	2
現代ヘブライ語初級 2	2

現代ヘブライ語中級 1	2
現代ヘブライ語中級 2	2
現代ヘブライ語上級 1	2
現代ヘブライ語上級 2	2
新約ギリシア語文法 1(初級 1)	2
新約ギリシア語文法 2(初級 2)	2
新約ギリシア語実践 1(中級 1)	2
新約ギリシア語実践 2(中級 2)	2

選択科目 3 類は, 上記の科目のほか, 全学共通教養教育科目の外国語教育科目の英語以外の外国語(ドイツ語, フランス語, 中国語, スペイン語, ロシア語, コリア語, イタリア語)から履修すること。

【4 類】

選択科目 4 類は, 全学共通教養教育科目の保健体育科目から履修すること。

【5 類】

神学とコンピュータ	2
-----------	---

【6 類】

日本の憲法	2
博物館概論	2
博物館経営論	2
博物館資料論	2
博物館情報メディア論	2
博物館教育論	2
博物館資料保存論	2
博物館展示論	2
博物館実習 I	2
博物館実習 II	1
西洋美術史概説(1)	2
西洋美術史概説(2)	2
日本美術史概説(1)	2
日本美術史概説(2)	2

東洋美術史(1)	2	図書館情報学特論	2
東洋美術史(2)	2	学術情報利用教育論	2
日本美術史(1)	2	図書館情報資源特論	2
日本美術史(2)	2	図書・図書館史	2
考古学概論(1)	2	図書館演習	4
考古学概論(2)	2	学校図書館サービス論	2
民俗学(1)	2	学校教育図書館論	2
民俗学(2)	2	学校図書館メディアの構成	2
西洋文化史概説(1)	2	学習指導と学校図書館	2
西洋文化史概説(2)	2	読書と豊かな人間性	2
東洋文化史概説(1)	2	情報メディアの活用	2
東洋文化史概説(2)	2	選択科目 6 類は、上記科目のほか、全学共通教養教育科目(同志社科目, キャリア形成支援科目, 国際教養科目, クリエイティブ・ジャパン科目, 人文科学系科目, 社会科学系科目, 自然・人間科学系科目, 複合領域科目, プロジェクト科目), 日本語・日本文化教育科目(ただし, 履修は外国人留学生に限る), 他学部設置科目, 同志社女子大学単位互換科目, 早稲田大学交流協定科目, テュービンゲン大学 IE S 科目及び大学コンソーシアム京都単位互換科目から履修すること。	
日本文化史概説(1)	2		
日本文化史概説(2)	2		
歴史文化情報概説	2		
美術史学	2		
歴史文化情報論	2		
古典文化論	2		
生涯学習概論	2		
図書館情報学概論	2		
図書館制度・経営論	2		
図書館情報技術論	2	本学部が副専攻科目と認めるものにより, 副専攻パッケージを構成する。副専攻科目を履修した場合, 当該科目の単位のうち, 神学部神学科設置科目は設置されている類の単位とし, その他の科目は 6 類の単位に参入する。	
図書館情報サービス論 I	2		
図書館情報サービス論 II	2		
児童サービス論	2		
情報サービス演習 I	2		履修方法
情報サービス演習 II	2		必修科目 2 単位及び選択科目の 1 類から 68 単位以上, 2 類から 8 単位以上, 3 類から 8 単位以上, 4 類, 5 類及び 6 類から 36 単位以上を履修し, 合計 124 単位以上を履修すること。
図書館情報資源概論	2		
情報資源組織論 I	2		
情報資源組織論 II	2		
情報資源組織演習 I	2		○自由科目
情報資源組織演習 II	2	教職概論	2

教育原理	2	知識，多彩な学際的思考力・表現力，高度な領域的専門	
発達と学習の心理学	2	性を備えたグローバル人材の養成を目的としている。そ	
教育制度と学校経営	2	の学究過程で，グローバル社会に通用する実践的英語運	
学校教育社会学	2	用能力，複雑化・多様化する状況を正確に判断し，適切	
人権教育論	2	に対応しうる分析能力，問題解決能力，精緻な言語表現	
教育課程論	2	能力，さらに異文化理解に対する鋭敏な感性と柔軟な汎	
道德教育の理論と実践	2	用的思考力を身につけ，広範な視野と責任ある信条に裏	
特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2	打ちされた主体的かつ協調的行動によって，国内外にお	
教育方法とICT活用の理論と実践	2	いて広く社会貢献できる人物を養成することを目的とす	
生徒・進路指導の理論と方法	2	る。	
教育相談の理論と方法	2	科 目	履修単位
特別ニーズ教育論	2	○必修科目	
スクールインターンシップ	2	Academic Skills	2
自由科目は卒業必要単位に算入しない。		TOEFL Preparation	2
		英文学史 I	2
		英文学史 II	2
文 学 部		英語学 I	2
人材養成目的		英語学 II	2
文学部は，キリスト教主義・自由主義・国際主義に基		基礎演習 I	2
づく人間形成を根本的な教育理念として，人文学の専門		基礎演習 II	2
諸領域における教育・研究をとおして，現代のグローバ		Junior Seminar I	2
ル社会の諸課題に自立的かつ実践的に対応する力を備え		Junior Seminar II	2
た人物を養成することを目的とする。そのために，演		Senior Seminar I	2
習・ゼミなどを中心にした少人数教育をとおして，各専		Senior Seminar II	2
門分野における基礎的な知識を修得したうえで，さら		卒業論文	8
に，副専攻制度等を活用して，より幅広い有機的な教養		Listening A I	2
の涵養を目指す。		Listening A II	2
		Speaking A I	2
英 文 学 科		Speaking A II	2
人材養成目的		Reading A I	2
英文学科は，主として英米文学・英米文化，英語学・		Reading A II	2
英語教育，およびこれらの関連分野における広範な基礎		Writing A I	2

Writing A II	2	Sociocultural Topics in English A (14)	2
Oral Communication I	2	Sociocultural Topics in English A (15)	2
Oral Communication II	2	通訳入門 I	2
Reading B I	2	通訳入門 II	2
Reading B II	2	翻訳入門	2
Writing B I	2	翻訳ワークショップ	2
Writing B II	2	ビジネス英語	2
○選択科目 I		TOEIC Preparation	2
A 群		留学ワークショップ(1)	2
Media in English A (1)	2	留学ワークショップ(2)	4
Media in English A (2)	2	留学ワークショップ(3)	2
Media in English A (3)	2	English Skills(1)	2
Media in English A (4)	2	English Skills(2)	2
Media in English A (5)	2	English Skills(3)	2
Media in English A (6)	2	English Skills(4)	2
Media in English A (7)	2	English Skills(5)	2
Media in English A (8)	2	English Skills(6)	2
Media in English A (9)	2	English Skills(7)	2
Media in English A (10)	2	English Skills(8)	2
Sociocultural Topics in English A (1)	2	English Skills(9)	2
Sociocultural Topics in English A (2)	2	English Skills(10)	2
Sociocultural Topics in English A (3)	2	B 群	
Sociocultural Topics in English A (4)	2	Media in English B (1)	2
Sociocultural Topics in English A (5)	2	Media in English B (2)	2
Sociocultural Topics in English A (6)	2	Media in English B (3)	2
Sociocultural Topics in English A (7)	2	Media in English B (4)	2
Sociocultural Topics in English A (8)	2	Media in English B (5)	2
Sociocultural Topics in English A (9)	2	Media in English B (6)	2
Sociocultural Topics in English A (10)	2	Media in English B (7)	2
Sociocultural Topics in English A (11)	2	Media in English B (8)	2
Sociocultural Topics in English A (12)	2	Media in English B (9)	2
Sociocultural Topics in English A (13)	2	Media in English B (10)	2

Media in English B (11)	2	英米文化入門	2
Media in English B (12)	2	英語学入門	2
Media in English B (13)	2	英語教育学入門	2
Media in English B (14)	2	日英文化比較 (1)	2
Media in English B (15)	2	日英文化比較 (2)	2
Media in English B (16)	2	英米文学特論 A (1)	2
Media in English B (17)	2	英米文学特論 A (2)	2
Media in English B (18)	2	英米文学特論 A (3)	2
Media in English B (19)	2	英米文学特論 A (4)	2
Media in English B (20)	2	英米文学特論 A (5)	2
Sociocultural Topics in English B (1)	2	英米文学特論 A (6)	2
Sociocultural Topics in English B (2)	2	英米文学特論 A (7)	2
Sociocultural Topics in English B (3)	2	英米文学特論 A (8)	2
Sociocultural Topics in English B (4)	2	英米文学特論 A (9)	2
Sociocultural Topics in English B (5)	2	英米文学特論 A (10)	2
Sociocultural Topics in English B (6)	2	英米文学特論 A (11)	2
Sociocultural Topics in English B (7)	2	英米文学特論 A (12)	2
Sociocultural Topics in English B (8)	2	英米文学特論 A (13)	2
Sociocultural Topics in English B (9)	2	英米文学特論 A (14)	2
Sociocultural Topics in English B (10)	2	英米文学特論 A (15)	2
Sociocultural Topics in English B (11)	2	英語文化特論 A (1)	2
Sociocultural Topics in English B (12)	2	英語文化特論 A (2)	2
Sociocultural Topics in English B (13)	2	英語文化特論 A (3)	2
Sociocultural Topics in English B (14)	2	英語文化特論 A (4)	2
Sociocultural Topics in English B (15)	2	英語文化特論 A (5)	2
Sociocultural Topics in English B (16)	2	英語文化特論 A (6)	2
Sociocultural Topics in English B (17)	2	英語文化特論 A (7)	2
Sociocultural Topics in English B (18)	2	英語文化特論 A (8)	2
Sociocultural Topics in English B (19)	2	英語文化特論 A (9)	2
Sociocultural Topics in English B (20)	2	英語文化特論 A (10)	2
C 群		英語圏文学 A (1)	2
英米文学入門	2	英語圏文学 A (2)	2

英語圏文学 A (3)	2	言語学 I	2
英語圏文学 A (4)	2	言語学 II	2
英語圏文学 A (5)	2	英語教育学	2
キリスト教文学 (1)	2	E 群	
キリスト教文学 (2)	2	英米文学特論 B (1)	2
英語史 I	2	英米文学特論 B (2)	2
英語史 II	2	英米文学特論 B (3)	2
英語学特論 (1)	2	英米文学特論 B (4)	2
英語学特論 (2)	2	英米文学特論 B (5)	2
英語学特論 (3)	2	英米文学特論 B (6)	2
英語学特論 (4)	2	英米文学特論 B (7)	2
英語学特論 (5)	2	英米文学特論 B (8)	2
英語学特論 (6)	2	英米文学特論 B (9)	2
日英語対照研究 (1)	2	英米文学特論 B (10)	2
日英語対照研究 (2)	2	英米文学特論 B (11)	2
英語教育基礎論 (1)	2	英米文学特論 B (12)	2
英語教育基礎論 (2)	2	英米文学特論 B (13)	2
英語教育基礎論 (3)	2	英米文学特論 B (14)	2
英語教育基礎論 (4)	2	英米文学特論 B (15)	2
英語教育基礎論 (5)	2	英語文化特論 B (1)	2
英語科教育法 I	2	英語文化特論 B (2)	2
英語科教育法 II	2	英語文化特論 B (3)	2
英語科教育法 III	2	英語文化特論 B (4)	2
英語科教育法 IV	2	英語文化特論 B (5)	2
教育実習指導	1	英語文化特論 B (6)	2
教育実習 A	2	英語文化特論 B (7)	2
教育実習 B	2	英語文化特論 B (8)	2
教育実習 C	4	英語文化特論 B (9)	2
教職実践演習 (中・高)	2	英語文化特論 B (10)	2
D 群		英語圏文学 B (1)	2
米文学史 I	2	英語圏文学 B (2)	2
米文学史 II	2	英語圏文学 B (3)	2

英語圏文学 B (4)	2	学校教育社会学	2
英語圏文学 B (5)	2	人権教育論	2
英語統語論 I	2	教育課程論	2
英語統語論 II	2	道德教育の理論と実践	2
英語意味論 I	2	特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2
英語意味論 II	2	教育方法と I C T 活用の理論と実践	2
英語音声学・音韻論 I	2	生徒・進路指導の理論と方法	2
英語音声学・音韻論 II	2	教育相談の理論と方法	2
英語教育特論 (1)	2	スクールインターンシップ	2
英語教育特論 (2)	2	学校教育文化論 (1)	2
英語教育特論 (3)	2	学校教育文化論 (2)	2
英語教育特論 (4)	2	生涯教育計画論	2
英語教育特論 (5)	2	多文化共生社会と生涯学習	2
F 群		学校教育図書館論	2
ギリシャ語入門 I	2	読書と豊かな人間性	2
ギリシャ語入門 II	2	生涯学習概論	2
ギリシャ語講読 I	2	図書館情報学概論	2
ギリシャ語講読 II	2	図書館情報技術論	2
ラテン語入門 I	2	情報資源組織論 I	2
ラテン語入門 II	2	情報資源組織論 II	2
ラテン語講読 I	2	学術情報利用教育論	2
ラテン語講読 II	2	図書・図書館史	2
卒業論文特殊研究	4	学校図書館サービス論	2

上記科目中から、B群2単位を含み、A・B群6単位以上、D群4単位とE群4単位を含み、C・D・E群18単位以上、合わせて24単位以上を履修すること。ただし、B群は4単位を上限とする。

○選択科目Ⅱ

教職概論	2
教育原理	2
発達と学習の心理学	2
教育制度と学校経営	2

選択科目Ⅱは、上記の科目のほか、全学共通教養教育科目のうち、学科が定める科目から履修する。

外国語科目は、全学共通教養教育科目(外国語教育科目)のドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語及び韓国語から1外国語を選択し8単位を履修すること。なお、各外国語の会話科目は、外国語科目の必要要件には算入しない。

他学科、他学部設置科目、同志社女子大学単位互換科目、大学コンソーシアム京都単位互換科目及びテュービ

ンゲン大学 I E S 科目から履修した単位は、選択科目 II の単位として卒業単位に算入する。

スポーツ・パフォーマンスは、4 単位を上限として卒業単位に算入する。

以上、必修科目 60 単位、選択科目 I 及び選択科目 II (外国語科目 8 単位を含む) から 64 単位以上、合計 124 単位以上を履修すること。なお、国際専修コースについては、別途定めた国際教育インスティテュート科目から 20 単位以上(上限 30 単位)を履修すること。履修した単位は、選択科目 II の単位として算入する。

上記にかかわらず、国際教養コースについては、国際教育インスティテュートに示された履修方法に従って履修すること。

○外国人留学生科目

外国人留学生科目の履修は、外国人留学生のうち、外国人留学生入学試験により入学した者に限る。

外国人留学生科目は、日本語・日本文化教育科目のうち、日本語 1(文章表現Ⅲ～Ⅴ)、日本語 1(口頭表現 A I・II)、日本語 1(口頭表現 B I～Ⅴ)、日本語 1(文法 I～Ⅴ)、日本語 2(文章表現Ⅲ～Ⅴ)、日本語 2(口頭表現 A I・II)、日本語 2(口頭表現 B I～Ⅴ)、日本語 2(文法 I～Ⅴ)、ビジネス日本語 A、ビジネス日本語 B を除く科目から選択履修すること。

履修した単位は選択科目 II の単位に算入する。なお、日本語 1、日本語 2、ビジネス日本語 C、ビジネス日本語 D の単位は選択科目 II の外国語教育科目の単位に代えることができる。

○自由科目

特別ニーズ教育論	2
学校図書館メディアの構成	2
学習指導と学校図書館	2
情報メディアの活用	2

図書館制度・経営論	2
図書館情報サービス論 I	2
図書館情報サービス論 II	2
児童サービス論	2
情報サービス演習 I	2
情報サービス演習 II	2
図書館情報資源概論	2
情報資源組織演習 I	2
情報資源組織演習 II	2
図書館情報学特論	2
図書館情報資源特論	2
図書館演習	4

自由科目は卒業単位に算入しない。

哲 学 科

人材養成目的

哲学科は、西洋の哲学、倫理学、宗教などの歴史、思想、意義について、古典の講読、精神史の研究及び現代の諸問題の批判的検討・討論をとおして、基礎的な教養を土台にして、世界と人間の意味を根本的原則的に考えぬく力や正しく行動する力、さらに社会の問題を的確に把握分析する力を身につけて、教育、文化、メディアをはじめ、公共機関や国際機関など、さらに広く産業界全体において活躍する人物を養成することを目的とする。

科 目	履修単位
○必修科目	
人文演習(1)	2
人文演習(2)	2
哲学基礎演習(1)	2
哲学基礎演習(2)	2
演習 I (1)	2
演習 I (2)	2

哲学概論(1)	2	西洋古代中世哲学史(1)	2
哲学概論(2)	2	西洋古代中世哲学史(2)	2
倫理学概論(1)	2	西洋近世哲学史(1)	2
倫理学概論(2)	2	西洋近世哲学史(2)	2
演習Ⅱ(1)	2	西洋倫理学史(1)	2
演習Ⅱ(2)	2	西洋倫理学史(2)	2
卒業論文	12	キリスト教精神史(1)	2
○選択科目Ⅰ		キリスト教精神史(2)	2
A 群(講読系科目)		B群から8単位以上履修すること。	
英書講読入門Ⅰ	1	C 群(領域系科目)	
英書講読入門Ⅱ	1	近代哲学(1)	2
英書講読Ⅰ	2	近代哲学(2)	2
英書講読Ⅱ	2	現代哲学(1)	2
英書講読Ⅲ	2	現代哲学(2)	2
英書講読Ⅳ	2	科学哲学(1)	2
独書講読入門Ⅰ	1	科学哲学(2)	2
独書講読入門Ⅱ	1	歴史哲学(1)	2
独書講読Ⅰ	2	歴史哲学(2)	2
独書講読Ⅱ	2	社会哲学(1)	2
独書講読Ⅲ	2	社会哲学(2)	2
独書講読Ⅳ	2	宗教哲学(1)	2
仏書講読入門Ⅰ	1	宗教哲学(2)	2
仏書講読入門Ⅱ	1	社会倫理学(1)	2
仏書講読Ⅰ	2	社会倫理学(2)	2
仏書講読Ⅱ	2	教育哲学(1)	2
仏書講読Ⅲ	2	教育哲学(2)	2
仏書講読Ⅳ	2	哲学特論(1)	2
ラテン語講読Ⅰ	2	哲学特論(2)	2
ラテン語講読Ⅱ	2	倫理学特論(1)	2
A群から2言語を選択し、ひとつの言語につき2単位以上履修したうえで、8単位以上履修すること。		倫理学特論(2)	2
B 群(思想史系科目)		宗教学特論(1)	2
		宗教学特論(2)	2

C群から16単位以上履修すること。		特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2
D 群(複合領域系科目)		教育方法とICT活用の理論と実践	2
宗教学(1)	2	生徒・進路指導の理論と方法	2
宗教学(2)	2	教育相談の理論と方法	2
仏教学(1)	2	教育実習指導	1
仏教学(2)	2	教育実習 A	2
東洋哲学思想史(1)	2	教育実習 B	2
東洋哲学思想史(2)	2	教育実習 C	4
東洋倫理思想史(1)	2	教職実践演習(中・高)	2
東洋倫理思想史(2)	2	スクールインターンシップ	2
ラテン語入門 I	2	学校教育文化論(1)	2
ラテン語入門 II	2	学校教育文化論(2)	2
ギリシャ語入門 I	2	生涯教育計画論	2
ギリシャ語入門 II	2	多文化共生社会と生涯学習	2
ギリシャ語講読 I	2	学校教育図書館論	2
ギリシャ語講読 II	2	読書と豊かな人間性	2
D群から4単位以上履修すること。		生涯学習概論	2
○選択科目II		図書館情報学概論	2
教職概論	2	図書館情報技術論	2
教育原理	2	情報資源組織論 I	2
発達と学習の心理学	2	情報資源組織論 II	2
教育制度と学校経営	2	学術情報利用教育論	2
学校教育社会学	2	図書・図書館史	2
人権教育論	2	学校図書館サービス論	2
教育課程論	2	日本文化史概説(1)	2
社会科・地理歴史科教育法	2	日本文化史概説(2)	2
社会科・公民科教育法	2	日本史学史(1)	2
社会科教育法 1	2	日本史学史(2)	2
社会科教育法 2	2	日本美術史(1)	2
地理歴史科教育法	2	日本美術史(2)	2
公民科教育法	2	日本社会史(1)	2
道德教育の理論と実践	2	日本社会史(2)	2

考古学概論(1)	2	修する。
考古学概論(2)	2	○選択科目Ⅲ
西洋文化史概説(1)	2	選択科目Ⅱのうち、全学共通教養教育科目(外国語教育科目)の英語、ドイツ語、フランス語から2外国語を
西洋文化史概説(2)	2	選択し、各8単位、合計16単位以上を履修すること。
東洋文化史概説(1)	2	以上、必修科目36単位(卒業論文12単位を含む)、選
東洋文化史概説(2)	2	択科目Ⅰ36単位以上、選択科目Ⅲ16単位以上、合計124
西洋社会史(1)	2	単位以上を履修すること。なお、国際専修コースについ
西洋社会史(2)	2	ては、別途定めた国際教育インスティテュート科目から
西洋古代史(1)	2	20単位以上(上限30単位)を履修すること。履修した単
西洋古代史(2)	2	位は、選択科目Ⅱの単位として算入する。
西洋中世史(1)	2	上記にかかわらず、国際教養コースについては、国際
西洋中世史(2)	2	教育インスティテュートに示された履修方法に従って
西洋近代史(1)	2	履修すること。
西洋近代史(2)	2	○外国人留学生科目
アメリカ史(1)	2	外国人留学生科目の履修は、外国人留学生のうち、外
アメリカ史(2)	2	国人留学生入学試験により入学した者に限る。
東洋美術史(1)	2	外国人留学生科目は、日本語・日本文化教育科目のう
東洋美術史(2)	2	ち、日本語1(文章表現Ⅲ～Ⅴ)、日本語1(口頭表現A
人文地理学(1)	2	I・II)、日本語1(口頭表現B I～Ⅴ)、日本語1(文法
人文地理学(2)	2	I～Ⅴ)、日本語2(文章表現Ⅲ～Ⅴ)、日本語2(口頭表
地理学総論(1)	2	現A I・II)、日本語2(口頭表現B I～Ⅴ)、日本語2
地理学総論(2)	2	(文法 I～Ⅴ)、ビジネス日本語A、ビジネス日本語Bを
地誌学	2	除く科目から選択履修すること。
日本の憲法	2	履修した単位のうち、日本語1、日本語2、ビジネス
社会学概論	4	日本語C、ビジネス日本語Dを除く科目の単位は選択科
経済原論	4	目Ⅱの単位に算入する。日本語1、日本語2、ビジネス
心理学概論(1)	2	日本語C、ビジネス日本語Dの単位は、8単位を上限と
心理学概論(2)	2	して選択科目Ⅲの外国語教育科目の単位として参入す
選択科目Ⅱは、上記の科目のほか、全学共通教養教育		る。
科目(「宗教学(1)、(2)」を除く)、他学部・他学科科目、		○自由科目
同志社女子大学単位互換科目、大学コンソーシアム京都		特別ニーズ教育論
単位互換科目及びチュービンゲン大学 I E S 科目から履		2

学校図書館メディアの構成	2	美学概論(1)	2
学習指導と学校図書館	2	美学概論(2)	2
情報メディアの活用	2	芸術学概論(1)	2
図書館制度・経営論	2	芸術学概論(2)	2
図書館情報サービス論 I	2	芸術史概論(1)	2
図書館情報サービス論 II	2	芸術史概論(2)	2
児童サービス論	2	英書講読(1)	2
情報サービス演習 I	2	英書講読(2)	2
情報サービス演習 II	2	演習 I (1)	2
図書館情報資源概論	2	演習 I (2)	2
情報資源組織演習 I	2	演習 II (1)	2
情報資源組織演習 II	2	演習 II (2)	2
図書館情報学特論	2	卒業論文	12
図書館情報資源特論	2	○選択科目 I	
図書館演習	4	A 群	
教職コンピュータ基礎	2	独書講読(1)	2
自由科目は卒業単位に算入しない。		独書講読(2)	2
		仏書講読(1)	2
		仏書講読(2)	2
		漢文講読(1)	2
		漢文講読(2)	2
美 学 芸 術 学 科			
人材養成目的		A群から独書、仏書、漢文のうちいずれかを選択し、4	
美学芸術学科は、美学・芸術学・芸術史（美術史）の三領域について、美や芸術の本質や多様性、様々な芸術ジャンルの原理、及び作品の歴史を総合的に学ぶことをとおして、今日的な問題にも対処しうる、柔軟な思考力と磨き抜かれた感性と豊かな表現力を身につけることによって、マスコミ、出版、広告、画廊、官公庁等において、さらには大学院を経て美術館や博物館、大学等において活躍しうる人物を養成することを目的とする。		単位以上履修すること。	
科 目	履修単位	B 群	
○必修科目		西洋美術史概説(1)	2
美学芸術学基礎演習 I	2	西洋美術史概説(2)	2
美学芸術学基礎演習 II	2	日本美術史概説(1)	2
		日本美術史概説(2)	2
		美学特論(1)	2
		美学特論(2)	2
		美学特論(3)	2
		美学特論(4)	2

美学特論(5)	2	音楽学概論 I	2
美学特論(6)	2	音楽学概論 II	2
芸術学特論(1)	2	文芸学概論 I	2
芸術学特論(2)	2	文芸学概論 II	2
芸術学特論(3)	2	B群から30単位以上履修すること。	
芸術学特論(4)	2	C 群	
芸術学特論(5)	2	芸術学(1)	2
芸術学特論(6)	2	芸術学(2)	2
芸術学特論(7)	2	演劇学概論 I	2
芸術学特論(8)	2	演劇学概論 II	2
芸術学特論(9)	2	映画学概論 I	2
芸術学特論(10)	2	映画学概論 II	2
東洋美術史(1)	2	デザイン理論 I	2
東洋美術史(2)	2	デザイン理論 II	2
美術史特論(1)	2	芸術批評論 I	2
美術史特論(2)	2	芸術批評論 II	2
美術史特論(3)	2	現代芸術論 I	2
美術史特論(4)	2	現代芸術論 II	2
美術史特論(5)	2	芸術情報論 I	2
美術史特論(6)	2	芸術情報論 II	2
文献講読(1)(英)	2	美学芸術学実地演習 I	2
文献講読(2)(英)	2	美学芸術学実地演習 II	2
文献講読(3)(独)	2	C群から12単位以上履修すること。	
文献講読(4)(独)	2	○選択科目Ⅱ	
文献講読(5)(仏)	2	教職概論	2
文献講読(6)(仏)	2	教育原理	2
文献講読(7)(漢)	2	発達と学習の心理学	2
文献講読(8)(漢)	2	教育制度と学校経営	2
文献講読(9)(古)	2	学校教育社会学	2
文献講読(10)(伊)	2	人権教育論	2
文献講読(11)(古)	2	教育課程論	2
文献講読(12)(伊)	2	社会科・地理歴史科教育法	2

社会科・公民科教育法	2	日本史学史(2)	2
社会科教育法 1	2	日本美術史(1)	2
社会科教育法 2	2	日本美術史(2)	2
地理歴史科教育法	2	日本社会史(1)	2
公民科教育法	2	日本社会史(2)	2
道德教育の理論と実践	2	考古学概論(1)	2
特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2	考古学概論(2)	2
教育方法とICT活用の理論と実践	2	西洋文化史概説(1)	2
生徒・進路指導の理論と方法	2	西洋文化史概説(2)	2
教育相談の理論と方法	2	東洋文化史概説(1)	2
教育実習指導	1	東洋文化史概説(2)	2
教育実習 A	2	西洋社会史(1)	2
教育実習 B	2	西洋社会史(2)	2
教育実習 C	4	西洋古代史(1)	2
教職実践演習(中・高)	2	西洋古代史(2)	2
学校教育文化論(1)	2	西洋中世史(1)	2
学校教育文化論(2)	2	西洋中世史(2)	2
生涯教育計画論	2	西洋近代史(1)	2
多文化共生社会と生涯学習	2	西洋近代史(2)	2
学校教育図書館論	2	アメリカ史(1)	2
読書と豊かな人間性	2	アメリカ史(2)	2
生涯学習概論	2	人文地理学(1)	2
図書館情報学概論	2	人文地理学(2)	2
図書館情報技術論	2	地理学総論(1)	2
情報資源組織論 I	2	地理学総論(2)	2
情報資源組織論 II	2	地誌学	2
学術情報利用教育論	2	日本の憲法	2
図書・図書館史	2	社会学概論	4
学校図書館サービス論	2	経済原論	4
日本文化史概説(1)	2	哲学概論(1)	2
日本文化史概説(2)	2	哲学概論(2)	2
日本史学史(1)	2	倫理学概論(1)	2

倫理学概論(2)	2	外国人留学生科目は、日本語・日本文化教育科目のうち、日本語1(文章表現Ⅲ～Ⅴ)、日本語1(口頭表現AⅠ・Ⅱ)、日本語1(口頭表現BⅠ～Ⅴ)、日本語1(文法Ⅰ～Ⅴ)、日本語2(文章表現Ⅲ～Ⅴ)、日本語2(口頭表現AⅠ・Ⅱ)、日本語2(口頭表現BⅠ～Ⅴ)、日本語2(文法Ⅰ～Ⅴ)、ビジネス日本語A、ビジネス日本語Bを除く科目から選択履修すること。
心理学概論(1)	2	
心理学概論(2)	2	
東洋哲学思想史(1)	2	
東洋哲学思想史(2)	2	
東洋倫理思想史(1)	2	
東洋倫理思想史(2)	2	

選択科目Ⅱは、上記の科目のほか、全学共通教養教育科目(ただし、「芸術学(1)、(2)」を除く)、他学部・他学科科目、同志社女子大学単位互換科目、大学コンソーシアム京都単位互換科目及びテュービンゲン大学IES科目のうち、学科が定める科目から履修する。

○選択科目Ⅲ

選択科目Ⅲは、全学共通教養教育科目(外国語教育科目)のうち、学科が定める科目から履修する。

英語科目から8単位履修すること。更に選択科目Ⅱよりドイツ語、フランス語、中国語、コリア語から1外国語を選択し8単位を履修すること。なお、各外国語の会話科目は選択科目Ⅲには算入しない。

以上、必修科目40単位(卒業論文12単位を含む)、選択科目Ⅰ、Ⅱから68単位以上、選択科目Ⅲから16単位以上、合計124単位を履修すること。なお、国際専修コースについては、別途定めた国際教育インスティテュート科目から20単位以上(上限30単位)を履修すること。履修した単位は、選択科目Ⅱの単位として算入する。

上記にかかわらず、国際教養コースについては、国際教育インスティテュートに示された履修方法に従って履修すること。

○外国人留学生科目

外国人留学生科目の履修は、外国人留学生のうち、外国人留学生入学試験により入学した者に限る。

履修した単位は選択科目Ⅱの単位に算入する。なお、日本語1、日本語2、ビジネス日本語C、ビジネス日本語Dの単位は選択科目Ⅲの外国語教育科目の単位に代えることができる。

○自由科目

特別ニーズ教育論	2
スクールインターンシップ	2
学校図書館メディアの構成	2
学習指導と学校図書館	2
情報メディアの活用	2
図書館制度・経営論	2
図書館情報サービス論Ⅰ	2
図書館情報サービス論Ⅱ	2
児童サービス論	2
情報サービス演習Ⅰ	2
情報サービス演習Ⅱ	2
図書館情報資源概論	2
情報資源組織演習Ⅰ	2
情報資源組織演習Ⅱ	2
図書館情報学特論	2
図書館情報資源特論	2
図書館演習	4
教職コンピュータ基礎	2

自由科目は卒業単位に算入しない。

文化史学科

人材養成目的

文化史学科は、日本や世界の歴史について、政治・経済・社会・宗教・芸術・日常生活・心性など人間活動の総体を有機的に把握する文化史的研究をとおして、幅広い歴史的知識や思考能力を身につけて、社会の諸分野において活躍する人物を養成することを目的とする。

科目

履修単位

○必修科目

文化史基礎演習(1)	2
文化史基礎演習(2)	2
文化史学概論(1)	2
文化史学概論(2)	2
日本文化史演習Ⅰ(1)	2
日本文化史演習Ⅰ(2)	2
日本文化史演習Ⅱ(1)	2
日本文化史演習Ⅱ(2)	2
演習AⅠ(1)	2
演習AⅠ(2)	2
演習AⅡ(1)	2
演習AⅡ(2)	2
西洋・東洋文化史演習Ⅰ(1)	2
西洋・東洋文化史演習Ⅰ(2)	2
西洋・東洋文化史演習Ⅱ(1)	2
西洋・東洋文化史演習Ⅱ(2)	2
演習BⅠ(1)	2
演習BⅠ(2)	2
演習BⅡ(1)	2
演習BⅡ(2)	2
卒業論文	12
日本文化史演習Ⅰ(1)・(2)、日本文化史演習Ⅱ(1)・(2)、演習AⅠ(1)・(2)、演習AⅡ(1)・(2)は日本文化	

史コースのみ、西洋・東洋文化史演習Ⅰ(1)・(2)、西洋・東洋文化史演習Ⅱ(1)・(2)、演習BⅠ(1)・(2)、演習BⅡ(1)・(2)は西洋・東洋文化史コースのみ履修できる。

○選択科目Ⅰ

A 群(日本文化史科目)

日本文化史概説(1)	2
日本文化史概説(2)	2
日本史学史(1)	2
日本史学史(2)	2
日本美術史(1)	2
日本美術史(2)	2
日本思想史(1)	2
日本思想史(2)	2
日本社会史(1)	2
日本社会史(2)	2
考古学概論(1)	2
考古学概論(2)	2
民俗学(1)	2
民俗学(2)	2
古文書学(1)	2
古文書学(2)	2
日本地域史研究(1)	2
日本地域史研究(2)	2

B 群(西洋・東洋文化史科目)

西洋文化史概説(1)	2
西洋文化史概説(2)	2
東洋文化史概説(1)	2
東洋文化史概説(2)	2
中東イスラーム史概説(1)	2
中東イスラーム史概説(2)	2
西洋思想史(1)	2

西洋思想史(2)	2	文化史特論(4)	2
西洋社会史(1)	2	文化史特論(5)	2
西洋社会史(2)	2	文化史特論(6)	2
西洋古代史(1)	2	文化史特論(7)	2
西洋古代史(2)	2	文化史特論(8)	2
西洋中世史(1)	2	文化史演習 C(1)	2
西洋中世史(2)	2	文化史演習 C(2)	2
西洋近代史(1)	2	演習 C(1)	2
西洋近代史(2)	2	演習 C(2)	2
アメリカ史(1)	2	考古学実習(1)	2
アメリカ史(2)	2	考古学実習(2)	2
中東イスラーム史特論(1)	2	博物館概論	2
中東イスラーム史特論(2)	2	博物館経営論	2
中東イスラーム史特論(3)	2	博物館資料論	2
中東イスラーム史特論(4)	2	博物館情報メディア論	2
東アジア史特論(1)	2	博物館教育論	2
東アジア史特論(2)	2	博物館資料保存論	2
東アジア史特論(3)	2	博物館展示論	2
東アジア史特論(4)	2	人文地理学(1)	2
東南・南アジア史特論(1)	2	人文地理学(2)	2
東南・南アジア史特論(2)	2	地理学総論(1)	2
東洋文化史演習(1)	2	地理学総論(2)	2
東洋文化史演習(2)	2	地誌学	2
西洋・東洋文化史実地演習	2	英書講読 A(1)	2
C 群(関連・展開科目)		英書講読 A(2)	2
キリスト教精神史(1)	2	英書講読A(1)・(2)は日本文化史コースのみ履修できる。	
キリスト教精神史(2)	2		
東洋美術史(1)	2	D 群(西洋・東洋文化史外国書講読)	
東洋美術史(2)	2	外国書講読 [英](1)	2
文化史特論(1)	2	外国書講読 [英](2)	2
文化史特論(2)	2	外国書講読 [英](3)	2
文化史特論(3)	2	外国書講読 [英](4)	2

外国書講読 〔独〕 (1)	2	社会科教育法 1	2
外国書講読 〔独〕 (2)	2	社会科教育法 2	2
外国書講読 〔独〕 (3)	2	地理歴史科教育法	2
外国書講読 〔独〕 (4)	2	公民科教育法	2
外国書講読 〔仏〕 (1)	2	道德教育の理論と実践	2
外国書講読 〔仏〕 (2)	2	特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2
外国書講読 〔仏〕 (3)	2	教育方法と I C T 活用の理論と実践	2
外国書講読 〔仏〕 (4)	2	生徒・進路指導の理論と方法	2
外国書講読 〔漢〕 (1)	2	教育相談の理論と方法	2
外国書講読 〔漢〕 (2)	2	教育実習指導	1
外国書講読 〔漢〕 (3)	2	教育実習 A	2
外国書講読 〔漢〕 (4)	2	教育実習 B	2
D群の外国書講読は西洋・東洋文化史コースのみ履修 できる。		教育実習 C	4
日本文化史コースは、A群 16 単位を含み A・B 群か ら 28 単位以上、更に A・B・C 群及び他学部、他学科の 歴史関係科目より 12 単位以上、選択科目 I 合計 40 単位 以上を履修すること。		教職実践演習(中・高)	2
西洋・東洋文化史コースは、B群から 16 単位以上、D 群から 8 単位以上、更に A・B・C 群及び他学部、他学 科の歴史関係科目より 16 単位以上、選択科目 I 合計 40 単位以上を履修すること。		スクールインターンシップ	2
○選択科目 II		学校教育文化論(1)	2
教職概論		学校教育文化論(2)	2
教育原理		生涯教育計画論	2
発達と学習の心理学		多文化共生社会と生涯学習	2
教育制度と学校経営		学校教育図書館論	2
学校教育社会学		読書と豊かな人間性	2
人権教育論		生涯学習概論	2
教育課程論		図書館情報学概論	2
社会科・地理歴史科教育法		図書館情報技術論	2
社会科・公民科教育法		情報資源組織論 I	2
		情報資源組織論 II	2
		学術情報利用教育論	2
		図書・図書館史	2
		学校図書館サービス論	2
		日本の憲法	2
		社会学概論	4
		経済原論	4

哲学概論(1)	2	択科目Ⅰ40単位以上, 選択科目Ⅱ(外国語科目)16単位	
哲学概論(2)	2	以上, 合計124単位以上を履修すること。なお, 国際専修	
倫理学概論(1)	2	コースについては, 別途定めた国際教育インスティ	
倫理学概論(2)	2	テュート科目から20単位以上(上限30単位)を履修する	
心理学概論(1)	2	こと。履修した単位は, 選択科目Ⅱの単位として算入す	
心理学概論(2)	2	る。	
東洋哲学思想史(1)	2	上記にかかわらず, 国際教養コースについては, 国際	
東洋哲学思想史(2)	2	教育インスティテュートに示された履修方法に従って履	
東洋倫理思想史(1)	2	修すること。	
東洋倫理思想史(2)	2	○外国人留学生科目	
パーソナリティ心理学(感情・人格心理学Ⅱ)	2	外国人留学生科目の履修は, 外国人留学生のうち, 外	
〈外国語教育科目〉		国人留学生入学試験により入学した者に限る。	
イタリア語(文化史)		外国人留学生科目は, 日本語・日本文化教育科目のう	
イタリア語入門Ⅰ(文化史)	2	ち, 日本語1(文章表現Ⅲ～Ⅴ), 日本語1(口頭表現A	
イタリア語入門Ⅱ(文化史)	2	Ⅰ・Ⅱ), 日本語1(口頭表現BⅠ～Ⅴ), 日本語1(文法	
イタリア語応用1(文化史)	1	Ⅰ～Ⅴ), 日本語2(文章表現Ⅲ～Ⅴ), 日本語2(口頭表	
イタリア語応用2(文化史)	1	現AⅠ・Ⅱ), 日本語2(口頭表現BⅠ～Ⅴ), 日本語2	
イタリア語応用3(文化史)	1	(文法Ⅰ～Ⅴ), ビジネス日本語A, ビジネス日本語Bを	
イタリア語応用4(文化史)	1	除く科目から選択履修すること。	
選択科目Ⅱは, 上記の科目のほか, 全学共通教養教育		履修した単位は選択科目Ⅱの単位に算入する。なお,	
科目, 他学部・他学科科目, 同志社女子大学単位互換科		日本語1, 日本語2, ビジネス日本語C, ビジネス日本	
目, 大学コンソーシアム京都単位互換科目及びテュービ		語Dの単位は選択科目Ⅱの外国語教育科目の単位に代え	
ンゲン大学ⅠES科目のうち, 学科が定める科目から履		ることができる。	
修する。		○自由科目	
外国語教育科目は, 英語から8単位履修すること。更		特別ニーズ教育論	2
に日本文化史コースはドイツ語, フランス語, 中国語,		学校図書館メディアの構成	2
スペイン語, ロシア語, コリア語から1外国語を選択し		学習指導と学校図書館	2
8単位以上を履修すること。西洋・東洋文化史コースはド		情報メディアの活用	2
イツ語, フランス語, 中国語, スペイン語, ロシア語, コ		図書館制度・経営論	2
リア語, および上記のイタリア語(文化史)から1外国語		図書館情報サービス論Ⅰ	2
を選択し8単位以上を履修すること。		図書館情報サービス論Ⅱ	2
以上, 必修科目36単位(卒業論文12単位を含む), 選		児童サービス論	2

情報サービス演習 I	2	○選択科目 I	
情報サービス演習 II	2	A 群(講読科目)	
図書館情報資源概論	2	日本文学講読(上代A)	2
情報資源組織演習 I	2	日本文学講読(上代B)	2
情報資源組織演習 II	2	日本文学講読(上代C)	2
図書館情報学特論	2	日本文学講読(上代D)	2
図書館情報資源特論	2	日本文学講読(中古A)	2
図書館演習	4	日本文学講読(中古B)	2
教職コンピュータ基礎	2	日本文学講読(中古C)	2
博物館実習 I	2	日本文学講読(中古D)	2
博物館実習 II	1	日本文学講読(中世A)	2
自由科目は卒業単位に算入しない。		日本文学講読(中世B)	2
		日本文学講読(中世C)	2
		日本文学講読(中世D)	2
国 文 学 科		日本文学講読(近世A)	2
人材養成目的		日本文学講読(近世B)	2
国文学科は、古代から現代に至る幅広い時代の知の結晶である日本文学と日本語について、実証的かつ理論的に探求し、日本文化についての理解を深めることをとおして、精緻な読解力、卓越した自己表現力、知識や情報の創造的な運用能力を備えた、世界と真に対話できる総合的な人間力を身につけて、教育界、マスコミ・出版界をはじめとする、広範な分野で社会に貢献し、国際化にも対応できる人物を養成することを目的とする。		日本文学講読(近世C)	2
		日本文学講読(近世D)	2
		日本文学講読(近現代A)	2
		日本文学講読(近現代B)	2
		日本文学講読(近現代C)	2
		日本文学講読(近現代D)	2
		日本文学講読(広域A)	2
		日本文学講読(広域B)	2
		日本文学講読(広域C)	2
○必修科目		日本文学講読(広域D)	2
日本文学基礎演習(1)	2	日本語学講読(A)	2
日本文学基礎演習(2)	2	日本語学講読(B)	2
日本文学研究演習(1)	2	日本語学講読(C)	2
日本文学研究演習(2)	2	日本語学講読(D)	2
演習 I	4	A群から14単位以上履修すること。	
演習 II	4	B 群(特殊講義科目)	
卒業論文	12		

日本文学特殊講義(上代A)	2	日本文学史(1)	2
日本文学特殊講義(上代B)	2	日本文学史(2)	2
日本文学特殊講義(上代C)	2	日本語学概論(1)	2
日本文学特殊講義(上代D)	2	日本語学概論(2)	2
日本文学特殊講義(中古A)	2	日本語史(1)	2
日本文学特殊講義(中古B)	2	日本語史(2)	2
日本文学特殊講義(中古C)	2	日本語文法(1)	2
日本文学特殊講義(中古D)	2	日本語文法(2)	2
日本文学特殊講義(中世A)	2	漢文(1)	2
日本文学特殊講義(中世B)	2	漢文(2)	2
日本文学特殊講義(中世C)	2	言語学概論(1)	2
日本文学特殊講義(中世D)	2	言語学概論(2)	2
日本文学特殊講義(近世A)	2	書道(1)	2
日本文学特殊講義(近世B)	2	書道(2)	2
日本文学特殊講義(近世C)	2	漢文学概論(1)	2
日本文学特殊講義(近世D)	2	漢文学概論(2)	2
日本文学特殊講義(近現代A)	2	国語科教育法 A1	2
日本文学特殊講義(近現代B)	2	国語科教育法 A2	2
日本文学特殊講義(近現代C)	2	国語科教育法 B	2
日本文学特殊講義(近現代D)	2	国語科教育法 C	2
日本文学特殊講義(総合A)	2	教育実習指導	1
日本文学特殊講義(総合B)	2	教育実習 A	2
日本文学特殊講義(総合C)	2	教育実習 B	2
日本文学特殊講義(総合D)	2	教育実習 C	4
日本語学特殊講義(A)	2	教職実践演習(中・高)	2
日本語学特殊講義(B)	2	スクールインターンシップ	2
日本語学特殊講義(C)	2	C群から12単位以上履修すること。	
日本語学特殊講義(D)	2	○選択科目Ⅱ	
B群から10単位以上履修すること。		教職概論	2
C 群(基礎・教職系科目)		教育原理	2
日本文学概論(1)	2	発達と学習の心理学	2
日本文学概論(2)	2	教育制度と学校経営	2

学校教育社会学	2	中国文学, スペイン文学, ラテンアメリカ文学, ロシア
人権教育論	2	文学は 4 単位を上限として卒業単位に算入する。比較言
教育課程論	2	語文化論, 地域言語文化論, メタ言語文化論は 4 単位を
道徳教育の理論と実践	2	上限として卒業単位に算入する。
特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2	○選択科目Ⅲ
教育方法と ICT 活用の理論と実践	2	選択科目Ⅲは, 全学共通教養教育科目(外国語教育科
生徒・進路指導の理論と方法	2	目)のうち, 学科が定める科目から履修する。
教育相談の理論と方法	2	選択科目Ⅲから 8 単位以上履修すること。ただし, 英
学校教育文化論(1)	2	語科目から 4 単位を履修すること。
学校教育文化論(2)	2	各外国語の会話科目は 2 単位を上限に卒業単位に算入
生涯教育計画論	2	する。
多文化共生社会と生涯学習	2	以上, 必修科目 28 単位(卒業論文 12 単位を含む), 選
学校教育図書館論	2	択科目Ⅰ 36 単位以上, 保健体育科目 4 単位以上, 選択科
読書と豊かな人間性	2	目Ⅲ 8 単位以上(英語 4 単位以上を含む), さらに選択科
生涯学習概論	2	目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲから 48 単位以上, 合計 124 単位以上を履
図書館情報学概論	2	修すること。なお, 国際専修コースについては, 別途定
図書館情報技術論	2	めた国際教育インスティテュート科目から 20 単位以上
情報資源組織論Ⅰ	2	(上限 30 単位)を履修すること。履修した単位は, 選択科
情報資源組織論Ⅱ	2	目Ⅱの単位として算入する。
学術情報利用教育論	2	上記にかかわらず, 国際教養コースについては, 国際
図書・図書館史	2	教育インスティテュートに示された履修方法に従って履
学校図書館サービス論	2	修すること。
選択科目Ⅱは, 上記の科目のほか, 全学共通教養教育		○外国人留学生科目
科目, 他学部・他学科科目, 同志社女子大学単位互換科		外国人留学生科目の履修は, 外国人留学生のうち, 外
目, 大学コンソーシアム京都単位互換科目及びテュービ		国人留学生入学試験により入学した者に限る。
ンゲン大学 I E S 科目のうち, 学科が定める科目から履		外国人留学生科目は, 日本語・日本文化教育科目のう
修する。		ち, 日本語 1(文章表現Ⅲ～Ⅴ), 日本語 1(口頭表現 A
全学共通教養教育科目(保健体育科目)4 単位以上履修		Ⅰ・Ⅱ), 日本語 1(口頭表現 BⅠ～Ⅴ), 日本語 1(文法
すること。		Ⅰ～Ⅴ), 日本語 2(文章表現Ⅲ～Ⅴ), 日本語 2(口頭表
全学共通教養教育科目(複合領域科目)は 8 単位を上		現 AⅠ・Ⅱ), 日本語 2(口頭表現 BⅠ～Ⅴ), 日本語 2
限として卒業単位に算入する。		(文法Ⅰ～Ⅴ), ビジネス日本語 A, ビジネス日本語 B を
全学共通教養教育科目のドイツ文学, フランス文学,		除く科目から選択履修すること。

履修した単位は選択科目Ⅱの単位に算入する。なお、日本語1、日本語2、ビジネス日本語C、ビジネス日本語Dの単位は選択科目Ⅲの外国語教育科目の単位に代えることができる。

○自由科目

特別ニーズ教育論	2
学校図書館メディアの構成	2
学習指導と学校図書館	2
情報メディアの活用	2
図書館制度・経営論	2
図書館情報サービス論Ⅰ	2
図書館情報サービス論Ⅱ	2
児童サービス論	2
情報サービス演習Ⅰ	2
情報サービス演習Ⅱ	2
図書館情報資源概論	2
情報資源組織演習Ⅰ	2
情報資源組織演習Ⅱ	2
図書館情報学特論	2
図書館情報資源特論	2
図書館演習	4
教職コンピュータ基礎	2

自由科目は卒業単位に算入しない。

○副専攻履修者用科目（国文学科生は履修不可）

演習Ⅰ(1)	2
演習Ⅰ(2)	2

社 会 学 部

人材養成目的

社会学部は家族、職場、地域、国際社会に生起する生活、労働、コミュニケーション、人間形成の諸課題につ

いて、少人数教育を核とした議論と発表、文献研究、フィールドワーク、計量調査の学習をとおして、客観的で良識に基づく判断力、他者に共感し協力できる感受性、日々の努力を怠らない自制心、難題に向かう気概を身に付けて、企業、行政、マスコミ、福祉等の分野でなくてはならない人材を養成することを目的とする。

社 会 学 科

人材養成目的

社会学科は、家族・地域・組織・階層・移動・社会意識・異文化・国際社会・ネットワークについて、社会学や人類学の理論に広く深く学びつつ、計量調査やフィールドワークといった社会調査の方法論と実習を核とするカリキュラムをとおして、さまざまな社会的現実に関する情報の収集と分析の能力を身に付けて、行政や民間の各機関における立案・調査・研究といった部門等において活躍する人材を養成することを目的とする。

科 目

履修単位

○必修科目

ファーストイヤーセミナー	2
社会学概論	4
社会調査入門	2
社会学理論	4
社会学演習Ⅰ	2
社会学演習Ⅱ(1)	2
社会学演習Ⅱ(2)	2
社会学演習Ⅲ(1)	2
社会学演習Ⅲ(2)	2
卒業論文	8

○選択科目Ⅰ

専門科目群

エリアスタディ概論	2
-----------	---

社会学研究法 A	2	外国書講読(フランス語) II	2
社会学研究法 B	2	外国書講読(中国語) I	2
家族社会学	4	外国書講読(中国語) II	2
地域社会学	4	外国書講読(コリア語) I	2
国際社会学	4	外国書講読(コリア語) II	2
社会心理学	4	学部共通科目群	
社会人類学	4	社会問題論	2
教育社会学	2	マス・コミュニケーション論	2
情報社会学	2	現代社会と労働	2
仕事の社会学	2	多文化共生社会と教育文化	2
災害社会学	2	選択科目 I は、専門科目群から 40 単位以上、学部	
比較社会学	4	共通科目群から 4 単位以上を履修すること。なお、専門	
社会調査実習 I	2	科目群からは社会学研究法 A または社会学研究法 B のい	
社会調査実習 II	2	ずれか 2 単位を履修すること。	
社会統計学 I	2	○選択科目 II	
社会統計学 II	2	教職概論	2
社会学説史	2	教育原理	2
社会問題	2	教育課程論	2
文化社会学	4	発達と学習の心理学	2
ジェンダーの社会学	4	教育制度と学校経営	2
現代社会論	2	学校教育社会学	2
社会学特講 I	4	社会科・地理歴史科教育法	2
社会学特講 II	4	社会科・公民科教育法	2
現代社会学特論 I	2	社会科教育法 1	2
現代社会学特論 II	2	社会科教育法 2	2
現代社会学特論 III	2	公民科教育法	2
情報行動論	2	道德教育の理論と実践	2
産業社会学(1)	2	特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2
産業社会学(2)	2	教育方法と ICT 活用の理論と実践	2
外国書講読(ドイツ語) I	2	生徒・進路指導の理論と方法	2
外国書講読(ドイツ語) II	2	教育相談の理論と方法	2
外国書講読(フランス語) I	2	教職実践演習(中・高)	2

教育実習指導	1	西洋文化史概説(2)	2
教育実習 A	2	日本社会史(1)	2
教育実習 B	2	日本社会史(2)	2
教育実習 C	4	考古学概論(1)	2
人権教育論	2	考古学概論(2)	2
学校教育文化論(1)	2	西洋社会史(1)	2
学校教育文化論(2)	2	西洋社会史(2)	2
生涯教育計画論	2	アメリカ史(1)	2
多文化共生社会と生涯学習	2	アメリカ史(2)	2
学校教育図書館論	2	近代ヨーロッパ政治史	2
読書と豊かな人間性	2	現代ヨーロッパ政治史	2
生涯学習概論	2	経済原論	4
図書館情報学概論	2	日本経済史 1	2
図書館情報技術論	2	日本経済史 2	2
情報資源組織論 I	2	世界経済史 1	2
情報資源組織論 II	2	世界経済史 2	2
学術情報利用教育論	2	日本の憲法	2
図書・図書館史	2	心理学概論(1)	2
哲学概論(1)	2	心理学概論(2)	2
哲学概論(2)	2	選択科目Ⅱは上記科目、全学共通教養教育科目(同志	
倫理学概論(1)	2	社科目、キャリア形成支援科目、国際教養科目、クリエイ	
倫理学概論(2)	2	ティブ・ジャパン科目、人文科学系科目、社会科学系科	
人文地理学(1)	2	目、自然・人間科学系科目、複合領域科目、プロジェクト	
人文地理学(2)	2	科目、保健体育科目)、日本語・日本文化教育科目、他学	
地理学総論(1)	2	部・他学科科目、テュービンゲン大学 I E S 科目、同志社	
地理学総論(2)	2	女子大学単位互換科目及び大学コンソーシアム京都単位	
地誌学	2	互換科目から履修することができる。	
日本文化史概説(1)	2	○選択科目Ⅲ	
日本文化史概説(2)	2	Contemporary Japanese Culture and	4
東洋文化史概説(1)	2	Society	
東洋文化史概説(2)	2	Principles of Sociology	4
西洋文化史概説(1)	2	選択科目Ⅲは上記科目及び全学共通教養教育科目の外	

国語教育科目から、英語 12 単位、英語以外の外国語 4 単位、計 16 単位以上を履修すること。ただし、イタリア語は選択科目Ⅱの履修単位に算入する。各外国語の会話科目は、2 単位を上限として卒業必要単位に算入する。

○日本語・日本文化教育科目

日本語・日本文化教育科目の履修は、外国人留学生に限る。履修した単位は選択科目Ⅱの単位として算入する。なお、日本語・日本文化教育科目のうち、日本語 1(読解 AⅥ)～日本語 1(文法Ⅸ)、日本語 2(読解 AⅥ)～日本語 2(文法Ⅸ)、ビジネス日本語 C 及びビジネス日本語 D の単位を履修した場合は、選択科目Ⅲの英語以外の外国語の単位に算入する。

以上、必修科目 30 単位、選択科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲから 94 単位以上(選択科目Ⅰ 44 単位以上、選択科目Ⅲ 16 単位以上を含む)、合計 124 単位以上を履修すること。

なお、国際専修コースについては、国際教育インスティテュート科目から 20 単位以上を履修すること。履修した単位は、選択科目Ⅲの英語の単位として算入する。ただし、専門領域科目の Japanese Society and Global Culture Concentration から履修した単位は、8 単位を上限として選択科目Ⅰ B 群の単位に算入することができ

る。
上記にかかわらず、国際教養コースについては、国際教育インスティテュートに示された履修方法に従って履修すること。

○自由科目

教職コンピュータ基礎	2
図書館情報サービス論Ⅰ	2
図書館情報サービス論Ⅱ	2
図書館情報資源概論	2
図書館情報資源特論	2
図書館制度・経営論	2

児童サービス論	2
図書館情報学特論	2
情報サービス演習Ⅰ	2
情報サービス演習Ⅱ	2
情報資源組織演習Ⅰ	2
情報資源組織演習Ⅱ	2
図書館演習	4
学校図書館メディアの構成	2
学習指導と学校図書館	2
情報メディアの活用	2
学校図書館サービス論	2
特別ニーズ教育論	2
スクールインターンシップ	2
科学技術概論Ⅰ	2
科学技術概論Ⅱ	2
アウトリーチ実習	2
サイエンスライティング	2
サイエンス・ナウ 1	2
サイエンス・ナウ 2	2
サイエンス・ナウ 3	2
サイエンス・ナウ 4	2
サイエンス・ナウ 5	2
サイエンス・ナウ 6	2
サイエンス・ナウ 7	2
サイエンスとインテリジェンス	2
ビジネスワークショップ	2
メディカルワークショップ	2
取材・インタビュー実践講座	2
未知型探索ビジネスワークショップ	2
自由科目は卒業必要単位に算入しない。ただし、科学技術概論Ⅰ、科学技術概論Ⅱ、アウトリーチ実習、サイエンスライティング、サイエンス・ナウ 1、サイエン	

ス・ナウ 2, サイエンス・ナウ 3, サイエンス・ナウ 4, サイエンス・ナウ 5, サイエンス・ナウ 6, サイエンス・ナウ 7, サイエンスとインテリジェンス, ビジネスワークショップ, メディカルワークショップ, 取材・インタビュー実践講座, 未知型探索ビジネスワークショップの中から 12 単位以上を履修した場合は, 選択科目Ⅱの単位に算入する。

社 会 福 祉 学 科

人材養成目的

社会福祉学科は, 現代社会における様々な生活問題に焦点をあてて, 個人や家族への援助活動を中心とするミクロレベルから, 地域を対象とするメゾレベル, 制度や政策を考察するマクロレベルに至る多様なレベルからの思想的・理論的かつ実践的な探求を行い, 社会福祉専門職(ソーシャルワーカー)に必要な価値・知識・技術を身に付け, 様々な社会福祉の分野で活躍し, 21 世紀福祉社会に貢献する人材を養成することを目的とする。

科 目

履修単位

○必修科目

ファーストイヤーセミナー	2
社会問題論	2
福祉と人権	2
社会福祉入門	2
社会福祉学基礎演習Ⅰ	2
社会福祉学基礎演習Ⅱ	2
社会福祉学基礎演習Ⅲ	2
社会福祉学専門演習Ⅰ	2
社会福祉学専門演習Ⅱ	2
社会福祉学専門演習Ⅲ	2
社会福祉学専門演習Ⅳ	2
ソーシャルワーク基礎実習Ⅰ	2

ソーシャルワーク基礎実習Ⅱ 2

卒業論文 8

○選択科目Ⅰ

A 群

社会福祉の歴史と思想 2

国際社会福祉 4

社会保障論 4

社会福祉政策 2

社会福祉施設経営論 2

権利擁護と成年後見 2

B 群

ソーシャルワーク論Ⅰ 4

ソーシャルワーク論Ⅱ 4

ソーシャルワーク論Ⅲ 4

ソーシャルワーク演習Ⅰ 4

ソーシャルワーク演習Ⅱ 4

ソーシャルワーク基礎実習Ⅲ 2

ソーシャルワーク専門実習Ⅰ 3

ソーシャルワーク専門実習Ⅱ 3

ソーシャルワーク専門実習Ⅲ 2

ソーシャルワーク専門実習Ⅳ 2

精神保健福祉の原理 4

精神保健福祉ソーシャルワーク論Ⅰ 2

精神保健福祉ソーシャルワーク論Ⅱ 2

精神保健福祉ソーシャルワーク演習Ⅰ 2

精神保健福祉ソーシャルワーク演習Ⅱ 2

精神保健福祉ソーシャルワーク演習Ⅲ 2

精神保健福祉ソーシャルワーク実習Ⅰ 2

精神保健福祉ソーシャルワーク実習Ⅱ 2

精神保健福祉ソーシャルワーク実習Ⅲ 2

社会問題実習 4

国際社会福祉実習 4

C 群		外国書講読(中国語) I	2
NPO・ボランティア活動論	2	外国書講読(中国語) II	2
児童・家庭福祉論	2	外国書講読(コリア語) I	2
障害者福祉論	2	外国書講読(コリア語) II	2
高齢者福祉論	2	学部共通科目群	
地域福祉論	4	現代社会論	2
家族福祉論	2	マス・コミュニケーション論	2
公的扶助	2	現代社会と労働	2
医療福祉論	2	多文化共生社会と教育文化	2
司法福祉論	2	選択科目 I は、A～D群から各 4 単位以上を含めて 24	
D 群		単位以上、学部共通科目群から 4 単位以上を履修するこ	
心理学と心理的支援	2	と。	
社会学と社会システム	2	○選択科目 II	
ジェンダーと社会福祉	2	社会学概論	4
医学概論	2	学校教育社会学	2
介護概論	2	福祉科教育法 A	2
精神医学と精神医療	4	福祉科教育法 B	2
精神障害リハビリテーション論	2	教職概論	2
精神保健福祉制度論	2	教育原理	2
現代の精神保健の課題と支援	4	教育課程論	2
社会統計学 I	2	発達と学習の心理学	2
社会統計学 II	2	教育制度と学校経営	2
社会福祉調査	2	社会科・地理歴史科教育法	2
社会福祉特講 I	2	社会科・公民科教育法	2
社会福祉特講 II	2	社会科教育法 1	2
社会福祉特講 III	2	社会科教育法 2	2
外国書講読(英語) I	2	公民科教育法	2
外国書講読(英語) II	2	道德教育の理論と実践	2
外国書講読(ドイツ語) I	2	特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2
外国書講読(ドイツ語) II	2	教育方法と ICT 活用の理論と実践	2
外国書講読(フランス語) I	2	生徒・進路指導の理論と方法	2
外国書講読(フランス語) II	2	教育相談の理論と方法	2

教職実践演習(中・高)	2	西洋文化史概説(1)	2
教育実習指導	1	西洋文化史概説(2)	2
教育実習 A	2	日本社会史(1)	2
教育実習 B	2	日本社会史(2)	2
教育実習 C	4	考古学概論(1)	2
人権教育論	2	考古学概論(2)	2
学校教育文化論(1)	2	西洋社会史(1)	2
学校教育文化論(2)	2	西洋社会史(2)	2
生涯教育計画論	2	アメリカ史(1)	2
多文化共生社会と生涯学習	2	アメリカ史(2)	2
学校教育図書館論	2	近代ヨーロッパ政治史	2
読書と豊かな人間性	2	現代ヨーロッパ政治史	2
生涯学習概論	2	経済原論	4
図書館情報学概論	2	日本経済史 1	2
図書館情報技術論	2	日本経済史 2	2
情報資源組織論 I	2	世界経済史 1	2
情報資源組織論 II	2	世界経済史 2	2
学術情報利用教育論	2	日本の憲法	2
図書・図書館史	2	心理学概論(1)	2
哲学概論(1)	2	心理学概論(2)	2
哲学概論(2)	2	選択科目Ⅱから12単位以上履修すること。	
倫理学概論(1)	2	なお、選択科目Ⅱは全学共通教養教育科目(同志社科	
倫理学概論(2)	2	目、キャリア形成支援科目、国際教養科目、クリエイティ	
人文地理学(1)	2	ブ・ジャパン科目、人文科学系科目、社会科学系科目、自	
人文地理学(2)	2	然・人間科学系科目、複合領域科目、プロジェクト科目、	
地理学総論(1)	2	保健体育科目)、日本語・日本文化教育科目、他学部・他	
地理学総論(2)	2	学科科目、テュービンゲン大学 I E S 科目、同志社女子	
地誌学	2	大学単位互換科目及び大学コンソーシアム京都単位互換	
日本文化史概説(1)	2	科目からも履修することができる。	
日本文化史概説(2)	2	○選択科目Ⅲ	
東洋文化史概説(1)	2	選択科目Ⅲは全学共通教養教育科目の外国語教育科目	
東洋文化史概説(2)	2	から、英語8単位、英語以外の外国語4単位、計12単位	

以上を履修すること。ただし、イタリア語は選択科目Ⅱの履修単位に算入する。各外国語の会話科目は、2単位を上限として卒業必要単位に算入する。

○日本語・日本文化教育科目

日本語・日本文化教育科目の履修は、外国人留学生に限る。履修した単位は選択科目Ⅱの単位として算入する。なお、日本語・日本文化教育科目のうち、日本語1(読解AⅥ)～日本語1(文法Ⅸ)、日本語2(読解AⅥ)～日本語2(文法Ⅸ)、ビジネス日本語C及びビジネス日本語Dの単位を履修した場合は、選択科目Ⅲの英語以外の外国語の単位に算入する。

以上、必修科目34単位、選択科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲから90単位以上(選択科目Ⅰ28単位以上、選択科目Ⅱ12単位以上、選択科目Ⅲ12単位以上を含む)、合計124単位以上を履修すること。

なお、国際専修コースについては、国際教育インスティテュート科目から20単位以上を履修すること。履修した単位は、選択科目Ⅱ又は選択科目Ⅲの英語の単位として算入する。ただし、専門領域科目の Japanese Society and Global Culture Concentration から履修した単位は、8単位を上限として選択科目ⅠD群の単位に算入することができる。

上記にかかわらず、国際教養コースについては、国際教育インスティテュートに示された履修方法に従って履修すること。

○自由科目

教職コンピュータ基礎	2
図書館情報サービス論Ⅰ	2
図書館情報サービス論Ⅱ	2
図書館情報資源概論	2
図書館情報資源特論	2
図書館制度・経営論	2

児童サービス論	2
図書館情報学特論	2
情報サービス演習Ⅰ	2
情報サービス演習Ⅱ	2
情報資源組織演習Ⅰ	2
情報資源組織演習Ⅱ	2
図書館演習	4
学校図書館メディアの構成	2
学習指導と学校図書館	2
情報メディアの活用	2
学校図書館サービス論	2
特別ニーズ教育論	2
スクールインターンシップ	2
科学技術概論Ⅰ	2
科学技術概論Ⅱ	2
アウトリーチ実習	2
サイエンスライティング	2
サイエンス・ナウⅠ	2
サイエンス・ナウⅡ	2
サイエンス・ナウⅢ	2
サイエンス・ナウⅣ	2
サイエンス・ナウⅤ	2
サイエンス・ナウⅥ	2
サイエンス・ナウⅦ	2
サイエンスとインテリジェンス	2
ビジネスワークショップ	2
メディカルワークショップ	2
取材・インタビュー実践講座	2
未知型探索ビジネスワークショップ	2
自由科目は卒業必要単位に算入しない。ただし、科学技術概論Ⅰ、科学技術概論Ⅱ、アウトリーチ実習、サイエンスライティング、サイエンス・ナウⅠ、サイエンス・ナ	

ウ2, サイエンス・ナウ3, サイエンス・ナウ4, サイエ
 ンス・ナウ5, サイエンス・ナウ6, サイエンス・ナウ7,
 サイエンスとインテリジェンス, ビジネスワークショッ
 プ, メディカルワークショップ, 取材・インタビュー実践
 講座, 未知型探索ビジネスワークショップの中から12単
 位以上を履修した場合は, 選択科目Ⅱの単位に算入する。

メディア学科

人材養成目的

メディア学科は, 「メディアとジャーナリズム」「情報
 と社会」「コミュニケーションと文化」について, 1年
 次からの少人数ゼミと多様な講義などをおして, メディ
 アの社会的機能を知り, 報道機関・ネットなどからの情
 報を的確に読み解く能力や, 一市民として自ら情報をど
 う発信するかなどの知識を身に付けて, マスコミ業界,
 専門研究職, 情報広告関連会社を含む一般企業などに
 おいて活躍する人材を養成することを目的とする。

科 目

履修単位

○必修科目

ファーストイヤーセミナー	2
メディア学実習	2
メディア学基礎演習Ⅰ	2
メディア学基礎演習Ⅱ	2
メディア学演習Ⅰ	2
メディア学演習Ⅱ	2
メディア学演習Ⅲ	2
メディア学演習Ⅳ	2
卒業論文	8

○選択科目Ⅰ

A 群

ジャーナリズム史	2
メディア史	2

メディア・リテラシー概論	2
比較メディア論	2
ジャーナリズム論Ⅰ	2
ジャーナリズム論Ⅱ	2

B 群

ジェンダーとメディア	2
情報行動論	2
環境情報学	2
映像情報学	2
メディア社会論	2
広報情報論	2
世論と社会	2
メディア産業論	2
メディア法制倫理	2

C 群

コミュニケーション論	2
メディア文化史	2
メディア心理学Ⅰ	2
メディア心理学Ⅱ	2
現代文化論	2
広告論	2
デジタルメディア論	2
国際コミュニケーション論	2
放送論	2
メディア学社会調査法Ⅰ	2
メディア学社会調査法Ⅱ	2

D 群

社会統計学Ⅰ	2
社会統計学Ⅱ	2
社会学概論	4
社会思想史	2
外国書講読(英語)Ⅰ	2

外国書講読(英語) II	2	生徒・進路指導の理論と方法	2
外国書講読(ドイツ語) I	2	教育相談の理論と方法	2
外国書講読(ドイツ語) II	2	教職実践演習(中・高)	2
外国書講読(フランス語) I	2	教育実習指導	1
外国書講読(フランス語) II	2	教育実習 A	2
外国書講読(中国語) I	2	教育実習 B	2
外国書講読(中国語) II	2	教育実習 C	4
外国書講読(コリア語) I	2	人権教育論	2
外国書講読(コリア語) II	2	学校教育文化論(1)	2
学部共通科目群		学校教育文化論(2)	2
現代社会論	2	生涯教育計画論	2
社会問題論	2	多文化共生社会と生涯学習	2
マス・コミュニケーション論	2	学校教育図書館論	2
現代社会と労働	2	読書と豊かな人間性	2
多文化共生社会と教育文化	2	生涯学習概論	2
選択科目 I は、A～D群から 36 単位以上、学部共通		図書館情報学概論	2
科目群から 4 単位以上を履修すること。		図書館情報技術論	2
○選択科目 II		情報資源組織論 I	2
学校教育社会学	2	情報資源組織論 II	2
教職概論	2	学術情報利用教育論	2
教育原理	2	図書・図書館史	2
教育課程論	2	哲学概論(1)	2
発達と学習の心理学	2	哲学概論(2)	2
教育制度と学校経営	2	倫理学概論(1)	2
社会科・地理歴史科教育法	2	倫理学概論(2)	2
社会科・公民科教育法	2	人文地理学(1)	2
社会科教育法 1	2	人文地理学(2)	2
社会科教育法 2	2	地理学総論(1)	2
公民科教育法	2	地理学総論(2)	2
道德教育の理論と実践	2	地誌学	2
特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2	エリアスタディ概論	2
教育方法と ICT 活用の理論と実践	2	日本文化史概説(1)	2

日本文化史概説(2)	2	○選択科目Ⅲ
東洋文化史概説(1)	2	選択科目Ⅲは全学共通教養教育科目の外国語教育科目
東洋文化史概説(2)	2	から、英語8単位、英語以外の外国語8単位、計16単位
西洋文化史概説(1)	2	以上を履修すること。ただし、イタリア語は選択科目Ⅱ
西洋文化史概説(2)	2	の履修単位に算入する。各外国語の会話科目は、2単位を
日本社会史(1)	2	上限として卒業必要単位に算入する。
日本社会史(2)	2	○日本語・日本文化教育科目
考古学概論(1)	2	日本語・日本文化教育科目の履修は、外国人留学生に
考古学概論(2)	2	限る。履修した単位は選択科目Ⅱの単位として算入する。
西洋社会史(1)	2	なお、日本語・日本文化教育科目のうち、日本語1(読解
西洋社会史(2)	2	AⅥ)～日本語1(文法Ⅸ)、日本語2(読解AⅥ)～日本語
アメリカ史(1)	2	2(文法Ⅸ)、ビジネス日本語C及びビジネス日本語Dの
アメリカ史(2)	2	単位を履修した場合は、選択科目Ⅲの英語以外の外国語
近代ヨーロッパ政治史	2	の単位に算入する。
現代ヨーロッパ政治史	2	以上、必修科目24単位、選択科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲから100
経済原論	4	単位以上(選択科目Ⅰ40単位以上、選択科目Ⅱ24単位以
日本経済史 1	2	上、選択科目Ⅲ16単位以上を含む)、合計124単位以上
日本経済史 2	2	を履修すること。
世界経済史 1	2	なお、国際専修コースについては、国際教育インス
世界経済史 2	2	ティテュート科目から20単位以上を履修すること。履修
日本の憲法	2	した単位は、選択科目Ⅱ又は選択科目Ⅲの英語の単位と
心理学概論(1)	2	して算入する。ただし、専門領域科目の Japanese
心理学概論(2)	2	Society and Global Culture Concentration から履修
選択科目Ⅱから24単位以上履修すること。		した単位は、8単位を上限として選択科目ⅠD群の単位
なお、選択科目Ⅱは全学共通教養教育科目(同志社科		に算入することができる。
目、キャリア形成支援科目、国際教養科目、クリエイティ		上記にかかわらず、国際教養コースについては、国際
ブ・ジャパン科目、人文科学系科目、社会科学系科目、自		教育インスティテュートに示された履修方法に従って履
然・人間科学系科目、複合領域科目、プロジェクト科目、		修すること。
保健体育科目)、日本語・日本文化教育科目、他学部・他		○自由科目
学科科目、テュービンゲン大学IES科目、同志社女子	教職コンピュータ基礎	2
大学単位互換科目及び大学コンソーシアム京都単位互換	図書館情報サービス論Ⅰ	2
科目からも履修することができる。	図書館情報サービス論Ⅱ	2

図書館情報資源概論	2	自由科目は卒業必要単位に算入しない。ただし、科学
図書館情報資源特論	2	技術概論Ⅰ，科学技術概論Ⅱ，アウトリーチ実習，サイ
図書館制度・経営論	2	エンスライティング，サイエンス・ナウ 1，サイエン
児童サービス論	2	ス・ナウ 2，サイエンス・ナウ 3，サイエンス・ナウ
図書館情報学特論	2	4，サイエンス・ナウ 5，サイエンス・ナウ 6，サイエン
情報サービス演習Ⅰ	2	ス・ナウ 7，サイエンスとインテリジェンス，ビジネス
情報サービス演習Ⅱ	2	ワークショップ，メディカルワークショップ，取材・イ
情報資源組織演習Ⅰ	2	ンタビュー実践講座，未知型探索ビジネスワークショッ
情報資源組織演習Ⅱ	2	プの中から 12 単位以上を履修した場合は，選択科目Ⅱ
図書館演習	4	の単位に算入する。
学校図書館メディアの構成	2	
学習指導と学校図書館	2	産 業 関 係 学 科
情報メディアの活用	2	人材養成目的
学校図書館サービス論	2	産業関係学科は，雇用と労働に関する実際的問題の分
特別ニーズ教育論	2	析とその解決方法の探求について，学際的な専任教員体
スクールインターンシップ	2	制に基づく，現場に根ざした実証的・実践的な教育・研究
科学技術概論Ⅰ	2	を遂行することをとおして，「答えがまだ見つかってい
科学技術概論Ⅱ	2	ない問題」に対処するために課題発見力，読解力，思考
アウトリーチ実習	2	力，文書作成力，ヒアリング力，プレゼンテーション力
サイエンスライティング	2	を身に付けて，企業，政府・自治体，学校，労働組合等
サイエンス・ナウ 1	2	において活躍する人材を養成することを目的とする。
サイエンス・ナウ 2	2	科 目
サイエンス・ナウ 3	2	履修単位
サイエンス・ナウ 4	2	○必修科目
サイエンス・ナウ 5	2	ファーストイヤーセミナー
サイエンス・ナウ 6	2	現代社会と労働
サイエンス・ナウ 7	2	産業関係基礎論
サイエンスとインテリジェンス	2	産業関係文献演習Ⅰ
ビジネスワークショップ	2	産業関係文献演習Ⅱ
メディカルワークショップ	2	産業関係学基礎論文
取材・インタビュー実践講座	2	産業関係論(1)
未知型探索ビジネスワークショップ	2	産業関係論(2)
	2	基礎経済学(1)

基礎経済学(2)	2	産業調査実習 I	2
産業関係学演習 I	2	産業調査実習 II	2
産業関係学演習 II	2	外国書基礎講読(英語) I	2
産業関係学演習 III	2	外国書基礎講読(英語) II	2
産業関係学演習 IV	2	外国書講読(英語) I	2
卒業論文	4	外国書講読(英語) II	2
○選択科目 I		外国書講読(ドイツ語) I	2
学科専門科目群		外国書講読(ドイツ語) II	2
労働問題(1)	2	外国書講読(フランス語) I	2
労働問題(2)	2	外国書講読(フランス語) II	2
産業社会学(1)	2	外国書講読(中国語) I	2
産業社会学(2)	2	外国書講読(中国語) II	2
社会政策(1)	2	外国書講読(韓国語) I	2
社会政策(2)	2	外国書講読(韓国語) II	2
産業関係論特講 A	2	組織行動学(1)	2
産業関係論特講 B	2	組織行動学(2)	2
産業関係論特講 C	2	労働法(1)	2
産業調査統計論(1)	2	労働法(2)	2
産業調査統計論(2)	2	グローバル人的資源管理論(1)	2
社会保障法	2	グローバル人的資源管理論(2)	2
産業技術論(1)	2	実践キャリア演習	2
産業技術論(2)	2	学部共通科目群	
労働科学論(1)	2	現代社会論	2
労働科学論(2)	2	社会問題論	2
労務管理論(1)	2	マス・コミュニケーション論	2
労務管理論(2)	2	多文化共生社会と教育文化	2
労働市場論(1)	2	選択科目 I は、学科専門科目群及び全学共通教養教育	
労働市場論(2)	2	科目の「働くということ」から 34 単位以上、学部共通	
比較産業関係論(1)	2	科目群から 4 単位以上を履修すること。	
比較産業関係論(2)	2	○選択科目 II	
産業関係実習 I	2	社会学概論	4
産業関係実習 II	2	学校教育社会学	2

教職概論	2	学術情報利用教育論	2
教育原理	2	図書・図書館史	2
教育課程論	2	哲学概論(1)	2
発達と学習の心理学	2	哲学概論(2)	2
教育制度と学校経営	2	倫理学概論(1)	2
社会科・地理歴史科教育法	2	倫理学概論(2)	2
社会科・公民科教育法	2	人文地理学(1)	2
社会科教育法 1	2	人文地理学(2)	2
社会科教育法 2	2	地理学総論(1)	2
公民科教育法	2	地理学総論(2)	2
道德教育の理論と実践	2	地誌学	2
特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2	日本文化史概説(1)	2
教育方法とICT活用の理論と実践	2	日本文化史概説(2)	2
生徒・進路指導の理論と方法	2	東洋文化史概説(1)	2
教育相談の理論と方法	2	東洋文化史概説(2)	2
教職実践演習(中・高)	2	西洋文化史概説(1)	2
教育実習指導	1	西洋文化史概説(2)	2
教育実習 A	2	日本社会史(1)	2
教育実習 B	2	日本社会史(2)	2
教育実習 C	4	考古学概論(1)	2
人権教育論	2	考古学概論(2)	2
学校教育文化論(1)	2	西洋社会史(1)	2
学校教育文化論(2)	2	西洋社会史(2)	2
生涯教育計画論	2	アメリカ史(1)	2
多文化共生社会と生涯学習	2	アメリカ史(2)	2
学校教育図書館論	2	近代ヨーロッパ政治史	2
読書と豊かな人間性	2	現代ヨーロッパ政治史	2
生涯学習概論	2	経済原論	4
図書館情報学概論	2	日本経済史 1	2
図書館情報技術論	2	日本経済史 2	2
情報資源組織論 I	2	世界経済史 1	2
情報資源組織論 II	2	世界経済史 2	2

日本の憲法	2	を履修すること。
心理学概論(1)	2	なお、国際専修コースについては、国際教育インス
心理学概論(2)	2	ティテュート科目から 20 単位以上を履修すること。履修
選択科目Ⅱから 20 単位以上履修すること。		した単位は、選択科目Ⅱ又は選択科目Ⅲの英語の単位と
なお、選択科目Ⅱは全学共通教養教育科目(同志社科		して算入する。ただし、専門領域科目の Japanese
目、キャリア形成支援科目(「働くということ」を除く)、		Society and Global Culture Concentration から履修
国際教養科目、クリエイティブ・ジャパン科目、人文科学		した単位は、8 単位を上限として選択科目Ⅰ学科専門科
系科目、社会科学系科目、自然・人間科学系科目、複合領		目群の単位に算入することができる。
域科目、プロジェクト科目、保健体育科目)、日本語・日		上記にかかわらず、国際教養コースについては、国際
本文化教育科目、他学部・他学科科目、テュービンゲン大		教育インスティテュートに示された履修方法に従って履
学ⅠES科目、同志社女子大学単位互換科目及び大学コ		修すること。
ンソーシアム京都単位互換科目からも履修することがで	○自由科目	
きる。	教職コンピュータ基礎	2
○選択科目Ⅲ	図書館情報サービス論Ⅰ	2
Industrial Relations in EnglishⅠ	図書館情報サービス論Ⅱ	2
Industrial Relations in EnglishⅡ	図書館情報資源概論	2
選択科目Ⅲは上記科目及び全学共通教養教育科目の外	図書館情報資源特論	2
国語教育科目から、英語 12 単位、英語以外の外国語 8 単	図書館制度・経営論	2
位、計 20 単位以上を履修すること。ただし、イタリア	児童サービス論	2
語は選択科目Ⅱの履修単位に算入する。各外国語の会話	図書館情報学特論	2
科目は、2 単位を上限として卒業必要単位に算入する。	情報サービス演習Ⅰ	2
○日本語・日本文化教育科目	情報サービス演習Ⅱ	2
日本語・日本文化教育科目の履修は、外国人留学生に	情報資源組織演習Ⅰ	2
限る。履修した単位は選択科目Ⅱの単位として算入する。	情報資源組織演習Ⅱ	2
なお、日本語・日本文化教育科目のうち、日本語 1(読解	図書館演習	4
AⅥ)～日本語 1(文法Ⅸ)、日本語 2(読解AⅥ)～日本語	学校図書館メディアの構成	2
2(文法Ⅸ)、ビジネス日本語C及びビジネス日本語Dの	学習指導と学校図書館	2
単位を履修した場合は、選択科目Ⅲの英語以外の外国語	情報メディアの活用	2
の単位に算入する。	学校図書館サービス論	2
以上、必修科目 32 単位、選択科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲから 92	特別ニーズ教育論	2
単位以上(選択科目Ⅰ 38 単位以上、選択科目Ⅱ 20 単位以	スクールインターンシップ	2
上、選択科目Ⅲ 20 単位以上を含む)、合計 124 単位以上	科学技術概論Ⅰ	2

科学技術概論 II	2	文化間の相互理解を促進する能力を養い，多様な文化の	
アウトリーチ実習	2	中で生活し，学び，働く人々に的確な援助と指導ができ	
サイエンスライティング	2	る人材の養成を目的とする。	
サイエンス・ナウ 1	2	科 目	履修単位
サイエンス・ナウ 2	2	○コア科目	
サイエンス・ナウ 3	2	X 群	
サイエンス・ナウ 4	2	ファーストイヤーセミナー I	2
サイエンス・ナウ 5	2	ファーストイヤーセミナー II	2
サイエンス・ナウ 6	2	多文化共生社会と人間形成	2
サイエンス・ナウ 7	2	基礎演習 I	2
サイエンスとインテリジェンス	2	基礎演習 II A	2
ビジネスワークショップ	2	基礎演習 II B	2
メディカルワークショップ	2	基礎演習 II C	2
取材・インタビュー実践講座	2	基礎演習 II D	2
未知型探索ビジネスワークショップ	2	基礎演習 II E	2
自由科目は卒業必要単位に算入しない。ただし，科学		基礎演習 II F	2
技術概論 I，科学技術概論 II，アウトリーチ実習，サイ		基礎演習 II G	2
エンスライティング，サイエンス・ナウ 1，サイエン		教育文化学演習 I	2
ス・ナウ 2，サイエンス・ナウ 3，サイエンス・ナウ		教育文化学演習 II	2
4，サイエンス・ナウ 5，サイエンス・ナウ 6，サイエン		コア科目 X 群から 14 単位を履修すること。ただし，	
ス・ナウ 7，サイエンスとインテリジェンス，ビジネス		基礎演習 II A～II G から 2 単位を超えて履修した単位は，	
ワークショップ，メディカルワークショップ，取材・イ		メジャー科目の単位に算入する。	
ンタビュー実践講座，未知型探索ビジネスワークショップ		Y 群	
の中から 12 単位以上を履修した場合は，選択科目 II		教育文化学演習 III	2
の単位に算入する。		教育文化学演習 IV	2
		卒業論文	8
		卒業研究	4
教 育 文 化 学 科		卒業論文または卒業研究のいずれかを履修しなければ	
人材養成目的		ならない。なお，卒業論文を履修する場合は教育文化学演	
教育文化学科は，多文化共生社会における教育文化に		習 III 及び IV を履修すること。	
よる人間形成に着目し，異なる文化背景を持つ人間が交		○メジャー科目	
わる際に生じる諸問題を学際的な方法を用いて究明し，問		A 群	
題解決へ至る道筋を追求する活動をつうじて，学生が異			

キリスト教教育文化論(1)	2	学校教育文化論(2)	2
キリスト教教育文化論(2)	2	学校教育制度論	2
日本教育文化論(1)	2	生涯教育計画論	2
日本教育文化論(2)	2	教育哲学	2
西洋教育文化論(1)	2	教育心理学	2
西洋教育文化論(2)	2	教育行政学	2
アジア教育文化論(1)	2	教育人間学	2
アジア教育文化論(2)	2	教育社会学	2
比較教育文化論(1)	2	C 群	
比較教育文化論(2)	2	体験教育実習	2
Education and World Culture(1)	2	異文化体験実習	2
Education and World Culture(2)	2	サービスラーニング実習	2
言語教育文化論(1)	2	I C T教育実習	2
言語教育文化論(2)	2	ホリスティック教育実習	2
B 群		冒険教育実習	2
キリスト教と人間形成	2	Field Research Practicum Kyoto	2
ジェンダーと人間形成	2	Field Research Practicum Shanghai	2
家族と人間形成	2	D 群	
Topics in Character Formation and Education	2	英書講読 I A (1)	2
Topics in Multiculturalism and Education	2	英書講読 I A (2)	2
Topics in Education and Development	2	英書講読 I B (1)	2
多文化共生社会と海外教育事情	2	英書講読 I B (2)	2
多文化共生社会と教育思想	2	英書講読 I C (1)	2
多文化共生社会と教育史	2	英書講読 I C (2)	2
多文化共生社会と生涯学習	2	英書講読 II A (1)	2
多文化共生社会と人間形成特論(1)	2	英書講読 II A (2)	2
多文化共生社会と人間形成特論(2)	2	英書講読 II B (1)	2
多文化共生社会と移民教育文化(1)	2	英書講読 II B (2)	2
多文化共生社会と移民教育文化(2)	2	英書講読 II C (1)	2
学校教育文化論(1)	2	英書講読 II C (2)	2
		英書講読 III A (1)	2
		英書講読 III A (2)	2

英書講読 III B (1)	2	発達と学習の心理学	2
英書講読 III B (2)	2	教育制度と学校経営	2
独書講読 I	2	社会科・地理歴史科教育法	2
独書講読 II (1)	2	社会科・公民科教育法	2
独書講読 II (2)	2	社会科教育法 1	2
仏書講読 I	2	社会科教育法 2	2
仏書講読 II (1)	2	地理歴史科教育法	2
仏書講読 II (2)	2	公民科教育法	2
漢文古文講読 I	2	道德教育の理論と実践	2
漢文古文講読 II (1)	2	特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2
漢文古文講読 II (2)	2	教育方法と I C T 活用の理論と実践	2
メジャー科目は、A群 20 単位、B群 20 単位、C群 2 単位、D群 4 単位を含めて A～D 群から 46 単位以上(卒業研究を履修する場合は 54 単位以上)を履修すること。		生徒・進路指導の理論と方法	2
外国人留学生が、日本語・日本文化教育科目のうち、日本の教育の単位を履修した場合は、メジャー科目 B 群の履修単位に算入する。		教育相談の理論と方法	2
○選択科目 I		教職実践演習(中・高)	2
現代社会論	2	教育実習指導	1
社会問題論	2	教育実習 A	2
マス・コミュニケーション論	2	教育実習 B	2
現代社会と労働	2	教育実習 C	4
多文化共生社会と教育文化	2	人権教育論	2
選択科目 I から 4 単位以上を履修すること。		読書と豊かな人間性	2
○選択科目 II		生涯学習概論	2
社会学概論	4	図書・図書館史	2
エリアスタディ概論	2	情報資源組織論 I	2
社会人類学	4	情報資源組織論 II	2
学校教育社会学	2	図書館情報技術論	2
教職概論	2	哲学概論(1)	2
教育原理	2	哲学概論(2)	2
教育課程論	2	倫理学概論(1)	2
		倫理学概論(2)	2
		人文地理学(1)	2
		人文地理学(2)	2
		地理学総論(1)	2

地理学総論(2)	2	然・人間科学系科目, 複合領域科目, プロジェクト科目,
地誌学	2	保健体育科目), 日本語・日本文化教育科目, 他学部・他
日本文化史概説(1)	2	学科科目, テュービンゲン大学 I E S 科目, 同志社女子
日本文化史概説(2)	2	大学単位互換科目及び大学コンソーシアム京都単位互換
東洋文化史概説(1)	2	科目からも履修することができる。
東洋文化史概説(2)	2	○選択科目Ⅲ
西洋文化史概説(1)	2	全学共通教養教育科目の外国語教育科目から 8 単位以
西洋文化史概説(2)	2	上履修すること。ただし, イタリア語は選択科目Ⅱの履
日本社会史(1)	2	修単位に算入する。各外国語の会話科目は, 2 単位を上限
日本社会史(2)	2	として卒業必要単位に算入する。
考古学概論(1)	2	○日本語・日本文化教育科目
考古学概論(2)	2	日本語・日本文化教育科目の履修は, 外国人留学生に
西洋社会史(1)	2	限る。履修した単位は選択科目Ⅱの単位として算入する。
西洋社会史(2)	2	なお, 日本語・日本文化教育科目のうち, 日本語 1(読解
アメリカ史(1)	2	A VI)～日本語 1(文法Ⅸ), 日本語 2(読解 A VI)～日本語
アメリカ史(2)	2	2(文法Ⅸ), ビジネス日本語 C 及びビジネス日本語 D の
ジャーナリズム史	2	単位を履修した場合は, 選択科目Ⅲの単位に算入する。
メディア史	2	以上, コア科目 26 単位(卒業研究を履修する場合は 18
近代ヨーロッパ政治史	2	単位)に加えて, メジャー科目 46 単位以上(卒業研究を履
現代ヨーロッパ政治史	2	修する場合は 54 単位以上), 選択科目Ⅰ 4 単位以上, 選択
経済原論	4	科目Ⅱ 20 単位以上, 選択科目Ⅲ 8 単位以上を含めてメジ
日本経済史 1	2	ャー科目及び選択科目Ⅰ～Ⅲから合計 98 単位以上(卒
日本経済史 2	2	業研究を履修する場合は 106 単位以上), 合計 124 単位
世界経済史 1	2	以上を履修すること。
世界経済史 2	2	なお, 国際専修コースについては, 国際教育インス
日本の憲法	2	ティテュート科目から 20 単位以上を履修すること。履修
心理学概論(1)	2	した単位は, 選択科目Ⅲの卒業に必要な単位数を満たし
心理学概論(2)	2	ていない場合は選択科目Ⅲの単位として, 選択科目Ⅲの
選択科目Ⅱから 20 単位以上履修すること。		卒業に必要な単位数を満たしている場合はメジャー科目
なお, 選択科目Ⅱは全学共通教養教育科目(同志社科		D 群の単位として算入され, メジャー科目 D 群の卒業に
目, キャリア形成支援科目, 国際教養科目, クリエイティ		必要な単位数を満たしている場合は選択科目Ⅱの単位と
ブ・ジャパン科目, 人文科学系科目, 社会科学系科目, 自		して算入する。ただし, 専門領域科目の Japanese

Society and Global Culture Concentration から履修した単位は、メジャー科目B群の卒業に必要な単位数を満たしていない場合は、8単位を上限としてメジャー科目B群の単位に算入する。

上記にかかわらず、国際教養コースについては、国際教育インスティテュートに示された履修方法に従って履修すること。

○自由科目

教職コンピュータ基礎	2
図書館情報サービス論 I	2
図書館情報サービス論 II	2
図書館情報資源概論	2
図書館情報資源特論	2
図書館制度・経営論	2
児童サービス論	2
図書館情報学特論	2
情報サービス演習 I	2
情報サービス演習 II	2
情報資源組織演習 I	2
情報資源組織演習 II	2
図書館演習	4
学校図書館メディアの構成	2
学習指導と学校図書館	2
情報メディアの活用	2
学術情報利用教育論	2
学校教育図書館論	2
図書館情報学概論	2
学校図書館サービス論	2
特別ニーズ教育論	2
スクールインターンシップ	2
科学技術概論 I	2
科学技術概論 II	2

アウトリーチ実習	2
サイエンスライティング	2
サイエンス・ナウ 1	2
サイエンス・ナウ 2	2
サイエンス・ナウ 3	2
サイエンス・ナウ 4	2
サイエンス・ナウ 5	2
サイエンス・ナウ 6	2
サイエンス・ナウ 7	2
サイエンスとインテリジェンス	2
ビジネスワークショップ	2
メディカルワークショップ	2
取材・インタビュー実践講座	2
未知型探索ビジネスワークショップ	2

自由科目は卒業必要単位に算入しない。ただし、科学技術概論Ⅰ、科学技術概論Ⅱ、アウトリーチ実習、サイエンスライティング、サイエンス・ナウ1、サイエンス・ナウ2、サイエンス・ナウ3、サイエンス・ナウ4、サイエンス・ナウ5、サイエンス・ナウ6、サイエンス・ナウ7、サイエンスとインテリジェンス、ビジネスワークショップ、メディカルワークショップ、取材・インタビュー実践講座、未知型探索ビジネスワークショップの中から12単位以上を履修した場合は、選択科目Ⅱの単位に算入する。

法 学 部

人材養成目的

法学部は、法学及び政治学について、体系的・専門的な知識の伝達と実践的・双方向的な教育をととして、法学・政治学に関する幅広く深い専門知識を身に付けて、法曹三者、法律専門職、企業の法務部門・企画・総務部

門、ジャーナリスト、公務員、大学・シンクタンクなどの研究職などにおいて活躍する人材を育成することを目的とする。

法 律 学 科

人材養成目的

法律学科は、法学について、体系的・専門的な知識の伝達と、実践的・双方向的な教育をとおして、法学の専門的知識と、それを活用して法的問題の妥当な解決を図る能力（いわゆるリーガルマインド）を身に付けて、法曹三者、企業の法務・知的財産・人事・総務部門、公務員、法律専門職、研究職などにおいて活躍する人材を育成することを目的とする。

科 目	履修単位		
○ 1 類		民法 I a(総則①)	2
		民法 I b(総則②)	2
		民法 II(物権)	2
		民法 IIIa(債権総論①)	2
		民法 IIIb(契約)	2
		民法 IVa(担保物権)	2
		民法 IVb(債権総論②)	2
		民法 V(不法行為)	2
		民法 VIa(親族)	2
		民法 VIb(相続)	2
		国際財産法	2
		国際家族法	2
		国際民事手続法	2
		国際取引法	2
		民事訴訟法	4
リーガル・リサーチ	2	ADR・仲裁法	2
○ 2 類		民事執行・保全法	2
民法概論	2	倒産処理法 I(破産法)	2
国際社会と民事法	2	倒産処理法 II(民事再生法・会社更生法)	2
民事手続法概論	2	会社法 I	2
商法概論	2	会社法 II	2
知的財産法概論	2	会社法 III	2
雇用と法	2	商法総則・商行為法 I	2
基本的人権概論	2	商法総則・商行為法 II	2
行政法概論	2	経済法 I	2
刑法概論	2	経済法 II	2
刑事手続法概論	2	手形法・小切手法	2
国際社会と法	2	保険法	2
法と社会	2	知的財産法 A	2
上記 2 類科目中から、18 単位以上を選択履修すること。		知的財産法 B	2
○ 3 類		知的財産法 C	2
A 群		雇用関係法 I	2

雇用関係法 II	2	国際組織法	2
労使関係法	2	国際人権法	2
社会保障法 I	2	国際経済・環境法	2
社会保障法 II	2	西洋法史 I	2
雇用政策法	2	西洋法史 II	2
統治の原理 I	2	日本法史 I	2
統治の原理 II	2	日本法史 II	2
人権保障の原理 I	2	西洋法思想史	2
人権保障の原理 II	2	近代法思想の展開	2
比較憲法	2	東洋法史 I	2
憲法訴訟	2	東洋法史 II	2
行政法総論 I	2	法社会学	2
行政法総論 II	2	現代法社会学の展開	2
行政救済法 I	2	法哲学	2
行政救済法 II	2	現代法哲学の展開	2
環境法	2	英米法総論	2
地方自治法	2	アメリカ法	2
税法 I	2	イギリス法	2
税法 II	2	ドイツ法	2
刑法総論 I	2	フランス法	2
刑法総論 II	2	B 群	
刑法各論 I	2	法学文献研究	2
刑法各論 II	2	政治学文献研究	2
刑事訴訟法 I	2	C 群	
刑事訴訟法 II	2	2 年次演習	2
犯罪学	2	3 年次演習 1	2
刑事政策	2	3 年次演習 2	2
犯罪対策各論	2	3・4 年次合同演習 1	2
国際法総論 I	2	3・4 年次合同演習 2	2
国際法総論 II	2	3・4 年次合同演習 3	2
領域の国際法	2	3・4 年次合同演習 4	2
国際紛争と法	2	4 年次演習 1	2

4 年次演習 2	1	日本アジア関係論	2
4 年次演習 3	2	アメリカ政治外交論	2
D 群		EU政治論	2
アリゾナ大学科目 1	1	中国政治論	2
アリゾナ大学科目 2	2	国際開発協力論	2
アリゾナ大学科目 3	3	国際統合論	2
アリゾナ大学科目 4	4	グローバルガバナンス論	2
E 群		東南アジア地域研究	2
会社法特講 I	2	南アジア地域研究	2
会社法特講 II	2	中東地域研究	2
憲法特講 I	2	ロシア・東欧地域研究	2
憲法特講 II	2	アフリカ地域研究	2
行政法特講	2	中南米地域研究	2
上記 3 類科目中から、52 単位以上を選択履修すること。ただし、2 類で最低必要単位数以上を履修した場合は、3 類の履修単位に算入する。		日本政治入門	2
法学文献研究、政治学文献研究は 8 単位まで 3 類の必要単位に算入し、8 単位を超えて履修した科目の単位は、7 類の履修単位に算入する。		歴史・思想入門	2
C 群の演習科目は合計 10 単位まで卒業必要単位に算入する。		政治参加と選挙	2
アリゾナ大学における履修科目はアリゾナ大学科目 1～4 として、他の大学における履修科目の単位認定と合わせて 60 単位まで卒業必要単位に算入する。		現代民主主義論	2
○ 4 類		政党政治論	2
国際関係入門	2	近代日本政治史	2
日本外交論	2	近代ヨーロッパ政治史	2
国際関係史	2	近代の政治思想	2
国際関係理論	2	政治思想の源流	2
国際政治経済論	2	比較政治	2
国際安全保障論	2	官僚制と政治	2
東アジア国際関係論	2	議会政治論	2
		地方政府論	2
		福祉国家と政治	2
		利益集団論	2
		政治経済学	2
		政治行動論	2
		現代日本政治史	2
		現代ヨーロッパ政治史	2

アメリカ政治史	2	司法特講 II	2
中国政治史	2	司法特講 III	2
政治指導論	2	司法特講 IV	2
現代の政治思想	2	D 群	
近代日本政治思想史	2	大学院共通科目 I	2
現代日本政治思想史	2	大学院共通科目 II	4
公共経済 1	2	上記 5 類科目の中から選択履修すること。ただし、5 類	
公共経済 2	2	B 群は 8 単位まで卒業必要単位に算入する。	
地域経済	2	○ 6 類	
都市経済	2	A 群	
経営学	2	原典講読(アメリカの法と政治)	1
本学部が副専攻科目と認めるものにより、副専攻パッケージを構成する。副専攻科目を履修した場合、当該科目の単位のうち、法律学科設置科目は設置されている類の単位とし、その他の科目は 4 類の単位に算入する。		原典講読(イギリスの法と政治)	1
		上記科目及び全学共通教養教育科目(外国語教育科目)の英語のうち、卒業必要単位と認められるものから 8 単位以上を選択履修すること。	
○ 5 類		ただし、TOEIC, TOEFL, 実用英語技能検定試験, 国際連合公用語英語検定試験, IELTS で一定水準以上の成果を修めた者は、4 単位を限度として、6 類 A 群の単位に認定する。	
A 群		B 群	
社会調査概論	2	原典講読(ドイツの法と政治)	1
政治データ分析	2	原典講読(フランスの法と政治)	1
国際関係特殊講義	2	原典講読(中国の法と政治)	1
行政学	2	原典講読(ロシアの法と政治)	1
地方自治論	2	原典講読(スペインの法と政治)	1
政策過程論	2	上記科目及び全学共通教養教育科目(外国語教育科目)の英語及びイタリア語以外の外国語のうち、卒業必要単位と認められるものから 8 単位以上を選択履修すること。	
現代政治特殊講義	2	全学共通教養教育科目(外国語教育科目)のドイツ語, フランス語, 中国語, ロシア語, スペイン語及びコリア語の各外国語入門 I は、2 単位のみ 6 類 B 群の履修単位	
政治史特殊講義	2		
政治思想特殊講義	2		
経済原論	4		
B 群			
特殊講義 A	2		
特殊講義 B	2		
C 群			
司法特講 I	2		

に算入し、各外国語入門Ⅱは、履修した外国語入門Ⅰと同一の外国語の科目2単位のみ6類B群の履修単位に算入する。

外国人留学生のうち、外国人留学生入学試験により入学した者が、日本語・日本文化教育科目のうち、日本語1(読解AⅥ)～日本語1(文法Ⅸ)、日本語2(読解AⅥ)～日本語2(文法Ⅸ)、ビジネス日本語C、ビジネス日本語Dの単位を履修した場合は、6類B群の履修単位に算入する。

○7 類

社会保障論	4
労働問題(1)	2
労働問題(2)	2
社会思想史	2
古代イスラエル宗教史 1	2
古代イスラエル宗教史 2	2
NPO・ボランティア活動論	2
日本文化史概説(1)	2
日本文化史概説(2)	2
東洋文化史概説(1)	2
東洋文化史概説(2)	2
西洋文化史概説(1)	2
西洋文化史概説(2)	2
人文地理学(1)	2
人文地理学(2)	2
地誌学	2
地理学総論(1)	2
地理学総論(2)	2
哲学概論(1)	2
哲学概論(2)	2
倫理学概論(1)	2
倫理学概論(2)	2

心理学概論(1)	2
心理学概論(2)	2
社会学概論	4

上記7類科目のほか、全学共通教養教育科目(同志社科目、キャリア形成支援科目、国際教養科目、クリエイティブ・ジャパン科目、人文科学系科目、社会科学系科目、自然・人間科学系科目、複合領域科目、プロジェクト科目、外国語教育科目、保健体育科目)及び日本語・日本文化教育科目のうち、卒業必要単位と認められる科目、同志社女子大学単位互換科目並びに大学コンソーシアム京都単位互換科目から、42単位以上を選択履修すること。ただし、同志社女子大学単位互換科目及び大学コンソーシアム京都単位互換科目は、合計12単位まで、7類の履修単位に算入する。

なお、日本語・日本文化教育科目は、外国人留学生のうち、外国人留学生入学試験により入学した者が履修することができる。

また、学則第27条の2に定める留学及び早稲田大学への学生交流による履修科目を留学等単位認定科目として7類の単位に認定することがある。

1類科目、4類科目及び5類科目の履修単位、並びに3類で最低必要単位数を超えて履修した科目の単位(2類科目で最低必要単位数以上を履修し、3類の履修単位に算入したものを含む)、及び6類で最低必要単位数を超えて履修した科目の単位(全学共通教養教育科目[外国語教育科目]のドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、スペイン語及びコリア語の各外国語入門Ⅰ・Ⅱで、6類の履修単位に算入されないものを含む)は、7類の履修単位に算入する。

以上1類～7類のそれぞれの最低必要単位数以上を履修し、合計128単位以上を履修すること。

法曹養成プログラムを置く。法曹養成プログラムの修

了に必要な要件は、別に定める。

○自由科目

教職コンピュータ基礎	2
教職概論	2
教育原理	2
発達と学習の心理学	2
教育制度と学校経営	2
学校教育社会学	2
教育課程論	2
教育方法とICT活用の理論と実践	2
社会科・地理歴史科教育法	2
社会科・公民科教育法	2
社会科教育法 1	2
社会科教育法 2	2
地理歴史科教育法	2
公民科教育法	2
道德教育の理論と実践	2
特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2
生徒・進路指導の理論と方法	2
教育相談の理論と方法	2
教職実践演習(中・高)	2
教育実習指導	1
教育実習 A	2
教育実習 B	2
教育実習 C	4
人権教育論	2
特別ニーズ教育論	2
スクールインターンシップ	2
学校教育文化論(1)	2
学校教育文化論(2)	2
生涯教育計画論	2
多文化共生社会と生涯学習	2

学校教育図書館論	2
学校図書館メディアの構成	2
学習指導と学校図書館	2
読書と豊かな人間性	2
情報メディアの活用	2
学校図書館サービス論	2

自由科目は、卒業必要単位に算入しない。

希望者は、他学部 of 科目であっても、当該学部が認めた科目は、これを履修することができる。履修した他学部の科目(本学部が副専攻科目と認めるものは除く)は、卒業に必要な単位数に算入しない。

上記にかかわらず、国際教養コースについては、国際教育インスティテュートに示された履修方法に従って履修すること。

政 治 学 科

人材養成目的

政治学科は、政治学について、体系的・専門的な知識の伝達と、実践的・双方向的な教育をとおして、政治学の専門的知識と、問題発見・解決能力を身に付けて、公務員、国際公務員、企業の企画・総務部門、ジャーナリスト、研究職などにおいて活躍する人材を育成することを目的とする。

科 目 履修単位

○1 類

政治学入門	2
国際関係入門	2
日本政治入門	2
歴史・思想入門	2

○2 類

政治学基礎 A	2
政治学基礎 B	2

日本外交論	2	アフリカ地域研究	2
国際関係史	2	中南米地域研究	2
国際関係理論	2	国際関係特殊講義	2
国際政治経済論	2	B 群	
国際安全保障論	2	比較政治	2
政治参加と選挙	2	官僚制と政治	2
現代民主主義論	2	議会政治論	2
政党政治論	2	地方政府論	2
近代日本政治史	2	福祉国家と政治	2
近代ヨーロッパ政治史	2	利益集団論	2
近代の政治思想	2	政治経済学	2
政治思想の源流	2	政治行動論	2
政治学への誘い	2	行政学	2
社会調査概論	2	地方自治論	2
政治データ分析	2	政策過程論	2
基本的人権概論	2	現代政治特殊講義	2
上記 1 類及び 2 類から合計 20 単位以上を選択履修すること。		C 群	
○ 3 類		現代日本政治史	2
A 群		現代ヨーロッパ政治史	2
東アジア国際関係論		アメリカ政治史	2
日本アジア関係論		中国政治史	2
アメリカ政治外交論		政治指導論	2
EU 政治論		現代の政治思想	2
中国政治論		近代日本政治思想史	2
国際開発協力論		現代日本政治思想史	2
国際統合論		西洋法思想史	2
グローバルガバナンス論		近代法思想の展開	2
東南アジア地域研究		法哲学	2
南アジア地域研究		現代法哲学の展開	2
中東地域研究		政治史特殊講義	2
ロシア・東欧地域研究		政治思想特殊講義	2
		国際関係特殊講義，現代政治特殊講義，政治史特殊講	

義及び政治思想特殊講義は、各 6 単位まで 3 類の必要単位に算入し、6 単位を超えて履修した単位は、7 類の単位に算入する。

上記 3 類の各群から、それぞれ 4 単位以上を選択履修し、かつ A 群、B 群又は C 群のいずれか 1 つの群から、さらに 10 単位以上を選択履修すること。

○ 4 類

統治の原理 I	2
統治の原理 II	2
人権保障の原理 I	2
人権保障の原理 II	2
比較憲法	2
憲法訴訟	2
行政法概論	2
行政法総論 I	2
行政法総論 II	2
行政救済法 I	2
行政救済法 II	2
環境法	2
地方自治法	2
税法 I	2
税法 II	2
国際法総論 I	2
国際法総論 II	2
領域の国際法	2
国際紛争と法	2
国際組織法	2
国際人権法	2
国際経済・環境法	2
経済原論	4
経済数学 I	2
経済数学 II	2

公共経済 1	2
公共経済 2	2
統計 I	2
統計 II	2

○ 5 類

A 群

2 年次演習	2
3 年次演習 1	2
3 年次演習 2	2
3・4 年次合同演習 1	2
3・4 年次合同演習 2	2
3・4 年次合同演習 3	2
3・4 年次合同演習 4	2
4 年次演習 1	2
4 年次演習 2	1
4 年次演習 3	2

B 群

法学文献研究	2
政治学文献研究	2

上記 1 類～5 類から合計 70 単位以上を選択履修すること。ただし、A 群の演習科目は合計 10 単位まで卒業必要単位に算入する。

法学文献研究、政治学文献研究は 8 単位まで 5 類の必要単位に算入し、8 単位を超えて履修した科目の単位は、7 類の履修単位に算入する。

○ 6 類

A 群

原典講読(アメリカの法と政治)	1
原典講読(イギリスの法と政治)	1

上記科目及び全学共通教養教育科目(外国語教育科目)の英語のうち、卒業必要単位と認められるものから 8 単位以上を選択履修すること。

ただし、TOEIC、TOEFL、実用英語技能検定試験、国際連合公用語英語検定試験、IELTS で一定水準以上の成果を修めた者は、4 単位を限度として、6 類 A 群の単位に認定する。

B 群

原典講読(ドイツの法と政治)	1
原典講読(フランスの法と政治)	1
原典講読(中国の法と政治)	1
原典講読(ロシアの法と政治)	1
原典講読(スペインの法と政治)	1

上記科目及び全学共通教養教育科目(外国語教育科目)の英語及びイタリア語以外の外国語のうち、卒業必要単位と認められるものから 8 単位以上を選択履修すること。

全学共通教養教育科目(外国語教育科目)のドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、スペイン語及びコリア語の各外国語入門Ⅰは、2 単位のみ 6 類 B 群の履修単位に算入し、各外国語入門Ⅱは、履修した外国語入門Ⅰと同一の外国語の科目 2 単位のみ 6 類 B 群の履修単位に算入する。

外国人留学生のうち、外国人留学生入学試験により入学した者が、日本語・日本文化教育科目のうち、日本語 1(読解 AⅥ)～日本語 1(文法Ⅸ)、日本語 2(読解 AⅥ)～日本語 2(文法Ⅸ)、ビジネス日本語 C、ビジネス日本語 D の単位を履修した場合は、6 類 B 群の履修単位に算入する。

○ 7 類

A 群

民法概論	2
国際社会と民事法	2
民事手続法概論	2
商法概論	2

知的財産法概論	2
雇用と法	2
刑法概論	2
刑事手続法概論	2
国際社会と法	2
法と社会	2
民法Ⅰa(総則①)	2
民法Ⅰb(総則②)	2
民法Ⅱ(物権)	2
民法Ⅲa(債権総論①)	2
民法Ⅲb(契約)	2
民法Ⅳa(担保物権)	2
民法Ⅳb(債権総論②)	2
民法Ⅴ(不法行為)	2
民法Ⅵa(親族)	2
民法Ⅵb(相続)	2
国際財産法	2
国際家族法	2
国際民事手続法	2
国際取引法	2
民事訴訟法	4
ADR・仲裁法	2
民事執行・保全法	2
倒産処理法Ⅰ(破産法)	2
倒産処理法Ⅱ(民事再生法・会社更生法)	2
会社法Ⅰ	2
会社法Ⅱ	2
会社法Ⅲ	2
商法総則・商行為法Ⅰ	2
商法総則・商行為法Ⅱ	2
経済法Ⅰ	2
経済法Ⅱ	2

手形法・小切手法	2	フランス法	2
保険法	2	B 群	
知的財産法 A	2	特殊講義 A	2
知的財産法 B	2	特殊講義 B	2
知的財産法 C	2	7 類B 群は、8 単位まで卒業必要単位に算入する。	
雇用関係法 I	2	C 群	
雇用関係法 II	2	大学院共通科目 I	2
労使関係法	2	大学院共通科目 II	4
社会保障法 I	2	D 群	
社会保障法 II	2	中級ミクロ経済学 1	2
雇用政策法	2	中級ミクロ経済学 2	2
刑法総論 I	2	中級マクロ経済学 1	2
刑法総論 II	2	中級マクロ経済学 2	2
刑法各論 I	2	計量経済学 1	2
刑法各論 II	2	計量経済学 2	2
刑事訴訟法 I	2	経済予測 1	2
刑事訴訟法 II	2	経済予測 2	2
犯罪学	2	金融 1	2
刑事政策	2	金融 2	2
犯罪対策各論	2	労働経済 1	2
西洋法史 I	2	労働経済 2	2
西洋法史 II	2	福祉経済 1	2
日本法史 I	2	福祉経済 2	2
日本法史 II	2	地域経済	2
東洋法史 I	2	都市経済	2
東洋法史 II	2	経済政策 1	2
法社会学	2	経済政策 2	2
現代法社会学の展開	2	開発経済 1	2
英米法総論	2	開発経済 2	2
アメリカ法	2	企業経済 1	2
イギリス法	2	企業経済 2	2
ドイツ法	2	産業組織 1	2

産業組織 2	2	政治経済学 2	2
日本経済史 1	2	環境政策 1	2
日本経済史 2	2	環境政策 2	2
京都経済史 1	2	NPO・ボランティア活動論	2
京都経済史 2	2	社会保障論	4
世界経済史 1	2	労働問題(1)	2
世界経済史 2	2	労働問題(2)	2
比較社会経済	2	地域社会学	4
比較社会経済史	2	産業社会学(1)	2
経済思想史 1	2	産業社会学(2)	2
経済思想史 2	2	社会心理学	4
現代経済思想史	2	コミュニケーション論	2
日本経済思想史	2	情報行動論	2
アジア経済	2	現代哲学(1)	2
アジア経済史	2	現代哲学(2)	2
中国経済	2	社会思想史	2
中国経済史	2	日英文化比較(1)	2
アメリカ経済	2	日英文化比較(2)	2
アメリカ経済史	2	西洋社会史(1)	2
社会政策 1	2	西洋社会史(2)	2
社会政策 2	2	商業史	2
現代資本主義 1	2	経済学	2
現代資本主義 2	2	メディア文化史	2
宗教経済 1	2	古代イスラエル宗教史 1	2
宗教経済 2	2	古代イスラエル宗教史 2	2
文化経済 1	2	日本文化史概説(1)	2
文科経済 2	2	日本文化史概説(2)	2
エネルギー経済 1	2	東洋文化史概説(1)	2
エネルギー経済 2	2	東洋文化史概説(2)	2
国際経済	2	西洋文化史概説(1)	2
国際マクロ経済学	2	西洋文化史概説(2)	2
政治経済学 1	2	人文地理学(1)	2

人文地理学(2)	2	育科目]のドイツ語, フランス語, 中国語, ロシア語, ス	
地誌学	2	ペイン語及びコリア語の各外国語入門Ⅰ・Ⅱで, 6 類の	
地理学総論(1)	2	履修単位に算入されないものを含む)は, 7 類の履修単位	
地理学総論(2)	2	に算入する。	
社会人類学	4	上記科目, 並びに, 本学部が副専攻科目と認めるもの	
哲学概論(1)	2	により, 副専攻パッケージを構成する。副専攻科目を履	
哲学概論(2)	2	修した場合, 当該科目の単位のうち, 政治学科設置科目	
倫理学概論(1)	2	は設置されている類の単位とし, その他の科目は7 類の	
倫理学概論(2)	2	単位に算入する。	
心理学概論(1)	2	以上1 類~7 類のそれぞれの最低必要単位数以上を履	
心理学概論(2)	2	修し, 合計 128 単位以上を履修すること。	
社会学概論	4	○自由科目	
上記7 類科目のほか, 全学共通教養教育科目(同志社		教職コンピュータ基礎	2
科目, キャリア形成支援科目, 国際教養科目, クリエイテ		教職概論	2
ィブ・ジャパン科目, 人文科学系科目, 社会科学系科目,		教育原理	2
自然・人間科学系科目, 複合領域科目, プロジェクト科		発達と学習の心理学	2
目, 外国語教育科目, 保健体育科目)及び日本語・日本文		教育制度と学校経営	2
化教育科目のうち, 卒業必要単位と認められる科目, 同		学校教育社会学	2
志社女子大学単位互換科目並びに大学コンソーシアム京		教育課程論	2
都単位互換科目から, 42 単位以上を選択履修すること。		教育方法とI C T活用の理論と実践	2
ただし, 同志社女子大学単位互換科目及び大学コンソー		社会科・地理歴史科教育法	2
シアム京都単位互換科目は, 合計 12 単位まで, 7 類の履		社会科・公民科教育法	2
修単位に算入する。		社会科教育法 1	2
なお, 日本語・日本文化教育科目は外国人留学生のう		社会科教育法 2	2
ち, 外国人留学生入学試験により入学した者が履修する		地理歴史科教育法	2
ことができる。		公民科教育法	2
また, 学則第 27 条の 2 に定める留学及び早稲田大学へ		道德教育の理論と実践	2
の学生交流による履修科目を留学等単位認定科目として		特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2
7 類の単位に認定することがある。		生徒・進路指導の理論と方法	2
1 類~3 類, 4 類並びに 5 類で最低必要単位数を超えて		教育相談の理論と方法	2
履修した科目の単位, 及び 6 類で最低必要単位数を超え		教職実践演習(中・高)	2
て履修した科目の単位(全学共通教養教育科目[外国語教		教育実習指導	1

教育実習 A	2	問題解決能力の強化をはかる科目を提供し、主体的な学	
教育実習 B	2	修を促すことにより、国際化する経済・社会の状況に対応	
教育実習 C	4	し、広く社会のために行動しうる、自治自立の人物を養	
人権教育論	2	成することを目的とする。	
特別ニーズ教育論	2	科 目	履修単位
スクールインターンシップ	2	○ 1 類	
学校教育文化論(1)	2	導入科目	
学校教育文化論(2)	2	経済理論入門	2
生涯教育計画論	2	日本経済入門	2
多文化共生社会と生涯学習	2	経済学の歴史	2
学校教育図書館論	2	I T 基礎論 1	2
学校図書館メディアの構成	2	基礎演習	2
学習指導と学校図書館	2	基礎科目	
読書と豊かな人間性	2	初級ミクロ経済学 I	2
情報メディアの活用	2	初級ミクロ経済学 II	2
学校図書館サービス論	2	初級マクロ経済学 I	2
自由科目は、卒業必要単位に算入しない。		初級マクロ経済学 II	2
希望者は、他学部の科目であっても、当該学部が認め		経済数学 I	2
た科目は、これを履修することができる。履修した他学		経済数学 II	2
部の科目(本学部が副専攻科目と認めるものは除く)は、		統計 I	2
卒業に必要な単位数に算入しない。		統計 II	2
上記にかかわらず、国際教養コースについては、国際		経済史	2
教育インスティテュートに示された履修方法に従って履		環境と資源の基礎	2
修すること。		I T 基礎論 2	2
		データ処理基礎論	2
		基幹科目	
経 済 学 部		中級ミクロ経済学 1	2
経 済 学 科		中級ミクロ経済学 2	2
人材養成目的		ゲーム理論	2
経済学部経済学科は、長い歴史に培われてきた教育研		中級マクロ経済学 1	2
究環境の下で、幅広い教養を身に付けるための科目、経		中級マクロ経済学 2	2
済学の系統的・段階的理解をはかる科目、及び問題発見と		応用マクロ経済学	2

数理経済 1	2	環境政策 2	2
数理経済 2	2	エネルギー経済 1	2
国際経済	2	エネルギー経済 2	2
国際マクロ経済学	2	エコロジー経済 1	2
中級経済数学 1	2	エコロジー経済 2	2
中級経済数学 2	2	計量経済学 1	2
行動経済学	2	計量経済学 2	2
地域経済	2	計量分析実習 1	2
都市経済	2	計量分析実習 2	2
企業経済 1	2	経済予測 1	2
企業経済 2	2	経済予測 2	2
産業組織 1	2	統計実習	2
産業組織 2	2	経済思想史 1	2
宗教経済 1	2	経済思想史 2	2
宗教経済 2	2	現代経済思想史	2
文化経済 1	2	日本経済思想史	2
文化経済 2	2	国際政治経済 1	2
公共経済 1	2	国際政治経済 2	2
公共経済 2	2	現代資本主義 1	2
金融 1	2	現代資本主義 2	2
金融 2	2	政治経済学 1	2
財政 1	2	政治経済学 2	2
財政 2	2	日本経済史 1	2
労働経済 1	2	日本経済史 2	2
労働経済 2	2	京都経済史 1	2
福祉経済 1	2	京都経済史 2	2
福祉経済 2	2	アジア経済	2
社会政策 1	2	アジア経済史	2
社会政策 2	2	中国経済	2
経済政策 1	2	中国経済史	2
経済政策 2	2	世界経済史 1	2
環境政策 1	2	世界経済史 2	2

比較社会経済	2	Ⅱ) から 4 単位以上, 基幹科目から 24 単位以上を選択
比較社会経済史	2	履修し, かつ 1 類から 66 単位以上を選択履修すること。
アメリカ経済	2	○ 2 類
アメリカ経済史	2	オフィス I C T スキルズ I 2
ヨーロッパ経済	2	オフィス I C T スキルズ II 2
ヨーロッパ経済史	2	ビジネス I C T スキルズ I 2
開発経済 1	2	ビジネス I C T スキルズ II 2
開発経済 2	2	上記科目のほか, 全学共通教養教育科目の外国語教育
ネットワークシステム論	2	科目および日本語・日本文化教育科目のうち, 卒業必要
データベースシステム論	2	単位と認められる科目から選択履修すること。ただし,
システムモデリング論	2	イタリア語は 3 類科目の履修単位に算入する。
プログラミング 1	2	英語 8 単位または日本語 8 単位を履修し, 英語 8 単位
プログラミング 2	2	を履修した場合は, これに加えて, 英語以外の一種類の
プログラミング 3	2	外国語を選択し 8 単位以上またはオフィス I C T スキル
スクリプティング	2	ズ I・II, ビジネス I C T スキルズ I・II (以下, コンピ
情報システム論	2	ュータ言語) の 8 単位を選択履修すること。また, 日本
ビジネスシステム論	2	語 8 単位を履修した場合は, これに加えて, 一種類の外
演習		国語を選択し 8 単位以上またはコンピュータ言語の 8 単
2 年次演習	2	位を選択履修すること。もしくは, 英語 12 単位または
3 年次演習 1	2	日本語 12 単位を履修し, 英語 12 単位を履修した場合
3 年次演習 2	2	は, これに加えて, 英語以外の一種類の外国語を選択し
卒業研究	6	4 単位以上またはコンピュータ言語の 4 単位以上を選択
演習関連科目		履修すること。また, 日本語 12 単位を履修した場合は,
2 年次演習関連科目	2	これに加えて, 一種類の外国語を選択し 4 単位以上また
3 年次演習関連科目 1	2	はコンピュータ言語の 4 単位以上を選択履修すること。
3 年次演習関連科目 2	2	なお, 英語を履修する場合は, 8 単位履修, 12 単位履
エコノミクス・ワークショップ		修のいずれの場合においても経済学部が定めた科目から
エコノミクス・ワークショップ・プライマリ 1	2	8 単位を履修すること。
エコノミクス・ワークショップ・プライマリ 2	2	ただし, 日本語・日本文化教育科目の履修は外国人留
エコノミクス・ワークショップ・アドバンスト	2	学生のうち, 外国人留学生入学試験により入学した者に
基礎科目から 18 単位以上, このうちグレードⅡ (初級		限る。
ミクロ経済学Ⅱ, 初級マクロ経済学Ⅱ, 経済数学Ⅱ, 統計		以上のとおり履修し, 2 類から合計 16 単位以上を選択

履修すること。

なお、TOEIC, TOEFL, IELTS, 実用英語技能検定試験, 国際連合公用語英語検定試験で一定水準以上の成果を修めた者は、4単位を限度として2類の単位に認定する。

また、外国人留学生在が2類科目から母語を履修しても卒業必要単位に算入しない。

○3 類

文化と社会	2
科学と技術	2
企業分析	2
日本の憲法	2
民法 1	2
民法 2	2
商法 1	2
商法 2	2
労働法 1	2
労働法 2	2
労働法 3	2
労働法 4	2
経済法 1	2
経済法 2	2
簿記学 I	2
簿記学 II	2
会計学	2
経営学	2
原価計算論	2
テュービンゲン大学 I E S 科目	2

上記科目のほか、全学共通教養教育科目(同志社科目, キャリア形成支援科目, 国際教養科目, クリエイティブ・ジャパン科目, 人文科学系科目, 社会科学系科目, 自然・人間科学系科目, 複合領域科目, プロジェクト科目, 外国語教育科目のイタリア語, 保健体育科目)のうち卒業必要

単位と認められる科目から16単位以上を選択履修すること。

外国人留学生在が、日本語・日本文化教育科目のうち、日本語1, 日本語2, ビジネス日本語C, ビジネス日本語Dを除く科目から単位を履修した場合は、3類の履修単位に算入する。

○4 類

教職概論	2
人権教育論	2
教育原理	2
心理学概論(1)	2
心理学概論(2)	2
発達と学習の心理学	2
学校教育社会学	2
教育制度と学校経営	2
道德教育の理論と実践	2
特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2
生徒・進路指導の理論と方法	2
教育相談の理論と方法	2
教育方法とICT活用の理論と実践	2
教育課程論	2
学校教育文化論(1)	2
学校教育文化論(2)	2
生涯教育計画論	2
多文化共生社会と生涯学習	2
学校教育図書館論	2
学校図書館メディアの構成	2
学習指導と学校図書館	2
読書と豊かな人間性	2
情報メディアの活用	2
社会科教育法 1	2
社会科教育法 2	2

地理歴史科教育法	2	生涯学習概論	2
公民科教育法	2	日本美術史概説(1)	2
社会科・地理歴史科教育法	2	日本美術史概説(2)	2
社会科・公民科教育法	2	西洋美術史概説(1)	2
日本文化史概説(1)	2	西洋美術史概説(2)	2
日本文化史概説(2)	2	日本美術史(1)	2
東洋文化史概説(1)	2	日本美術史(2)	2
東洋文化史概説(2)	2	東洋美術史(1)	2
西洋文化史概説(1)	2	東洋美術史(2)	2
西洋文化史概説(2)	2	西洋近代史(1)	2
人文地理学(1)	2	西洋近代史(2)	2
人文地理学(2)	2	考古学概論(1)	2
地理学総論(1)	2	考古学概論(2)	2
地理学総論(2)	2	民俗学(1)	2
地誌学	2	民俗学(2)	2
哲学概論(1)	2	図書館情報学概論	2
哲学概論(2)	2	図書館制度・経営論	2
倫理学概論(1)	2	図書館情報サービス論Ⅰ	2
倫理学概論(2)	2	図書館情報サービス論Ⅱ	2
社会学概論	4	情報資源組織論Ⅰ	2
近代日本政治史	2	情報資源組織論Ⅱ	2
現代日本政治史	2	児童サービス論	2
近代ヨーロッパ政治史	2	図書・図書館史	2
現代ヨーロッパ政治史	2	図書館情報資源概論	2
日本社会史(1)	2	図書館情報資源特論	2
日本社会史(2)	2	図書館情報技術論	2
日本地域史研究(1)	2	図書館情報学特論	2
日本地域史研究(2)	2	情報サービス演習Ⅰ	2
西洋社会史(1)	2	情報サービス演習Ⅱ	2
西洋社会史(2)	2	情報資源組織演習Ⅰ	2
商業史	2	情報資源組織演習Ⅱ	2
日本商業史	2	図書館演習	4

学術情報利用教育論	2	教育実習 A	2
学校図書館サービス論	2	教育実習 B	2
博物館概論	2	教育実習 C	4
博物館経営論	2	特別ニーズ教育論	2
博物館資料論	2	スクールインターンシップ	2
博物館情報メディア論	2	上記科目のほか、全学共通教養教育科目(社会科学系科目)の経済学 1, 経済学 2 を履修することができる。	
博物館教育論	2	自由科目は、卒業必要単位に算入しない。	
博物館資料保存論	2	上記にかかわらず、国際教養コースについては、国際	
博物館展示論	2	上記にかかわらず、国際教養コースについては、国際	
上記 4 類科目は、卒業に必要な単位とは別に独自に履		教育インスティテュートに示された履修方法に従って履	
修することができる。		修すること。	

○ 5 類

1 類科目, 3 類科目, 4 類科目, 法学部設置科目, サイエンスコミュニケーター養成に関わる科目及び国際教育インスティテュートに示された科目のうち、本学部が副専攻科目と認めるものにより、副専攻パッケージを構成する。

選択した副専攻パッケージの科目は、それぞれ 20 単位を限度として卒業必要単位に算入する。20 単位を超えて修得した単位は 6 類の履修単位に算入する。ただし、1 類の科目は 1 類の、3 類の科目は 3 類の、4 類の科目は 4 類の卒業必要単位に算入する。

○ 6 類

他学部設置科目, 大学コンソーシアム京都単位互換科目, 同志社女子大学単位互換科目は 6 類の履修単位に算入する。6 類科目は 12 単位を限度として卒業必要単位に算入する。

以上卒業に必要な単位として 1 類～6 類から合計 124 単位以上を履修すること。

○ 自由科目

教職実践演習(中・高)	2
教育実習指導	1

商 学 部

商 学 科

人材養成目的

商学部商学科は、現代産業社会の経済活動について、基礎的な知識の修得をはかるとともに豊かな教養を培い、専門領域の体系的かつ系統的な教育方針に基づく学習と実践的能力の育成をとおして、企業や産業に関わる諸問題を的確に分析し、その解決のための判断能力を身に付け、国内外の各分野において「良心を手腕に運用する」有為の人材を養成することを目的とする。

科 目	履修単位
1 類 導入科目	
アカデミック・リテラシー I	2
アカデミック・リテラシー II	2
ビジネス・トピックス	2
2 類 入門科目	
基本統計学	2
現代ビジネス	2
簿記学 I	2

簿記学 II	2	経営管理論	2
上記 2 類入門科目から 6 単位以上を履修すること。		経営組織論	2
3 類 学系基礎科目		経営戦略論	2
学系基礎科目 I		経営史	2
経済・歴史学系		簿記・会計学系	
経済学	2	簿記学 III	2
商業・金融学系		工業簿記 I	2
商業学	2	財務会計論	2
貿易・国際学系		監査論	2
国際経済学	2	上記学系基礎科目 II から各学系 2 単位以上, 計 10 単位	
企業・経営学系		以上を履修すること。	
経営学	2	4 類 学系展開科目	
簿記・会計学系		経済・歴史学系	
会計学	2	経済変動論	2
上記学系基礎科目 I から 8 単位以上を履修すること。		市場と人間	2
学系基礎科目 II		経済統計分析	2
経済・歴史学系		戦略の経済学	2
ミクロ経済学	2	日本商業史	2
マクロ経済学	2	現代商業史	2
計量経済学	2	オペレーションズ・リサーチ	2
商業史	2	特講	2
商業・金融学系		商業・金融学系	
流通論	2	商品学	2
マーケティング論	2	観光論	2
金融論	2	交通論	2
証券論	2	物流システム論	2
貿易・国際学系		消費者行動論	2
貿易論	2	マーケティング・リサーチ	2
貿易業務論	2	貨幣論	2
国際金融論	2	銀行論	2
国際商取引論	2	金融政策論	2
企業・経営学系		ファイナンス論	2

企業金融論	2	簿記・会計学系	
保険論	2	簿記学Ⅳ	2
リスクマネジメント	2	工業簿記Ⅱ	2
金融システム論	2	財務諸表論	2
特講	2	制度会計論	2
貿易・国際学系		情報会計論	2
世界経済論	2	管理会計論	2
現代国際金融	2	原価計算論	2
経済統合論	2	税務会計論	2
欧米経済論	2	国際会計論	2
発展途上国経済論	2	財務諸表監査	2
アジア経済論	2	財務諸表分析	2
国際ビジネス・コミュニケーション論	2	特講	2
国際電子商取引論	2	5 類 実践科目	
貿易契約論	2	実践科目Ⅰ	1
貿易外国語(英語)	2	実践科目Ⅱ	2
貿易外国語(中国語)	2	実践科目Ⅲ	4
特講	2	6 類 専門外国語科目	
企業・経営学系		外国書講読(英語)	2
労務管理論	2	外国書講読(ドイツ語)	2
生産管理論	2	外国書講読(フランス語)	2
現代企業論	2	外国書講読(中国語)	2
ソーシャル・マネジメント論	2	外国書講読(スペイン語)	2
中小企業論	2	外国書講読(ロシア語)	2
経営分析論	2	外国書講読(コリア語)	2
経営統計論	2	Business English	2
ビジネス・リサーチ	2	専門外国語特講	2
国際経営論	2	上記6類専門外国語科目から2単位以上を履修するこ	
技術経営論	2	と。	
事業システム論	2	7 類 演習科目	
コーポレート・ガバナンス論	2	演習Ⅰ	2
特講	2	演習Ⅱ	2

演習 III	2	目及び5類実践科目と6類専門外国語科目の関連する科目から10単位以上を履修すること。
卒業研究演習 I	2	
卒業研究演習 II	2	上記を含め、1～8類から、商学総合コースでは80単位以上、フレックス複合コースでは70単位以上を履修すること。
卒業研究演習 III	2	
8 類 隣接科目		
社会学概論	4	9 類 教養科目
統計 I	2	全学共通教養教育科目（同志社科目、キャリア形成支援科目、国際教養科目、クリエイティブ・ジャパン科目、人文科学系科目、社会科学系科目、自然・人間科学系科目、複合領域科目、プロジェクト科目、保健体育科目）から12単位以上を履修すること。
統計 II	2	ただし、商学は履修できない。
経済政策 1	2	なお、外国人留学生が、クリエイティブ・ジャパン科目のうち、日本の伝統と美、日本の伝統と文化、日本の伝統と芸能、日本の伝統と能楽、日本の伝統と芸術を履修する場合は、12類外国人留学生科目を履修すること。
経済政策 2	2	
財政学 1	2	10 類 外国語科目
財政学 2	2	実践英語 A 2
民法 II (物権)	2	実践英語 B 2
民法 IIIa (債権総論①)	2	実践英語 C 2
民法 IVa (担保物権)	2	商学総合コースでは、全学共通教養教育科目の外国語教育科目（英語、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語、コリア語）から二つの外国語を選択し、卒業に必要と認められる科目各8単位、計16単位以上を履修すること。
民法 IVb (債権総論②)	2	フレックス複合コースでは、同外国語教育科目（英語、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語、コリア語）から一つの外国語を選択し、卒業に必要と認められる科目8単位以上を履修すること。
会社法 I	2	TOEIC, TOEFL, IELTS, 実用英語技能検定試験及び国際連合公用語英語検定試験で一定水準以上の成果を修めた者は、6単位を限度として、10類外国語科目の英語の単
会社法 II	2	
会社法 III	2	
手形法・小切手法	2	
比較憲法	2	
国際法総論 I	2	
領域の国際法	2	
国際関係理論	2	
国際政治経済論	2	
商学総合コースでは主学系、副学系の二つの学系を選択し、4類学系展開科目のうち選択した学系からそれぞれ最低4単位以上、合計20単位以上を履修すること。		
フレックス複合コースでは主学系を選択し、4類学系展開科目のうち選択した学系から10単位以上を履修すること。フレックス複合コースのうち専門特化型を選択した場合は、さらに4類学系展開科目のうち主学系の科		

位として認定する。		現代日本政治史	2
1 1 類 自主選択科目		アメリカ政治外交論	2
哲学概論(1)	2	日本外交論	2
哲学概論(2)	2	商業科教育法 A	2
倫理学概論(1)	2	商業科教育法 B	2
倫理学概論(2)	2	教職実践演習(中・高)	2
心理学概論(1)	2	教育実習指導	1
心理学概論(2)	2	教育実習 A	2
日本思想史(1)	2	教育実習 B	2
日本思想史(2)	2	教育実習 C	4
人文地理学(1)	2	職業指導 I	2
人文地理学(2)	2	職業指導 II	2
地理学総論(1)	2	教職情報処理実習	2
地理学総論(2)	2	博物館概論	2
地誌学	2	博物館経営論	2
日本文化史概説(1)	2	博物館資料論	2
日本文化史概説(2)	2	博物館情報メディア論	2
東洋文化史概説(1)	2	博物館資料保存論	2
東洋文化史概説(2)	2	博物館展示論	2
西洋文化史概説(1)	2	博物館教育論	2
西洋文化史概説(2)	2	博物館実習 I	2
日本社会史(1)	2	博物館実習 II	1
日本社会史(2)	2	教職概論	2
日本地域史研究(1)	2	教育原理	2
日本地域史研究(2)	2	発達と学習の心理学	2
西洋思想史(1)	2	教育制度と学校経営	2
西洋思想史(2)	2	学校教育社会学	2
西洋社会史(1)	2	教育課程論	2
西洋社会史(2)	2	教育方法とICT活用の理論と実践	2
近代ヨーロッパ政治史	2	社会科・地理歴史科教育法	2
現代ヨーロッパ政治史	2	社会科・公民科教育法	2
近代日本政治史	2	社会科教育法 1	2

社会科教育法 2	2	図書・図書館史	2
地理歴史科教育法	2	図書館演習	4
公民科教育法	2	学校図書館サービス論	2
道德教育の理論と実践	2	外国留学科目 (1科目各 1～8 単位)	
生徒・進路指導の理論と方法	2	全学共通教養教育科目の外国語教育科目, 他学部設置	
教育相談の理論と方法	2	科目及び国際教育インスティテュート科目 (副専攻パッ	
人権教育論	2	ケージ科目を含む), 同志社女子大学単位互換科目及び	
スクールインターンシップ	2	大学コンソーシアム京都単位互換科目は, 11 類科目の単	
特別ニーズ教育論	2	位として卒業必要単位に算入できる。	
特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2	以上卒業に必要な単位として 1～11 類から合計 126 単	
学校教育図書館論	2	位以上を修得すること。	
学校図書館メディアの構成	2	ただし, フレックス複合コースで副専攻型を選択した	
学習指導と学校図書館	2	場合は, 選択した副専攻パッケージ科目から 10 単位以上	
読書と豊かな人間性	2	を履修すること。	
情報メディアの活用	2	1 2 類 外国人留学生科目	
生涯学習概論	2	外国人留学生科目の履修は, 外国人留学生に限る。	
図書館情報学概論	2	日本語・日本文化教育科目の, 日本語 1, 日本語 2, ビ	
図書館制度・経営論	2	ジネス日本語 C, ビジネス日本語 D から 8 単位を修得し	
図書館情報技術論	2	た場合は, 10 類外国語科目の一つの外国語 8 単位に代え	
図書館情報サービス論 I	2	ることができる。	
図書館情報サービス論 II	2	日本語・日本文化教育科目のうち, 日本語 1, 日本語	
児童サービス論	2	2, ビジネス日本語 C, ビジネス日本語 D を除く科目から	
情報サービス演習 I	2	単位を修得した場合は, 9 類教養科目の単位に代えるこ	
情報サービス演習 II	2	とができる。	
図書館情報資源概論	2	なお, 外国人留学生が 10 類外国語科目から母語を履修	
情報資源組織論 I	2	しても卒業必要単位に算入しない。	
情報資源組織論 II	2	上記にかかわらず, 国際教養コースについては, 国際	
情報資源組織演習 I	2	教育インスティテュートに示された履修方法に従って履	
情報資源組織演習 II	2	修すること。	
図書館情報学特論	2	自由科目	
学術情報利用教育論	2	大学院科目	2
図書館情報資源特論	2	大学院科目の履修は, 5 年一貫教育プログラムにおけ	

る履修資格者に限る。

自由科目は卒業必要単位に算入しない。

政 策 学 部

政 策 学 科

人材養成目的

政策学部政策学科は、現代社会が求める高度な問題発見・解決能力について、問題発見の基礎となる、個別の学問分野にとどまらない社会諸科学相互の連携による学際的な知識や方法を学び、公共政策、企業政策、国際政策に関わる問題発見・解決の実践をとおして、時・場所を問わず、問題解決の中心で活躍できる基礎力を身に付けて、公的機関や民間企業などの政策や戦略の立案等において活躍する人材を養成することを目的とする。

科 目

履修単位

○選択科目Ⅰ

選択科目Ⅰ－1

オリエンテーション科目

First Year Experience 2

政策学入門 2

基礎能力養成科目

アカデミック・スキル 1 2

アカデミック・スキル 2 2

基礎科目

政策思想 2

政治学入門 2

現代日本政治 2

法学入門 2

現代経済入門 2

経済学入門 2

組織論入門 2

統計学入門 2

国際教育インスティテュートA群－Ⅰ

Introduction to the Japanese Economy 2

Macroeconomics 2

Microeconomics 2

Introduction to Business 2

Administration

Introduction to Japanese Law 2

Power and Politics in Japan 2

導入科目

A 群

政策過程論 2

日本外交 2

憲法(人権) 2

憲法(統治) 2

私法入門 2

行政法入門 2

入門ミクロ経済学 2

入門マクロ経済学 2

現代の生活問題 2

人と組織 2

経営学入門 2

社会調査入門 2

国際教育インスティテュートA群－Ⅱ

Winners and Losers: Introduction to

Political Theory 2

Introduction to Comparative

Policymaking 2

Political Behavior, Campaigns and

Elections 2

Introduction to Globalization 2

選択科目Ⅰ－2

導入科目		行政法(総論)	2
B 群		行政法(救済)	2
キャリアデザイン 1	2	国際貿易	2
キャリアデザイン 2	2	国際金融入門	2
政策トピックス	2	公共経済学	2
○選択科目Ⅱ		開発政策	2
選択科目Ⅱ－1		アジア経済論	2
卒業研究プロジェクト		社会保障政策	2
A 群		社会保障制度	2
演習Ⅰ	2	現代社会と組織	2
演習Ⅱ	2	経営組織論	2
演習Ⅲ	2	意思決定論	2
卒業研究演習Ⅰ	2	人的資源管理	2
卒業研究演習Ⅱ	2	応用ミクロ経済学	2
卒業論文	2	応用マクロ経済学	2
アカデミック・ライティング	2	現代国際政治	2
B 群		B 群	
フィールド・リサーチ	2	政策実施論	2
リサーチ・ペーパー	2	政策評価論	2
プロジェクト演習	2	応用政策分析	2
展開科目		行政管理論	2
A 群		国際政治史	2
公共性論	2	応用公共経済学	2
政策形成論	2	グローバル経済論	2
政策分析	2	国際金融市場政策	2
政治行動学	4	国際協力政策	2
行政学	2	国際機構	2
地方自治論	2	行政組織論	2
政府体系論	2	NGO・NPO論	2
国際政治学	2	現代組織論	2
国際法	2	環境政策	2
地域政策	2	科学技術政策	2

文化政策	2	Citizen Politics in Japan and Beyond	2
観光政策	2	International Relations in East Asia	2
京都観光論	2	Postwar Japan - U.S. Relations	2
環境マネジメント	2	The Politics of Growth in Developing	2
ジェンダーと福祉	2	Countries	
ジェンダーと社会構造	2	Peace and Conflict	2
ジェンダー政策	2	International Human Rights Law	2
スポーツ法政策	2	Topics in Public Policy	2
教育政策	2	Mass Media in the Policymaking	2
リスク管理政策	2	Process	
国際平和政策論	2	International Law and Organizations	2
比較政治学	2	International Political Economy	2
C 群		What Makes Countries Poor?	2
コミュニティ創造政策	2	Development and Law	2
行政責任論	2	Topics in Japan' s Contemporary	2
比較政策論	2	International Relations	
公務員制度	2	World Civilizations	2
行政苦情救済論	2	Asian Civilizations	2
政策法務	2	Migration and Transnationalism	2
雇用関係法	2	Civic Engagement	2
環境法	2	Public Opinion and Political	2
資本市場政策	2	Psychology	
金融政策	2	Politics through Film	2
金融制度	2	選択科目Ⅱ－2	
ベンチャー政策	2	展開科目	
外書講読(英)	2	D 群	
E 群		政策特殊講義Ⅰ	2
国際教育インスティテュートB群		政策特殊講義Ⅱ	4
Social Inequalities in Japan	2	○選択科目Ⅲ	
Ecology and Economy in Japan	2	日本文化史概説(1)	2
The Financial System in Japan	2	日本文化史概説(2)	2
Economic Growth	2	東洋文化史概説(1)	2

東洋文化史概説(2)	2	児童サービス論	2
西洋文化史概説(1)	2	情報サービス演習Ⅰ	2
西洋文化史概説(2)	2	情報サービス演習Ⅱ	2
人文地理学(1)	2	図書館情報資源概論	2
人文地理学(2)	2	情報資源組織論Ⅰ	2
地理学総論(1)	2	情報資源組織論Ⅱ	2
地理学総論(2)	2	情報資源組織演習Ⅰ	2
地誌学	2	情報資源組織演習Ⅱ	2
哲学概論(1)	2	図書館情報学特論	2
哲学概論(2)	2	学術情報利用教育論	2
倫理学概論(1)	2	図書館情報資源特論	2
倫理学概論(2)	2	図書・図書館史	2
心理学概論(1)	2	図書館演習	4
心理学概論(2)	2	学校図書館サービス論	2
社会学概論	4	上記の他, 他学部設置科目, テュービンゲン大学ⅠE	
近代日本政治史	2	S科目, 大学コンソーシアム京都単位互換科目, 同志社	
現代日本政治史	2	女子大学単位互換科目及び日本語・日本文化教育科目の	
近代ヨーロッパ政治史	2	うち, 卒業必要単位と認められる科目から, 選択履修す	
現代ヨーロッパ政治史	2	ること。	
日本社会史(1)	2	国際専修コースは, 上記に加えて国際教育インスティ	
日本社会史(2)	2	テュートA群Ⅰ, A群Ⅱ, B群を除く国際教育イン	
日本地域史研究(1)	2	スティテュート設置科目のうち, 卒業必要単位と認めら	
日本地域史研究(2)	2	れる科目から, 選択履修すること。	
西洋社会史(1)	2	ただし, 日本語・日本文化教育科目は, 外国人留学生	
西洋社会史(2)	2	のみ履修することができる。	
日本商業史	2	また, 外国人留学生が日本語・日本文化教育科目のう	
生涯学習概論	2	ち, 日本語1(読解AⅥ)～日本語1(文法Ⅸ), 日本語2	
図書館情報学概論	2	(読解AⅥ)～日本語2(文法Ⅸ), ビジネス日本語C, ビジ	
図書館制度・経営論	2	ネス日本語Dの単位を履修した場合は, 全学共通教養教	
図書館情報技術論	2	育科目の外国語教育科目のうち, 学部が定める科目の単	
図書館情報サービス論Ⅰ	2	位に代えることができる。	
図書館情報サービス論Ⅱ	2	なお, 外国人留学生が全学共通教養教育科目の外国語	

教育科目から母国語を履修しても卒業単位に算入しない。

○全学共通教養教育科目

卒業必要単位と認められる科目から、選択履修すること。なお、TOEIC 等外国語能力に関する判定試験で一定水準以上の成果を修めた者は、8 単位を限度として、全学共通教養教育科目の外国語教育科目(英語)のうち、学部が定める科目の単位に認定する。また、スポーツ・パフォーマンス 1 は 2 単位まで卒業必要単位に算入する。

○自由科目

免許・資格関係科目

教育原理	2
教職概論	2
教育制度と学校経営	2
学校教育社会学	2
人権教育論	2
発達と学習の心理学	2
特別ニーズ教育論	2
教育課程論	2
道德教育の理論と実践	2
社会科・地理歴史科教育法	2
社会科・公民科教育法	2
社会科教育法 1	2
社会科教育法 2	2
公民科教育法	2
特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2
教育方法と I C T 活用の理論と実践	2
スクールインターンシップ	2
生徒・進路指導の理論と方法	2
教育相談の理論と方法	2
教職実践演習(中・高)	2
教育実習指導	1

教育実習 A	2
教育実習 B	2
教育実習 C	4
学校教育文化論(1)	2
学校教育文化論(2)	2
生涯教育計画論	2
多文化共生社会と生涯学習	2
学校教育図書館論	2
学校図書館メディアの構成	2
学習指導と学校図書館	2
読書と豊かな人間性	2
情報メディアの活用	2
日本の憲法	2
教職コンピュータ実習	2

自由科目は卒業必要単位に算入しない。

履修方法

1. 選択科目Ⅰから 28 単位以上、選択科目Ⅱから 64 単位以上、全学共通教養教育科目から 12 単位以上、合計 124 単位以上を履修すること。ただし、選択科目Ⅰについては、基礎科目 12 単位以上を含めて同Ⅰ－1 から 20 単位以上、選択科目Ⅱについては、同Ⅱ－1 から 64 単位以上、全学共通教養教育科目については、外国語教育科目のうち、学部が定める科目から英語 8 単位以上、英語以外の外国語 4 単位以上を履修すること。

国際専修コースは、選択科目Ⅰから 28 単位以上、選択科目Ⅱから 64 単位以上、全学共通教養教育科目から 12 単位以上、合計 124 単位以上を履修すること。ただし、選択科目Ⅰについては、基礎科目 12 単位以上(国際教育インスティテュート A 群－Ⅰから 4 単位以上を含む)を含めて同Ⅰ－1 から 20 単位以上、選択科目Ⅱについては、国際教育インスティテュート B 群から 16 単位以上を含めて同Ⅱ－1 から 64 単位以上、全学共通

教養教育科目については、外国語教育科目のうち、学部が定める科目から英語 8 単位以上、英語以外の外国語 4 単位以上を履修すること。

2. 国際教養コースは、上記にかかわらず、国際教育インスティテュートに示された履修方法に従って履修すること。

文 化 情 報 学 部

文 化 情 報 学 科

人材養成目的

文化情報学部文化情報学科は、文化の諸事象を、データサイエンスを中心とした様々な科学的手法を駆使して研究し、文化の根底にある人間の本質の理解を目指した教育研究活動をととして、文化事象に対する理解力、課題解決能力、情報の収集・分析・判断・発信能力及び柔軟な発想力を身に付け、高い倫理観と責任感を有し、国内外の各分野において活躍できる人材を育成することを目的とする。

科 目

履修単位

○必修科目

文化情報学入門	2
コロキアム	1
文化情報学演習 1	1
文化情報学演習 2	1
文化情報学演習 3	1
ジョイント・リサーチ I	1
ジョイント・リサーチ II	1
アドバンスト・コロキアム	1
卒業研究 I	4
卒業研究 II	4

○選択科目 I (専門教育科目)

A 群(文化クラスター科目群)

文化資源学科目

日本文化史	2
文化計量学入門	2
現代文化概論	2
歴史文化情報入門	2
文献学入門	2
歴史文化情報概説	2
文献講読	2
伝統音楽論	2
文献解析	2
美術史学	2
歴史文化情報論	2
文化記号論	2
古典文化論	2
文化解析	2
音楽解析	2
文化・社会人類学	2
言語データ科学科目	

ことばと文化	2
ことばの科学	2
ことばと社会	2
世界の諸言語	2
コーパス言語学	2
言語研究の方法 1	2
言語類型論	2
言語研究の方法 2	2
語用論	2
認知言語学	2
統語論	2
言語と脳科学	2
音韻論	2

行動データ科学科目		ベイズ統計	2
身体論	2	情報・コンピュータ科目	
認知科学入門	2	インターネット技術	2
人間と感性	2	情報倫理	2
感覚・知覚論	2	コンピュータの仕組み	2
身体メディア論	2	情報理論	2
認知科学の方法	2	アルゴリズムとデータ構造	2
認知科学実習	2	翻訳解析	2
視覚表現論	2	情報アクセス技術	2
認知システム論	2	ヒューマンコンピュータインタラクション	2
社会調査入門	2	データベースシステム	2
社会調査法	2	情報セキュリティ	2
社会調査演習	2	プログラミング入門	2
行動計量分析法	2	プログラミング基礎	2
計量社会学	2	プログラミング応用	2
社会ネットワーク分析	2	基礎数理科目	
人間と文化	2	論理と数理	2
比較文化論	2	数学入門	2
A群は、18単位以上を選択履修すること。		線形代数	2
B 群(データサイエンス科目群)		離散数学	2
データ分析科目		微分積分	2
データサイエンス入門	2	確率・統計	2
データサイエンス入門演習	2	微分方程式	2
データサイエンス基礎	2	数理統計	2
データサイエンス演習	2	現象と数理	2
定量的データ分析	2	多変量解析	2
定量的データ分析演習	2	数理モデル	2
定性的データ分析	2	決定理論	2
定性的データ分析演習	2	時系列解析	2
機械学習	2	数値解析	2
テキストマイニング	2	最適化法	2
データハンドリング	2	B群は、18単位以上を選択履修すること。	

C 群(体験型教養科目)

体験型教養科目

2

C群は、異なるタイトルから2クラス以上、4単位以上を選択履修すること。

○選択科目Ⅱ(教養教育科目)

D 群

D群は、全学共通教養教育科目(同志社科目、キャリア形成支援科目、国際教養科目、クリエイティブ・ジャパン科目、人文科学系科目、社会科学系科目、自然・人間科学系科目、複合領域科目、プロジェクト科目、保健体育科目)及び日本語・日本文化教育科目(「日本語1(読解AⅥ)」～「日本語2(文法Ⅸ)」,「ビジネス日本語C」,「ビジネス日本語D」を除く)のうち、学部が卒業必要単位と認める科目から、16単位以上選択履修すること。

但し、保健体育科目のうち、「スポーツ・パフォーマンス1」から4単位、その他の保健体育科目から4単位を限度として卒業必要単位に算入する。

日本語・日本文化教育科目は、外国人留学生のみ履修することができる。

E 群

E群は、全学共通教養教育科目(外国語教育科目)の英語のうち、学部が卒業必要単位と認める科目から、8単位以上選択履修すること。

TOEIC® LISTENING AND READING TEST, TOEFL iBT®テスト、実用英語技能検定、国際連合公用語英語検定において、一定水準以上の成果を修めた者は、8単位を限度としてE群の単位として認定する。

F 群

F群は、全学共通教養教育科目 外国語教育科目 英語以外の外国語および日本語・日本文化教育科目「日本語1(読解AⅥ)」～「日本語2(文法Ⅸ)」,「ビジネス日本語C」,「ビジネス日本語D」のうち、学部が卒業必要単

位と認める科目から、4単位以上選択履修すること。

日本語・日本文化教育科目「日本語1(読解AⅥ)」～

「日本語2(文法Ⅸ)」,「ビジネス日本語C」,「ビジネス日本語D」は、外国人留学生のみ履修することができる。

G 群

情報処理演習

1

代数学

2

幾何学 I

2

幾何学 II

2

教科教育法 A1(数学)

2

教科教育法 A2(数学)

2

教科教育法 B(数学)

2

教科教育法 C(数学)

2

教科教育法 A(情報)

2

教科教育法 B(情報)

2

社会科・地理歴史科教育法

2

社会科・公民科教育法

2

社会科教育法 1

2

社会科教育法 2

2

地理歴史科教育法

2

公民科教育法

2

教職実践演習(中・高)

2

教育実習指導

1

教育実習 A

2

教育実習 B

2

教育実習 C

4

教職概論

2

教育原理

2

発達と学習の心理学

2

教育制度と学校経営

2

学校教育社会学

2

教育課程論

2

道徳教育の理論と実践	2	修科目及びテュービンゲン大学 I E S 科目のうち、学部
特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2	が卒業必要単位と認める科目から履修すること。
教育方法と I C T 活用の理論と実践	2	○自由科目
生徒・進路指導の理論と方法	2	情報メディア 2
教育相談の理論と方法	2	情報と職業 2
スクールインターンシップ	2	コンピュータと数学 2
人権教育論	2	コンピュータグラフィックス 2
哲学概論(1)	2	情報メディア実習 1
哲学概論(2)	2	情報と社会 2
倫理学概論(1)	2	特別ニーズ教育論 2
倫理学概論(2)	2	学校図書館サービス論 2
日本文化史概説(1)	2	自由科目は、卒業必要単位に算入しない。
日本文化史概説(2)	2	履修方法
地誌学	2	必修科目 17 単位，選択科目 I は 56 単位以上，選択科
西洋文化史概説(1)	2	目 II は 40 単位以上，合計 124 単位以上を履修すること。
西洋文化史概説(2)	2	
東洋文化史概説(1)	2	
東洋文化史概説(2)	2	理 工 学 部
人文地理学(1)	2	人材養成目的
人文地理学(2)	2	理工学部は、同志社建学の精神を尊重しつつ各学科独
地理学総論(1)	2	自に実践される固有の教育内容について、それぞれの学
地理学総論(2)	2	問領域の真髄の修得を目指して設置された学科目とそれら
社会学概論	4	を体系的に編成した履修課程をとおして、本学部学生が
経済原論	4	科学と工学の基礎及び応用理論を広く身に付けて、一国の
生涯学習概論	2	良心として各界において活躍する人材を養成することを
心理学概論(1)	2	目的とする。
心理学概論(2)	2	
博物館情報メディア論	2	インテリジェント情報工学科
日本の憲法	2	人材養成目的
G 群は、上記科目並びに他学部設置科目、同志社女子		インテリジェント情報工学科は、情報処理について、
大学単位互換科目、大学コンソーシアム京都単位互換科		その「インテリジェント化」、「ネットサークル化」、「ユビ
目、早稲田大学交流協定科目、外国協定大学における履		キタス化」、「サービス化」を指向した教育カリキュラム

をととして、情報システム開発の各領域・分野における専門性の高い技術的課題の解決を担い得る能力、ならびに企画・立案を他者と交わりながら実施できる技能を身に付けて、情報技術分野等において活躍できる人材を養成することを目的とする。

科 目	履修単位		
○必修科目		オペレーティングシステム	2
		言語理論	2
		通信ネットワーク	2
		計算機ハードウェア	2
		データベースシステム	2
		コンピュータ基礎実習	1
		A I - 2	
情報工学概論 I	1	運動学の基礎	2
情報工学概論 II	1	知的財産権	2
情報工学実験 I	2	Cプログラミング III	1
情報工学実験 II	2	技術英語 I	1
情報工学応用論	1	技術英語 II	1
卒業論文 I	2	解析学 II	2
卒業論文 II	2	微分方程式 I	2
○選択科目		線形代数学 II	2
A群 I 類		電気の基礎	2
A I - 1 a		微分方程式 II	2
情報工学実験 III	2	画像処理	2
特別演習実習	2	フーリエ解析	2
A I - 1 b		応用数理解析	2
解析学 I	2	情報数学 II	2
線形代数学 I	2	複素解析	2
情報数学 I	2	情報理論	2
数理統計学	2	情報メディア実習	1
A I - 1 c		アルゴリズムとデータ構造	2
Cプログラミング I	2	計算機アーキテクチャ	2
Cプログラミング II	2	数値計算法	2
J a v a プログラミング I	2	特別講義 A	2
J a v a プログラミング II	2	特別講義 B	2
A I - 1 d		学外実習 1	2
コンピュータネットワーク	2	学外実習 2	2
コンピュータグラフィックス	2	知識情報処理	2

パターン認識	2	Academic English for Science 4	1
自然言語処理	2	選択科目B群Ⅰ類(第一外国語科目)は、上記科目及び	
情報システム工学	2	全学共通教養教育科目の外国語教育科目の英語のうち、	
符号理論	2	卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。	
情報セキュリティ	2	なお、TOEIC等外国語能力に関する判定試験で一定の水	
デジタル信号処理	2	準以上の成果を修めた者は、4単位を限度として、B群	
不規則信号論	2	Ⅰ類の単位に認定する。	
ワイヤレス通信	2	B群Ⅱ類	
情報メディア	2	第二外国語科目	
応用数理統計学	2	選択科目B群Ⅱ類(第二外国語科目)は、全学共通教養	
メカトロニクス基礎	2	教育科目の外国語教育科目の英語以外の外国語(イタリ	
センシング制御工学	2	ア語を除く)のうち、卒業必要単位と認められる科目か	
ロボティクス	2	ら選択履修すること。	
ソフトウェア工学	2	ただし、英語以外の各外国語の会話科目は、2単位を	
J a v aプログラミングⅢ	1	上限として卒業必要単位に算入する。	
機械学習	2	B群Ⅲ類	
音声処理	2	選択科目B群Ⅲ類は、全学共通教養教育科目(同志社科	
A群Ⅱ類		目、キャリア形成支援科目、国際教養科目、クリエイティ	
ネットワーク応用	2	ブ・ジャパン科目、人文科学系科目、社会科学系科目、自	
ヒューマンインタフェース	2	然・人間科学系科目、複合領域科目、プロジェクト科目、	
コラボレーション工学	2	保健体育科目)、他学部設置科目、同志社女子大学単位互	
数値解析	2	換科目、大学コンソーシアム京都単位互換科目及びテュ	
ネットワークシステム構成論	2	ービンゲン大学IES科目のうち、卒業必要単位と認め	
上記の科目に加え、協定校単位互換科目のうち卒業必		られる科目から選択履修すること。	
要単位と認められる科目から選択履修すること。		ただし、保健体育科目は、スポーツ・パフォーマンス	
ただし、協定校単位互換科目は、8単位を限度として		1から4単位、その他の保健体育科目から4単位、計8	
卒業必要単位に算入される。		単位を限度として卒業必要単位に算入される。	
B群Ⅰ類		C群	
第一外国語科目		情報と社会	2
Academic English for Science 1	1	情報システム実習	1
Academic English for Science 2	1	情報通信ネットワーク実習	1
Academic English for Science 3	1	情報と職業	2

○外国人留学生科目

外国人留学生科目の履修は、外国人留学生に限る。外国人留学生科目は、日本語・日本文化教育科目から選択履修し、日本語1(読解AⅥ)～日本語1(文法Ⅸ)、日本語2(読解AⅥ)～日本語2(文法Ⅸ)、ビジネス日本語C、Dのうち4単位を、選択科目B群Ⅱ類のうち一種類の外国語の単位に代えることができる。その他の科目は、選択科目B群Ⅲ類の単位として、卒業必要単位に算入される。

履修方法

必修科目 11 単位、選択科目 117 単位以上、合計 128 単位以上を履修しなければならない。

ただし、選択科目については、A群はⅠ類から 77 単位以上(うちAⅠ－1 a から 2 単位、AⅠ－1 b から 4 単位以上、AⅠ－1 c から 4 単位以上、AⅠ－1 d から 10 単位以上)を含めて 86 単位以上、B群はⅠ類から 8 単位以上、Ⅱ類から 4 単位以上、Ⅲ類から 10 単位以上(うち全学共通教養教育科目の同志社科目及びその関連科目 2 単位以上)を含めて 22 単位以上履修しなければならない。

○自由科目

数学基礎 1	1
数学基礎 2	1
電気設備・法規	2
代数学	2
幾何学Ⅰ	2
幾何学Ⅱ	2
物理学の基礎	1
生物学概論Ⅰ	2
生物学概論Ⅱ	2
地学概論Ⅰ	2
地学概論Ⅱ	2
人権教育論	2

教育課程論	2
教科教育法 A(情報)	2
教科教育法 B(情報)	2
教育教育法 A1(数学)	2
教育教育法 A2(数学)	2
教育教育法 B(数学)	2
教育教育法 C(数学)	2
教育実習指導	1
教育実習 A	2
教育実習 B	2
教育実習 C	4
教職実践演習(中・高)	2
特別ニーズ教育論	2

情報システムデザイン学科

人材養成目的

情報システムデザイン学科は、情報システム設計について、情報科学・情報工学を基礎から発展へと体系的に学ぶことができる教育カリキュラムをとおして、社会や生活に役立つ新しい情報システムを設計・開発するために必要な知識・技術を身に付けて、企画・設計・開発ができる技能を有し、幅広い分野で活躍する人材を養成することを目的とする。

科 目 履修単位

○必修科目

計算機構成論	2
論理回路	2
プログラミング J a v a Ⅰ	2
プログラミング J a v a Ⅱ	2
人間と情報システムⅠ	1
人間と情報システムⅡ	1
情報ネットワーク	2

プログラミングC言語 I	2	線形代数学 II	2
アルゴリズムとデータ構造入門	2	解析学 II	2
情報システム演習実験 I	2	論理表現	2
情報システム演習実験 II	2	シミュレーション基礎演習	2
データ工学	2	情報科学基礎	2
情報システム応用	2	情報システム概論	2
情報システム演習実験 III	2	情報表現	2
ソフトウェア工学	2	システム情報学基礎	2
画像工学	2	ソフトウェア設計技法	2
オペレーティングシステム	2	連続表現	2
社会情報システム	2	電気の基礎	2
技術英語	2	プログラミング J a v a III	2
マルチメディア信号処理	2	マルチエージェント工学	2
機械学習	2	ヒューマンインタフェース	2
卒業論文 I	2	コラボレーション工学	2
卒業論文 II	2	情報システムと文化	2
○選択科目		システム情報学 I	2
A群 I 類		情報システム実習	1
A I - 1 a		特別演習実習	2
数理統計学	2	プログラミングC言語 II	2
線形代数学 I	2	プログラミングC言語 III	2
解析学 I	2	ネットワーク応用	2
情報数学の基礎	2	ネットワークシステム構成論	2
A I - 1 b		インテリジェントアルゴリズム	2
システムと制御の数理	2	人工知能	2
応用数理解析	2	自然言語処理	2
数値解析	2	画像処理	2
多変量解析	2	システムプログラミング	2
A I - 2		特別講義	2
物理学の基礎	2	e - ラーニング	2
数学の基礎 I	2	システム情報学 II	2
数学の基礎 II	2	知的財産権	2

学外実習 1	2	選択科目 B 群Ⅱ類(第二外国語科目)は、全学共通教養
学外実習 2	2	教育科目の外国語教育科目の英語以外の外国語(イタリ
A 群Ⅱ類		ア語を除く)のうち、卒業必要単位と認められる科目から
メカトロニクス基礎	2	選択履修すること。
センシング制御工学	2	ただし、英語以外の各外国語の会話科目は、2 単位を
フーリエ解析	2	上限として卒業必要単位に算入する。
情報理論	2	B 群Ⅲ類
ロボティクス	2	選択科目 B 群Ⅲ類は、全学共通教養教育科目(同志社科
不規則信号論	2	目、キャリア形成支援科目、国際教養科目、クリエイティ
情報セキュリティ	2	ブ・ジャパン科目、人文科学系科目、社会科学系科目、自
ワイヤレス通信	2	然・人間科学系科目、複合領域科目、プロジェクト科目、
符号理論	2	保健体育科目)、他学部設置科目、同志社女子大学単位互
データベースシステム	2	換科目、大学コンソーシアム京都単位互換科目及びテュ
知識情報処理	2	ービンゲン大学 I E S 科目のうち、卒業必要単位と認め
上記の科目に加え、協定校単位互換科目のうち卒業必		られる科目から選択履修すること。
要単位と認められる科目から選択履修すること。		ただし、保健体育科目は、スポーツ・パフォーマンス
ただし、協定校単位互換科目は、8 単位を限度として		1 から 4 単位、その他の保健体育科目から 4 単位、計 8
卒業必要単位に算入される。		単位を限度として卒業必要単位に算入される。
B 群Ⅰ類		C 群
第一外国語科目		情報と社会 2
Academic English for Science 1	1	情報メディア実習 1
Academic English for Science 2	1	情報通信ネットワーク実習 1
Academic English for Science 3	1	情報と職業 2
Academic English for Science 4	1	○外国人留学生科目
選択科目 B 群Ⅰ類(第一外国語科目)は、上記科目及び		外国人留学生科目の履修は、外国人留学生に限る。外
全学共通教養教育科目の外国語教育科目の英語のうち、		国人留学生科目は、日本語・日本文化教育科目から選択
卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。		履修し、日本語 1(読解 AⅥ)～日本語 1(文法Ⅸ)、日本語
なお、TOEIC 等外国語能力に関する判定試験で一定の水		2(読解 AⅥ)～日本語 2(文法Ⅸ)、ビジネス日本語 C、D
準以上の成果を修めた者は、4 単位を限度として、B 群		のうち 4 単位を、選択科目 B 群Ⅱ類のうち一種類の外国
Ⅰ類の単位に認定する。		語の単位に代えることができる。その他の科目は、選択
B 群Ⅱ類		科目 B 群Ⅲ類の単位として、卒業必要単位に算入される。
第二外国語科目		履修方法

必修科目 44 単位，選択科目 84 単位以上，合計 128 単位以上を履修しなければならない。

ただし，選択科目については，A 群はⅠ類から 44 単位以上（うち AⅠ－1a から 2 単位以上，AⅠ－1b から 2 単位以上，AⅠ－2 から 40 単位以上）を含めて 54 単位以上履修しなければならない。B 群はⅠ類から 8 単位以上，Ⅱ類から 4 単位以上，Ⅲ類から 10 単位以上（うち全学共通教養教育科目の同志社科目及びその関連科目 2 単位以上）を含めて 22 単位以上履修しなければならない。

○自由科目

人権教育論	2
教育課程論	2
通信ネットワーク	2
情報メディア	2
代数学	2
幾何学Ⅰ	2
幾何学Ⅱ	2
教科教育法 A1(数学)	2
教科教育法 A2(数学)	2
教科教育法 B(数学)	2
教科教育法 C(数学)	2
教科教育法 A(情報)	2
教科教育法 B(情報)	2
教育実習指導	1
教育実習 A	2
教育実習 B	2
教育実習 C	4
教職実践演習(中・高)	2
特別ニーズ教育論	2

電 気 工 学 科

人材養成目的

電気工学科は，電気工学に関連する基礎知識及び最先端技術について，実験を重視した体験的な学修をとおし，電気工学の基本的知識とそれを応用・展開する能力を身に付けて，民間企業や官民の研究機関，教育機関等において独創的で高度な課題解決能力を有するエンジニアとして活躍する人材を養成することを目的とする。

科 目	履修単位
○必修科目	
電気磁気学Ⅰ	3
電気磁気学Ⅱ	3
電気回路学Ⅰ	3
電気回路学Ⅱ	3
コンピュータプログラミングⅠ	1
基礎演習実験	2
電気基礎実験Ⅰ	2
電気基礎実験Ⅱ	2
電気基礎実験Ⅲ	2
電気工学実験Ⅰ	2
電気工学実験Ⅱ	2
ゼミ演習	1
卒業論文Ⅰ	2
卒業論文Ⅱ	2
○選択科目	
A 群Ⅰ類	
AⅠ－1a	
解析学Ⅰ	2
解析学Ⅱ	2
線形代数学	2
ベクトル幾何	2
微分方程式	2
複素解析	2
フーリエ解析	2

数値解析	2	制御工学	2
数理統計学	2	環境電磁工学	2
基礎物理学 I	2	メカトロニクス	2
基礎物理学 II	2	インフラストラクチャ概論	2
基礎物理学 II 演習	1	電気電子工学入門	2
振動と波動	2	特別講義 A	2
A I - 1 b		特別講義 B	2
電子回路	2	学外実習 1	2
電気・電子計測 I	2	学外実習 2	2
電気エネルギー工学 I	2	A 群 II 類	
パワーエレクトロニクス	2	電磁波論	2
過渡現象論	2	超音波エレクトロニクス I	2
分布定数回路論	2	超音波エレクトロニクス II	2
電気電子材料	2	アンテナ工学	2
A I - 2		情報理論	2
高電圧工学	2	通信方式	2
電気機器学 I	2	マイクロ波工学	2
電気機器学 II	2	光通信工学	2
電気エネルギー工学 II	2	光エレクトロニクス	2
アナログ電子回路	2	シグナルプロセッシング	2
ディジタル電子回路	2	伝送線路論	2
コンピュータプログラミング II	1	電子デバイス I	2
電気・電子計測 II	2	電子デバイス II	2
コンピュータ応用解析	2	固体物性論	2
コンピュータシステム入門	2	電子工学実験 I	2
応用力学	2	電子工学実験 II	2
熱統計力学	2	放射線科学	2
量子力学	2	知的財産権	2
ディジタル制御	2	上記の科目に加え、協定校単位互換科目のうち卒業必	
プラズマ工学	2	要単位と認められる科目から選択履修すること。	
電気設備・法規	2	ただし、協定校単位互換科目は、10 単位を限度として	
電気機器設計法	2	卒業必要単位に算入される。	

B群Ⅰ類

第一外国語科目

Academic English for Science 1	1
Academic English for Science 2	1
Academic English for Science 3	1
Academic English for Science 4	1

選択科目B群Ⅰ類(第一外国語科目)は、上記科目及び全学共通教養教育科目の外国語教育科目の英語のうち、卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。なお、TOEIC等外国語能力に関する判定試験で一定の水準以上の成果を修めた者は、4単位を限度として、B群Ⅰ類の単位に認定する。

B群Ⅱ類

第二外国語科目

選択科目B群Ⅱ類(第二外国語科目)は、全学共通教養教育科目の外国語教育科目の英語以外の外国語(イタリア語を除く)のうち、卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。

ただし、英語以外の各外国語の会話科目は、2単位を上限として卒業必要単位に算入する。

B群Ⅲ類

選択科目B群Ⅲ類は、全学共通教養教育科目(同志社科目、キャリア形成支援科目、国際教養科目、クリエイティブ・ジャパン科目、人文科学系科目、社会科学系科目、自然・人間科学系科目、複合領域科目、プロジェクト科目、保健体育科目)、他学部設置科目、同志社女子大学単位互換科目、大学コンソーシアム京都単位互換科目及びテュービンゲン大学IES科目のうち、卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。

ただし、保健体育科目は、スポーツ・パフォーマンス1から4単位、その他の保健体育科目から4単位、計8単位を限度として卒業必要単位に算入される。

○外国人留学生科目

外国人留学生科目の履修は、外国人留学生に限る。外国人留学生科目は、日本語・日本文化教育科目から選択履修し、日本語1(読解AⅥ)～日本語1(文法Ⅸ)、日本語2(読解AⅥ)～日本語2(文法Ⅸ)、ビジネス日本語C、Dのうち4単位を、選択科目B群Ⅱ類のうち一種類の外国語の単位に代えることができる。その他の科目は、選択科目B群Ⅲ類の単位として、卒業必要単位に算入される。

履修方法

必修科目30単位、選択科目98単位以上、合計128単位以上を履修しなければならない。

ただし、選択科目については、A群はⅠ類から60単位以上(うちAⅠ-1aから20単位以上、AⅠ-1bから10単位以上)、B群はⅠ類から8単位以上、Ⅱ類から4単位以上、Ⅲ類のうち全学共通教養教育科目の同志社科目及びその関連科目2単位以上を含めて22単位以上履修しなければならない。

○自由科目

数学基礎 1	1
数学基礎 2	1
環境経済学	2
代数学	2
幾何学Ⅰ	2
幾何学Ⅱ	2
人権教育論	2
教育課程論	2
教科教育法 A1(数学)	2
教科教育法 A2(数学)	2
教科教育法 B(数学)	2
教科教育法 C(数学)	2
教育実習指導	1
教育実習 A	2

教育実習 B	2	解析学 I	2
教育実習 C	4	解析学 II	2
教職実践演習(中・高)	2	線形代数学	2
特別ニーズ教育論	2	ベクトル幾何	2
		微分方程式	2
		複素解析	2
		フーリエ解析	2
		数値解析	2
		数理統計学	2
		基礎物理学 I	2
		基礎物理学 II	2
		基礎物理学 II 演習	1
		振動と波動	2
電 子 工 学 科			
人材養成目的			
電子工学科は、電子工学に関連する基礎知識及び最先端技術について、実験を重視した体験的な学修をととして、電子工学の基本的知識とそれを応用・展開する能力を身に付けて、民間企業や官民の研究機関、教育機関等においてダイナミックな技術革新に柔軟に対応できるエンジニアとして活躍する人材を養成することを目的とする。			
科 目	履修単位	A I - 1 b	
○必修科目		電子回路	2
電気磁気学 I	3	電気・電子計測 I	2
電気磁気学 II	3	伝送線路論	2
電気回路学 I	3	電磁波論	2
電気回路学 II	3	電子デバイス I	2
コンピュータプログラミング I	1	シグナルプロセッシング	2
基礎演習実験	2	電気電子材料	2
電気基礎実験 I	2	A I - 2	
電気基礎実験 II	2	アンテナ工学	2
電気基礎実験 III	2	超音波エレクトロニクス I	2
電子工学実験 I	2	超音波エレクトロニクス II	2
電子工学実験 II	2	マイクロ波工学	2
ゼミ演習	1	量子力学	2
卒業論文 I	2	コンピュータ応用解析	2
卒業論文 II	2	コンピュータプログラミング II	1
○選択科目		電気・電子計測 II	2
A 群 I 類		アナログ電子回路	2
A I - 1 a		デジタル電子回路	2

光エレクトロニクス	2	放射線科学	2
コンピュータシステム入門	2	知的財産権	2
応用力学	2	上記の科目に加え、協定校単位互換科目のうち卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。	
熱統計力学	2	ただし、協定校単位互換科目は、10 単位を限度として卒業必要単位に算入される。	
光通信工学	2	B 群Ⅰ類	
通信方式	2	第一外国語科目	
情報理論	2	Academic English for Science 1	1
過渡現象論	2	Academic English for Science 2	1
固体物性論	2	Academic English for Science 3	1
電子デバイスⅡ	2	Academic English for Science 4	1
インフラストラクチャ概論	2	選択科目 B 群Ⅰ類(第一外国語科目)は、上記科目及び全学共通教養教育科目の外国語教育科目の英語のうち、卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。	
電気電子工学入門	2	なお、TOEIC 等外国語能力に関する判定試験で一定の水準以上の成果を修めた者は、4 単位を限度として、B 群Ⅰ類の単位に認定する。	
特別講義 A	2	B 群Ⅱ類	
特別講義 B	2	第二外国語科目	
学外実習 1	2	選択科目 B 群Ⅱ類(第二外国語科目)は、全学共通教養教育科目の外国語教育科目の英語以外の外国語(イタリア語を除く)のうち、卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。	
学外実習 2	2	ただし、英語以外の各外国語の会話科目は、2 単位を上限として卒業必要単位に算入する。	
A 群Ⅱ類		B 群Ⅲ類	
電気機器学Ⅰ	2	選択科目 B 群Ⅲ類は、全学共通教養教育科目(同志社科目、キャリア形成支援科目、国際教養科目、クリエイティブ・ジャパン科目、人文科学系科目、社会科学系科目、自然・人間科学系科目、複合領域科目、プロジェクト科目、保健体育科目)、他学部設置科目、同志社女子大学単位互	
電気機器学Ⅱ	2		
電気エネルギー工学Ⅰ	2		
電気エネルギー工学Ⅱ	2		
制御工学	2		
デジタル制御	2		
パワーエレクトロニクス	2		
高電圧工学	2		
プラズマ工学	2		
メカトロニクス	2		
環境電磁工学	2		
電気工学実験Ⅰ	2		
電気工学実験Ⅱ	2		
電気設備・法規	2		
電気機器設計法	2		

換科目、大学コンソーシアム京都単位互換科目及びテュービンゲン大学 I E S 科目のうち、卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。

ただし、保健体育科目は、スポーツ・パフォーマンス 1 から 4 単位、その他の保健体育科目から 4 単位、計 8 単位を限度として卒業必要単位に算入される。

○外国人留学生科目

外国人留学生科目の履修は、外国人留学生に限る。外国人留学生科目は、日本語・日本文化教育科目から選択履修し、日本語 1 (読解 A VI)～日本語 1 (文法 IX)、日本語 2 (読解 A VI)～日本語 2 (文法 IX)、ビジネス日本語 C、D のうち 4 単位を、選択科目 B 群Ⅱ類のうち一種類の外国語の単位に代えることができる。その他の科目は、選択科目 B 群Ⅲ類の単位として、卒業必要単位に算入される。

履修方法

必修科目 30 単位、選択科目 98 単位以上、合計 128 単位以上を履修しなければならない。

ただし、選択科目については、A 群はⅠ類から 60 単位以上(うち AⅠ－1 a から 20 単位以上、AⅠ－1 b から 10 単位以上)、B 群はⅠ類から 8 単位以上、Ⅱ類から 4 単位以上、Ⅲ類のうち全学共通教養教育科目の同志社科目及びその関連科目 2 単位以上を含めて 22 単位以上履修しなければならない。

○自由科目

数学基礎 1	1
数学基礎 2	1
環境経済学	2
幾何学Ⅰ	2
幾何学Ⅱ	2
人権教育論	2
教育課程論	2
代数学	2

教科教育法 A1(数学)	2
教科教育法 A2(数学)	2
教科教育法 B(数学)	2
教科教育法 C(数学)	2
教育実習指導	1
教育実習 A	2
教育実習 B	2
教育実習 C	4
教職実践演習(中・高)	2
特別ニーズ教育論	2

機 械 シ ス テ ム 工 学 科

人材養成目的

機械システム工学科は、ものづくりを原点とする最先端技術に必要な機械システムの構築と創成に関わる技術分野について、講義と実習をとおして、それらの基礎を十分に学習し、次世代の機械とシステムの技術開発や問題解決を行う技術者としての能力と、それらを自らの良心に基づき運用できる技術者としての倫理観を身に付けて、安全・安心な社会の発展に貢献する人材を養成することを目的とする。

科 目	履修単位
○必修科目	
機械工学概論	2
線形代数学Ⅰ	2
線形代数学Ⅱ	2
解析学Ⅰ	2
解析学Ⅱ	2
確率・統計Ⅰ	2
物理学Ⅰ	2
工業材料Ⅰ	2
力学Ⅰ	2

材料力学 I	2	専門系共通選択科目	
材料加工 I	2	AⅡ－1	
熱力学 I・同演習	2	工学共通科目	
流れ学 I・同演習	2	数学基礎 1	1
機械力学 I・同演習	2	数学基礎 2	1
制御工学 I・同演習	2	物理基礎 1	1
機械物理実験	2	物理基礎 2	1
機械工学実験	2	管理工学	2
製図学	2	電気回路基礎	2
機械製作法	2	電子回路基礎	2
機械製図学	2	機械工学基礎科目	
機械設計製作	2	数値計算・同演習	2
機械設計製図	2	数値シミュレーション	2
機械設計法 I	2	コンピュータ支援設計	2
英書講読	1	計測工学	2
卒業論文 I	2	機械設計法演習	2
卒業論文 II	2	学外実習 1	2
○選択科目		学外実習 2	2
A群Ⅰ類		特別機械工学実験	2
必修選択科目		AⅡ－2	
応用数学 I	2	機械工学専門科目	
コンピュータプログラミング	2	応用数学 II	2
力学 II	2	フーリエ・ラプラス解析	2
材料力学 II	2	物理学 II	2
熱力学 II・同演習	2	複素解析	2
流れ学 II・同演習	2	解析力学	2
機械力学 II・同演習	2	確率・統計 II	2
制御工学 II・同演習	2	統計力学	2
機械設計法 II	2	工業材料 II	2
選択科目A群Ⅰ類については、上記に掲げるすべての		材料加工 II	2
科目を登録し、授業を受けなければならない。		材料力学 I 演習	2
A群Ⅱ類		材料力学 II 演習	2

材料力学 Ⅲ	2	選択科目B群Ⅱ類(第二外国語科目)は、全学共通教養	
連続体力学	2	教育科目の外国語教育科目の英語以外の外国語(イタリ	
流体力学	2	ア語を除く)のうち、卒業必要単位と認められる科目から	
伝熱工学	2	選択履修すること。	
流れ学 Ⅲ	2	ただし、英語以外の各外国語の会話科目は、2単位を	
熱力学 Ⅲ	2	上限として卒業必要単位に算入する。	
デジタル制御・同演習	2	B群Ⅲ類	
機械力学 Ⅲ	2	選択科目B群Ⅲ類は、全学共通教養教育科目(同志社科	
制御工学 Ⅲ	2	目、キャリア形成支援科目、国際教養科目、クリエイティ	
弾性力学	2	ブ・ジャパン科目、人文科学系科目、社会科学系科目、自	
塑性力学	2	然・人間科学系科目、複合領域科目、プロジェクト科目、	
エネルギー変換工学	2	保健体育科目)、他学部設置科目、同志社女子大学単位互	
移動現象論	2	換科目、大学コンソーシアム京都単位互換科目及びテュ	
知的財産権	2	ービンゲン大学 I E S 科目のうち、卒業必要単位と認め	
上記の科目に加え、協定校単位互換科目のうち卒業必		られる科目から選択履修すること。	
要単位と認められる科目から選択履修すること。		ただし、保健体育科目は、スポーツ・パフォーマンス	
ただし、協定校単位互換科目は、8単位を限度として		1から4単位、その他の保健体育科目から4単位、計8	
卒業必要単位に算入される。		単位を限度として卒業必要単位に算入される。	
B群Ⅰ類		C 群	
第一外国語科目		教職選択科目	
Academic English for Science 1	1	数理統計学	2
Academic English for Science 2	1	生物学概論Ⅰ	2
Academic English for Science 3	1	地学概論Ⅰ	2
Academic English for Science 4	1	地学概論Ⅱ	2
選択科目B群Ⅰ類(第一外国語科目)は、上記科目及び		代数学	2
全学共通教養教育科目の外国語教育科目の英語のうち、		幾何学Ⅰ	2
卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。		幾何学Ⅱ	2
なお、TOEIC等外国語能力に関する判定試験で一定の水		コンピュータと数学	2
準以上の成果を修めた者は、4単位を限度として、B群		地学実験	1
Ⅰ類の単位に認定する。		物理実験	2
B群Ⅱ類		生物学実験	1
第二外国語科目		化学実験	2

○外国人留学生科目

外国人留学生科目の履修は、外国人留学生に限る。外国人留学生科目は、日本語・日本文化教育科目から選択履修し、日本語1(読解AⅥ)～日本語1(文法Ⅸ)、日本語2(読解AⅥ)～日本語2(文法Ⅸ)、ビジネス日本語C、Dのうち4単位を、選択科目B群Ⅱ類のうち一種類の外国語の単位に代えることができる。その他の科目は、選択科目B群Ⅲ類の単位として、卒業必要単位に算入される。

履修方法

必修科目 51 単位、選択科目 77 単位以上、合計 128 単位以上を履修しなければならない。

ただし、選択科目については、A群Ⅰ類から10単位以上、A群Ⅱ類から36単位以上(うちAⅡ－1から8単位以上)、B群(うちⅠ類から8単位以上、Ⅱ類から4単位以上、Ⅲ類のうち全学共通教養教育科目の同志社科目及びその関連科目2単位以上)及びC群から18単位以上履修しなければならない。

○自由科目

環境経済学	2
有機化学Ⅰ	2
有機化学Ⅱ	2
有機化学Ⅲ	2
有機化学Ⅳ	2
生物学概論Ⅱ	2
教科教育法 A1(数学)	2
教科教育法 A2(数学)	2
教科教育法 B(数学)	2
教科教育法 C(数学)	2
代数学Ⅲ	2
応用幾何学	2
人権教育論	2
教育課程論	2

教科教育法 A1(理科)	2
教科教育法 A2(理科)	2
教科教育法 B(理科)	2
教科教育法 C(理科)	2
教育実習指導	1
教育実習 A	2
教育実習 B	2
教育実習 C	4
教職実践演習(中・高)	2
特別ニーズ教育論	2

機 械 理 工 学 科

人材養成目的

機械理工学科は、自然科学の原理を理解しその応用を可能とする技術分野について、講義と実習をとおし、それらの基礎を十分に学習し、地球資源の有効利用や環境に優しい機械に関する技術を開発する技術者としての能力と、それらを自らの良心に基づき運用できる技術者としての倫理観を身に付けて、理工学の視点を有し、持続可能な社会の構築に貢献する人材を養成することを目的とする。

科 目	履修単位
○必修科目	
機械工学概論	2
線形代数学Ⅰ	2
線形代数学Ⅱ	2
解析学Ⅰ	2
解析学Ⅱ	2
確率・統計Ⅰ	2
物理学Ⅰ	2
工業材料Ⅰ	2
力学Ⅰ	2

材料力学 I	2	専門系共通選択科目	
材料加工 I	2	AⅡ－1	
熱力学 I・同演習	2	工学共通科目	
流れ学 I・同演習	2	数学基礎 1	1
機械力学 I・同演習	2	数学基礎 2	1
制御工学 I・同演習	2	物理基礎 1	1
機械物理実験	2	物理基礎 2	1
機械工学実験	2	管理工学	2
製図学	2	電気回路基礎	2
機械製作法	2	電子回路基礎	2
機械製図学	2	機械工学基礎科目	
機械設計製作	2	数値計算・同演習	2
機械設計製図	2	数値シミュレーション	2
機械設計法 I	2	コンピュータ支援設計	2
英書講読	1	計測工学	2
卒業論文 I	2	機械設計法演習	2
卒業論文 II	2	学外実習 1	2
○選択科目		学外実習 2	2
A群Ⅰ類		特別機械工学実験	2
必修選択科目		AⅡ－2	
応用数学 I	2	機械工学専門科目	
コンピュータプログラミング	2	応用数学 II	2
力学 II	2	フーリエ・ラプラス解析	2
材料力学 II	2	物理学 II	2
熱力学 II・同演習	2	複素解析	2
流れ学 II・同演習	2	解析力学	2
機械力学 II・同演習	2	確率・統計 II	2
制御工学 II・同演習	2	統計力学	2
機械設計法 II	2	工業材料 II	2
選択科目A群Ⅰ類については、上記に掲げるすべての		材料加工 II	2
科目を登録し、授業を受けなければならない。		材料力学 I 演習	2
A群Ⅱ類		材料力学 II 演習	2

材料力学 Ⅲ	2	選択科目B群Ⅱ類(第二外国語科目)は、全学共通教養	
連続体力学	2	教育科目の外国語教育科目の英語以外の外国語(イタリ	
流体力学	2	ア語を除く)のうち、卒業必要単位と認められる科目から	
伝熱工学	2	選択履修すること。	
流れ学 Ⅲ	2	ただし、英語以外の各外国語の会話科目は、2単位を	
熱力学 Ⅲ	2	上限として卒業必要単位に算入する。	
デジタル制御・同演習	2	B群Ⅲ類	
機械力学 Ⅲ	2	選択科目B群Ⅲ類は、全学共通教養教育科目(同志社科	
制御工学 Ⅲ	2	目、キャリア形成支援科目、国際教養科目、クリエイティ	
弾性力学	2	ブ・ジャパン科目、人文科学系科目、社会科学系科目、自	
塑性力学	2	然・人間科学系科目、複合領域科目、プロジェクト科目、	
エネルギー変換工学	2	保健体育科目)、他学部設置科目、同志社女子大学単位互	
移動現象論	2	換科目、大学コンソーシアム京都単位互換科目及びテュ	
知的財産権	2	ービンゲン大学 I E S 科目のうち、卒業必要単位と認め	
上記の科目に加え、協定校単位互換科目のうち卒業必		られる科目から選択履修すること。	
要単位と認められる科目から選択履修すること。		ただし、保健体育科目は、スポーツ・パフォーマンス	
ただし、協定校単位互換科目は、8単位を限度として		1から4単位、その他の保健体育科目から4単位、計8	
卒業必要単位に算入される。		単位を限度として卒業必要単位に算入される。	
B群Ⅰ類		C 群	
第一外国語科目		教職選択科目	
Academic English for Science 1	1	数理統計学	2
Academic English for Science 2	1	生物学概論Ⅰ	2
Academic English for Science 3	1	地学概論Ⅰ	2
Academic English for Science 4	1	地学概論Ⅱ	2
選択科目B群Ⅰ類(第一外国語科目)は、上記科目及び		代数学	2
全学共通教養教育科目の外国語教育科目の英語のうち、		幾何学Ⅰ	2
卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。		幾何学Ⅱ	2
なお、TOEIC等外国語能力に関する判定試験で一定の水		コンピュータと数学	2
準以上の成果を修めた者は、4単位を限度として、B群		地学実験	1
Ⅰ類の単位に認定する。		物理実験	2
B群Ⅱ類		生物学実験	1
第二外国語科目		化学実験	2

○外国人留学生科目

外国人留学生科目の履修は、外国人留学生に限る。外国人留学生科目は、日本語・日本文化教育科目から選択履修し、日本語 1(読解AⅥ)～日本語 1(文法Ⅸ)、日本語 2(読解AⅥ)～日本語 2(文法Ⅸ)、ビジネス日本語 C、D のうち 4 単位を、選択科目 B 群Ⅱ類のうち一種類の外国語の単位に代えることができる。その他の科目は、選択科目 B 群Ⅲ類の単位として、卒業必要単位に算入される。

履修方法

必修科目 51 単位、選択科目 77 単位以上、合計 128 単位以上を履修しなければならない。

ただし、選択科目については、A 群Ⅰ類から 10 単位以上、A 群Ⅱ類から 36 単位以上(うち AⅡ－1 から 8 単位以上)、B 群(うちⅠ類から 8 単位以上、Ⅱ類から 4 単位以上、Ⅲ類のうち全学共通教養教育科目の同志社科目及びその関連科目 2 単位以上)及び C 群から 18 単位以上履修しなければならない。

○自由科目

環境経済学	2
生物学概論 Ⅱ	2
教科教育法 A1(数学)	2
教科教育法 A2(数学)	2
教科教育法 B(数学)	2
教科教育法 C(数学)	2
人権教育論	2
教育課程論	2
教科教育法 A1(理科)	2
教科教育法 A2(理科)	2
教科教育法 B(理科)	2
教科教育法 C(理科)	2
教育実習指導	1
教育実習 A	2

教育実習 B	2
教育実習 C	4
教職実践演習(中・高)	2
代数学 Ⅲ	2
応用幾何学	2
有機化学 Ⅰ	2
有機化学 Ⅱ	2
有機化学 Ⅲ	2
有機化学 Ⅳ	2
特別ニーズ教育論	2

機能分子・生命化学科

人材養成目的

機能分子・生命化学科は、化学と化学技術について、教育と先端的な研究をとおして、また、本学の教育理念(自由主義・キリスト教主義・国際主義)に基づき、環境や生命を意識したナノ・バイオを含む化学の基礎と応用に関する幅広い学術的な知識・技術を身に付けて、「機能分子創成及び生命現象解明の化学」に関連する工学・薬学・医学に貢献できる独創性にあふれ、問題解決能力を備えた人材を養成することを目的とする。

科 目	履修単位
○必修科目	
工学倫理	2
解析学 Ⅰ	2
解析学 Ⅱ	2
線形代数学 Ⅰ	2
線形代数学 Ⅱ	2
物理学 Ⅰ	2
物理学 Ⅱ	2
物理化学 Ⅰ	2
物理化学 Ⅱ	2

物理化学 III	2	遺伝子工学	2
物理化学 IV	2	高分子化学 III	2
物理化学 V	2	錯体化学	2
分析化学 I	2	A I - 2	
分析化学 II	2	化学工学 I	2
無機化学 I	2	化学工学 II	2
無機化学 II	2	A I - 3	
有機化学 I	2	物理学演習	2
有機化学 II	2	物理化学演習 I	2
有機化学 III	2	物理化学演習 II	2
有機化学 IV	2	有機化学演習 I	2
物理実験	2	有機化学演習 II	2
基礎化学実験 I	3	A 群 II 類	
基礎化学実験 II	3	プログラミング演習	2
化学実験 I	3	外国書講読(英)	2
化学実験 II	3	無機反応論	2
高分子化学 I	2	無機応用化学 I	2
生命化学 I	2	無機応用化学 II	2
生命化学 II	2	無機機能物質化学	2
卒業論文 I	2	統計力学	2
卒業論文 II	2	高分子化学 IV	2
○選択科目		有機機能物質化学	2
A 群 I 類		生体分子分光学	2
A I - 1		生物無機化学	2
無機構造論	2	環境科学	2
高分子化学 II	2	特別講義 I	2
分子分光学 I	2	特別講義 II	2
分子分光学 II	2	特別講義 III	2
機能分子計測学	2	特別講義 IV	2
有機反応論 I	2	応用数学 I	2
有機反応論 II	2	応用数学 II	2
タンパク質化学	2	学外実習 1	2

学外実習 2	2	上限として卒業必要単位に算入する。
界面・コロイド工学	2	B群Ⅲ類
拡散分離工学 I	2	選択科目B群Ⅲ類は、全学共通教養教育科目(同志社科
電気電子材料	2	目、キャリア形成支援科目、国際教養科目、クリエイティ
プロセス設計	2	ブ・ジャパン科目、人文科学系科目、社会科学系科目、自
プロセス制御	2	然・人間科学系科目、複合領域科目、プロジェクト科目、
知的財産権	2	保健体育科目)、他学部設置科目、同志社女子大学単位互
生物学概論 I	2	換科目、大学コンソーシアム京都単位互換科目及びテュ
生物学概論 II	2	ービンゲン大学 I E S 科目のうち、卒業必要単位と認め
上記の科目に加え、協定校単位互換科目のうち卒業必		られる科目から選択履修すること。
要単位と認められる科目から選択履修すること。		ただし、保健体育科目は、スポーツ・パフォーマンス
ただし、協定校単位互換科目は、12 単位を限度として		1 から 4 単位、その他の保健体育科目から 4 単位、計 8
卒業必要単位に算入される。		単位を限度として卒業必要単位に算入される。
B群Ⅰ類		○外国人留学生科目
第一外国語科目		外国人留学生科目の履修は、外国人留学生に限る。外
Academic English for Science 1	1	国人留学生科目は、日本語・日本文化教育科目から選択
Academic English for Science 2	1	履修し、日本語 1(読解AⅥ)～日本語 1(文法Ⅸ)、日本語
Academic English for Science 3	1	2(読解AⅥ)～日本語 2(文法Ⅸ)、ビジネス日本語C、D
Academic English for Science 4	1	のうち 4 単位を、選択科目B群Ⅱ類のうち一種類の外国
選択科目B群Ⅰ類(第一外国語科目)は、上記科目及び		語の単位に代えることができる。その他の科目は、選択
全学共通教養教育科目の外国語教育科目の英語のうち、		科目B群Ⅲ類の単位として、卒業必要単位に算入される。
卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。		履修方法
なお、TOEIC 等外国語能力に関する判定試験で一定の水		必修科目 64 単位、選択科目 64 単位以上(ただし、A群
準以上の成果を修めた者は、4 単位を限度として、B群		はAⅠ－1 から 16 単位以上、AⅠ－2 から 2 単位以上、
Ⅰ類の単位に認定する。		AⅠ－3 から 6 単位以上を含めて 42 単位以上、B群はⅠ
B群Ⅱ類		類から 8 単位以上、Ⅱ類から 4 単位以上、Ⅲ類から 4 単
第二外国語科目		位以上(うち全学共通教養教育科目の同志社科目及びそ
選択科目B群Ⅱ類(第二外国語科目)は、全学共通教養		の関連科目 2 単位以上)を含めて 22 単位以上)、合計 128
教育科目の外国語教育科目の英語以外の外国語(イタリ		単位以上を履修しなければならない。
ア語を除く)のうち、卒業必要単位と認められる科目から		○自由科目
選択履修すること。		基礎物理
ただし、英語以外の各外国語の会話科目は、2 単位を		2
		数学基礎 1
		1

数学基礎 2	1	化学及び化学工学を基盤とする工学全般にわたる幅広い	
環境経済学	2	学術的な知識・技術を身に付けて、地球環境、資源・エネ	
数理統計学	2	ルギー、バイオテクノロジーなどが関わる諸問題を解決	
製図学	2	することができる「新しい化学システムの創成」に貢献	
生物学実験	1	する人材を養成することを目的とする。	
教育実習 A	2	科 目	履修単位
教育実習 B	2	○必修科目	
教育実習 C	4	線形代数学 I	2
幾何学 I	2	線形代数学 II	2
幾何学 II	2	解析学 I	2
確率・統計 I	2	解析学 II	2
確率・統計 II	2	物理学 I	2
コンピュータと数学	2	物理学 II	2
教育実習指導	1	プログラミング法 I および演習	2
教職実践演習(中・高)	2	無機化学 I	2
教科教育法 A1(理科)	2	無機化学 II	2
教科教育法 A2(理科)	2	物理化学 I	2
教科教育法 B(理科)	2	物理化学 II	2
教科教育法 C(理科)	2	物理化学 III	2
人権教育論	2	分析化学 I	2
教育課程論	2	分析化学 II	2
工業数学演習 II	2	有機化学 I	2
地学概論 I	2	有機化学 II	2
地学概論 II	2	反応工学 I	2
地学実験	1	移動現象論 I	2
特別ニーズ教育論	2	拡散分離工学 I	2
		機械的分離工学	2
化学システム創成工学科		化学システム創成工学概論	2
人材養成目的		物理実験	2
化学システム創成工学科は、持続可能な社会・環境づ		化学工学量論 I	2
くり貢献していく化学技術について、本学の教育理念		化学工学量論 II	2
であるキリスト教主義・自由主義・国際主義をとおして、		基礎化学実験 I	3

基礎化学実験 II	3	物理化学演習	2
化学システム工学実験 I	3	A群II類	
化学システム工学実験 II	3	電子工学概論	2
卒業論文 I	2	数理統計学	2
卒業論文 II	2	製図学	2
○選択科目		学外実習 1	2
A群I類		学外実習 2	2
工学倫理	2	電子デバイス I	2
プログラミング法 II	2	電気工学実験	2
拡散分離工学 II	2	高分子化学 III	2
工業数学演習 I	2	無機反応論	2
工業数学演習 II	2	上記の科目に加え、協定校単位互換科目のうち卒業必	
工業数学演習 III	2	要単位と認められる科目から選択履修すること。	
物理化学 IV	2	ただし、協定校単位互換科目は、6単位を限度として	
物理化学 V	2	卒業必要単位に算入される。	
生物化学	2	B群I類	
機器分析 I	2	第一外国語科目	
機器分析 II	2	Academic English for Science 1	1
化学工学演習	2	Academic English for Science 2	1
科学英語	2	Academic English for Science 3	1
特別講義 I	2	Academic English for Science 4	1
特別講義 II	2	選択科目B群I類(第一外国語科目)は、上記科目及び	
高分子化学	2	全学共通教養教育科目の外国語教育科目の英語のうち、	
移動現象論 II	2	卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。	
材料力学	2	なお、TOEIC等外国語能力に関する判定試験で一定の水	
反応工学 II	2	準以上の成果を修めた者は、4単位を限度として、B群	
粉体工学	2	I類の単位に認定する。	
生物化学工学	2	B群II類	
プロセス制御	2	第二外国語科目	
界面・コロイド工学	2	選択科目B群II類(第二外国語科目)は、全学共通教養	
プロセス設計	2	教育科目の外国語教育科目の英語以外の外国語(イタリ	
材料プロセス工学	2	ア語を除く)のうち、卒業必要単位と認められる科目から	

選択履修すること。

ただし、英語以外の各外国語の会話科目は、2単位を上限として卒業必要単位に算入する。

B群Ⅲ類

選択科目B群Ⅲ類は、全学共通教養教育科目(同志社科目、キャリア形成支援科目、国際教養科目、クリエイティブ・ジャパン科目、人文科学系科目、社会科学系科目、自然・人間科学系科目、複合領域科目、プロジェクト科目、保健体育科目)、他学部設置科目、同志社女子大学単位互換科目、大学コンソーシアム京都単位互換科目及びテュービンゲン大学IES科目のうち、卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。

ただし、保健体育科目は、スポーツ・パフォーマンス1から4単位、その他の保健体育科目から4単位、計8単位を限度として卒業必要単位に算入される。

C群

生物学概論 I	2
生物学概論 II	2
確率・統計 I	2
確率・統計 II	2
コンピュータと数学	2

○外国人留学生科目

外国人留学生科目の履修は、外国人留学生に限る。外国人留学生科目は、日本語・日本文化教育科目から選択履修し、日本語1(読解AⅥ)～日本語1(文法Ⅸ)、日本語2(読解AⅥ)～日本語2(文法Ⅸ)、ビジネス日本語C、Dのうち4単位を、選択科目B群Ⅱ類のうち一種類の外国語の単位に代えることができる。その他の科目は、選択科目B群Ⅲ類の単位として、卒業必要単位に算入される。

履修方法

必修科目 64 単位、選択科目 64 単位以上(ただし、A群はⅠ類から 34 単位以上を含めて 42 単位以上、B群はⅠ

類から 8 単位以上、Ⅱ類から 4 単位以上、Ⅲ類から 4 単位以上(うち全学共通教養教育科目の同志社科目及びその関連科目 2 単位以上)、C群を含めて 22 単位以上)、合計 128 単位以上を履修しなければならない。

○自由科目

基礎物理	2
数学基礎 1	1
数学基礎 2	1
環境経済学	2
地学概論 I	2
地学概論 II	2
地学実験	1
幾何学 I	2
幾何学 II	2
人権教育論	2
教育課程論	2
代数学 III	2
応用幾何学	2
教科教育法 A1(数学)	2
教科教育法 A2(数学)	2
教科教育法 B(数学)	2
教科教育法 C(数学)	2
教科教育法 A1(理科)	2
教科教育法 A2(理科)	2
教科教育法 B(理科)	2
教科教育法 C(理科)	2
教育実習指導	1
教育実習 A	2
教育実習 B	2
教育実習 C	4
教職実践演習(中・高)	2
代数学	2

生物学実験	1	環境システム応用実験 B	2
特別ニーズ教育論	2	卒業論文 I	2
		卒業論文 II	2
環 境 シ ス テ ム 学 科		○選択科目	
人材養成目的		A群 I 類	
環境システム学科は、環境科学について、自然科学分野の横断的な知識をもとにシステムとしての環境の特質を理解することをとおして、問題を発見し、論理的な思考と豊かな発想を持って科学的に分析する能力、そして学際的な素養をもとに問題を解決する能力を身に付けて、各種産業界や研究・教育機関等において貢献する人材を養成することを目的とする。		必修選択科目	
		環境物質科学 I	2
		環境物質科学 II	2
		地球環境科学 I	2
		地球環境科学 II	2
		環境地球化学	2
		資源・エネルギー学 I	2
		資源・エネルギー学 II	2
		生命環境科学	2
		地球物質科学	2
		生態学	2
		A群 II 類	
		A II - 1	
		環境系選択科目	
		物理学基礎	2
		生物学基礎	2
		有機化学 II	2
		応用数学 I	2
		応用数学 II	2
		プログラミング I	2
		プログラミング II	2
		地圏環境科学	2
		動物行動学	2
		人間環境科学	2
		地域環境学	2
		都市環境学	2
		数理統計学 I	2

数理統計学 II	2	学外実習 2	2
数値計算	2	上記の科目に加え、協定校単位互換科目のうち卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。	
環境シミュレーション	2		
化学熱力学	2		
電気化学	2		
環境経済学	2	B群I類	
地球システム科学	2	第一外国語科目	
地球環境変動論	2	Academic English for Science 1	1
地球ダイナミクス	2	Academic English for Science 2	1
地球観測技術	2	Academic English for Science 3	1
環境影響評価	2	Academic English for Science 4	1
自然災害論	2	選択科目B群I類(第一外国語科目)は、上記科目及び 全学共通教養教育科目の外国語教育科目の英語のうち、 卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。 なお、TOEIC等外国語能力に関する判定試験で一定の水 準以上の成果を修めた者は、4単位を限度として、B群 I類の単位に認定する。	
防災科学	2		
エネルギー環境学	2		
エネルギー反応論	2		
保全生態学	2	B群II類 第二外国語科目 選択科目B群II類(第二外国語科目)は、全学共通教養 教育科目の外国語教育科目の英語以外の外国語(イタリ ア語を除く)のうち、卒業必要単位と認められる科目から 選択履修すること。 ただし、英語以外の各外国語の会話科目は、2単位を 上限として卒業必要単位に算入する。	
生物資源学	2		
A II - 2			
工学系選択科目			
移動現象論 I	2	B群III類 選択科目B群III類は、全学共通教養教育科目(同志社科 目、キャリア形成支援科目、国際教養科目、クリエイティ ブ・ジャパン科目、人文科学系科目、社会科学系科目、自 然・人間科学系科目、複合領域科目、プロジェクト科目、 保健体育科目)、他学部設置科目、同志社女子大学単位互 換科目、大学コンソーシアム京都単位互換科目及びテュ	
アナログ電子回路	2		
分析化学 I	2		
分析化学 II	2		
熱統計力学	2	B群III類	
応用力学	2		
電気電子材料	2		
デジタル電子回路	2		
超音波エレクトロニクス II	2	B群III類	
移動現象論 II	2		
生物化学工学	2		
知的財産権	2		
学外実習 1	2		

ービンゲン大学 I E S 科目のうち、卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。

ただし、保健体育科目は、スポーツ・パフォーマンス 1 から 4 単位、その他の保健体育科目から 4 単位、計 8 単位を限度として卒業必要単位に算入される。

○外国人留学生科目

外国人留学生科目の履修は、外国人留学生に限る。外国人留学生科目は、日本語・日本文化教育科目から選択履修し、日本語 1(読解 A VI)～日本語 1(文法 IX)、日本語 2(読解 A VI)～日本語 2(文法 IX)、ビジネス日本語 C、D のうち 4 単位を、選択科目 B 群 II 類のうち一種類の外国語の単位に代えることができる。その他の科目は、選択科目 B 群 III 類の単位として、卒業必要単位に算入される。

履修方法

必修科目 40 単位、選択科目 88 単位以上、合計 128 単位以上を履修すること。

ただし、選択科目については、A 群は I 類から 16 単位以上、A II－1 から 36 単位以上を含めて 56 単位以上、B 群は I 類から 8 単位以上、II 類から 4 単位以上、III 類から 10 単位以上（うち全学共通教養教育科目の同志社科目及びその関連科目 2 単位以上）を含めて 22 単位以上履修しなければならない。

○自由科目

数学基礎 1	1
数学基礎 2	1
人権教育論	2
教育課程論	2
物理実験	2
教科教育法 A1(理科)	2
教科教育法 A2(理科)	2
教科教育法 B(理科)	2
教科教育法 C(理科)	2

教育実習指導	1
教育実習 A	2
教育実習 B	2
教育実習 C	4
教職実践演習(中・高)	2
特別ニーズ教育論	2

数 理 シ ス テ ム 学 科

人材養成目的

数理システム学科は、数理科学について、講義、問題演習及び、コンピュータ実習をとおして、数学を中心とする理学的素養及びコンピュータを用いて様々な問題を具体的に解く能力と統計処理能力を身に付けて、情報・金融関連産業など高度な数学的能力を必要とする企業や、次世代の高度な理数能力の養成を担う教育機関、または数理科学の研究機関等において活躍する人材を養成することを目的とする。

科 目	履修単位
○必修科目	
解析学 I	4
解析学 II	4
線形代数学 I	2
線形代数学 II	2
数学演習 I	1
数学演習 II	1
確率・統計基礎	2
数理システム演習 I	2
数理システム演習 II	2
数理システム演習 III	2
数理システム演習 IV	2
コンピュータ入門	2
情報処理入門	2

コンピュータプログラミング I	2	数値解析 I	2
コンピュータプログラミング II	2	数値解析 II	2
数理ゼミナール I	2	データサイエンス I	2
数理ゼミナール II	2	データサイエンス II	2
卒業論文 I	2	金融・投資の統計科学	2
卒業論文 II	2	数理計画法	2
○選択科目		計算代数 I	2
A群 I 類		計算代数 II	2
物理学 I	2	応用数学 I	2
物理学 II	2	応用数学 II	2
複素解析	2	数理システム特別講義	2
フーリエ・ラプラス解析	2	学外実習 1	2
集合と位相	2	学外実習 2	2
微分方程式	2	A群 II 類	
ベクトル解析	2	コンピュータグラフィックス	2
代数学 I	2	工業材料 I	2
代数学 II	2	有機化学 I	2
代数学 III	2	有機化学 II	2
幾何学 I	2	無機化学 I	2
幾何学 II	2	無機化学 II	2
数学演習 III	1	基礎物理	2
数学演習 IV	1	電気回路基礎	2
数理モデル	2	電子回路基礎	2
離散数理	2	代数構造	2
確率・統計	2	言語理論	2
数理統計	2	情報理論	2
応用微分方程式	2	電気磁気学 I	3
積分論	2	電気磁気学 II	3
応用解析学	2	応用力学	2
応用代数学	2	化学工学 I	2
応用幾何学	2	環境物質科学 I	2
数学史	2	生命環境科学	2

地球環境科学 II	2	ただし、英語以外の各外国語の会話科目は、2 単位を	
デジタル信号処理	2	上限として卒業必要単位に算入する。	
不規則信号論	2	B 群Ⅲ類	
符号理論	2	選択科目 B 群Ⅲ類は、全学共通教養教育科目(同志社科	
画像処理	2	目、キャリア形成支援科目、国際教養科目、クリエイティ	
統計力学	2	ブ・ジャパン科目、人文科学系科目、社会科学系科目、自	
工業材料 II	2	然・人間科学系科目、複合領域科目、プロジェクト科目、	
管理工学	2	保健体育科目)、他学部設置科目、同志社女子大学単位互	
量子力学	2	換科目、大学コンソーシアム京都単位互換科目及びテュ	
化学工学 II	2	ービンゲン大学 I E S 科目のうち、卒業必要単位と認め	
上記の科目に加え、協定校単位互換科目のうち卒業必		られる科目から選択履修すること。	
要単位と認められる科目から選択履修すること。		ただし、保健体育科目は、スポーツ・パフォーマンス	
ただし、協定校単位互換科目は、10 単位を限度として		1 から 4 単位、その他の保健体育科目から 4 単位、計 8	
卒業必要単位に算入される。		単位を限度として卒業必要単位に算入される。	
B 群 I 類		C 群	
第一外国語科目		情報と社会	2
Academic English for Science 1	1	コンピュータネットワーク	2
Academic English for Science 2	1	情報セキュリティ	2
Academic English for Science 3	1	情報通信ネットワーク実習	1
Academic English for Science 4	1	ネットワーク応用	2
選択科目 B 群 I 類(第一外国語科目)は、上記科目及び		ワイヤレス通信	2
全学共通教養教育科目の外国語教育科目の英語のうち、		情報と職業	2
卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。		○外国人留学生科目	
なお、TOEIC 等外国語能力に関する判定試験で一定の水		外国人留学生科目の履修は、外国人留学生に限る。外	
準以上の成果を修めた者は、4 単位を限度として、B 群		国人留学生科目は、日本語・日本文化教育科目から選択	
I 類の単位に認定する。		履修し、日本語 1(読解 AⅥ)～日本語 1(文法Ⅸ)、日本語	
B 群Ⅱ類		2(読解 AⅥ)～日本語 2(文法Ⅸ)、ビジネス日本語 C、D	
第二外国語科目		のうち 4 単位を、選択科目 B 群Ⅱ類のうち一種類の外国	
選択科目 B 群Ⅱ類(第二外国語科目)は、全学共通教養		語の単位に代えることができる。その他の科目は、選択	
教育科目の外国語教育科目の英語以外の外国語(イタリ		科目 B 群Ⅲ類の単位として、卒業必要単位に算入される。	
ア語を除く)のうち、卒業必要単位と認められる科目から		履修方法	
選択履修すること。		必修科目 40 単位、選択科目 88 単位以上、合計 128 単	

位以上を履修しなければならない。

ただし、選択科目については、A群はⅠ類から40単位以上を含めて52単位以上、B群はⅠ類から8単位以上、Ⅱ類から4単位以上、Ⅲ類から10単位以上（うち全学共通教養教育科目の同志社科目及びその関連科目2単位以上）を含めて22単位以上履修しなければならない。

○自由科目

情報メディア	2
情報メディア実習	1
人権教育論	2
デジタル制御・同演習	2
計算機ハードウェア	2
計算機アーキテクチャ	2
通信ネットワーク	2
Cプログラミング Ⅲ	1
情報システム実習	1
教育課程論	2
コンピュータと数学	2
情報システム工学	2
ネットワークシステム構成論	2
環境経済学	2
教科教育法 A1(数学)	2
教科教育法 A2(数学)	2
教科教育法 B(数学)	2
教科教育法 C(数学)	2
教科教育法 A(情報)	2
教科教育法 B(情報)	2
教育実習指導	1
教育実習 A	2
教育実習 B	2
教育実習 C	4
教職実践演習(中・高)	2

特別ニーズ教育論	2
知識情報処理	2
データベースシステム	2

生 命 医 科 学 部

人材養成目的

生命医科学部は、生命現象の本質を科学的に理解すると同時に、その制御機能を多角的な視点から明らかにする教育研究活動をととして、生命医科学に関連するさまざまな課題に対して、工学ならびに理学を基盤とする総合的な知識と関連する技術を身に付けて、健康・医療に関する様々な社会的要請に対応できる人材を養成することを目的とする。

医 工 学 科

人材養成目的

医工学科は、ヒトを生体システムとして捉え、機械工学と医学の融合領域において、再生医療、バイオメカニクス、バイオマテリアル、及びバイオリボティクス分野について、講義と実験実習をととして、問題設定能力と問題解決能力を身に付けて、民間企業や官民の研究機関、教育機関等において活躍する人材を養成することを目的とする。

科 目	履修単位
-----	------

○必修科目

微分積分学Ⅰ	2
微分積分学Ⅱ	2
代数学Ⅰ	2
代数学Ⅱ	2
化学	2
生物学	2

物理学基礎	2	基礎数理統計学	2
力学	2	応用数理統計学	2
生命医科学概論	2	材料工学 II	2
製図学基礎	2	熱力学	2
コンピュータプログラミング	2	A群 I 類－2	
医工・医情報学概論	2	材料力学演習 I	2
材料力学 I	2	材料力学演習 II	2
物理学 I	2	流体力学	2
人体の構造と機能 I	2	バイオマテリアル	2
材料力学 II	2	バイオメカニクス	2
応用数理 I	2	医用ロボット	2
医工学基礎実験	2	メカトロニクス	2
医用設計工学実習 I	2	BioMEMS	2
材料工学 I	2	再生医科学	2
生化学	2	外科学概論（病態生理学）	2
制御工学 I	2	臨床解剖学概論	2
制御工学 II	2	A群 II 類	
医工学応用実験	2	A群 II 類－1	
医用設計工学実習 II	2	スポーツ運動学	2
卒業論文 I	2	公衆衛生学	2
卒業論文 II	2	ケア倫理学	2
○選択科目		スポーツ・バイオメカニクス	2
A群 I 類		リハビリテーション医学	2
A群 I 類－1		人体の構造と機能 II	2
数学基礎	2	臨床医学概論	2
応用数理 II	2	内科学概論	2
物理学 II	2	特別講義	2
コンピュータ演習	2	A群 II 類－2	
電気回路・電子回路	2	放射線科学	2
電磁気学	2	超音波エレクトロニクス	2
計測工学	2	医用情報処理	2
医用機械設計法	2	医用画像工学	2

生物情報	2	特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2
バイオインフォマティクス	2	教育方法とICT活用の理論と実践	2
アンチエイジング	2	生徒・進路指導の理論と方法	2
機能性食品医学	2	教育相談の理論と方法	2
神経科学	2	選択科目B群Ⅲ類は、上記の科目に加え、全学共通教養教育科目（同志社科目、キャリア形成支援科目、国際教養科目、クリエイティブ・ジャパン科目、人文科学系科目、社会科学系科目、自然・人間科学系科目、複合領域科目、プロジェクト科目、外国語教育科目、保健体育科目）、他学部設置科目、同志社女子大学単位互換科目、大学コンソーシアム京都単位互換科目及びチュービンゲン大学IES科目のうち卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。	
脳神経機構学	2		
ストレス適応科学	2		
バイオマーカー解析学	2		
解析力学	2		
統計力学	2		
複素解析	2		
B群Ⅰ類			
選択科目B群Ⅰ類は、全学共通教養教育科目の外国語教育科目の英語から選択履修すること。		C 群	
なお、TOEIC、TOEFL、実用英語技能検定試験及び国際連合公用語英語検定試験で一定水準以上の成果を修めた者は、4単位を限度として、選択科目B群Ⅰ類の単位に認定する。		計算機代数	2
B群Ⅱ類		幾何学Ⅰ	2
選択科目B群Ⅱ類は、全学共通教養教育科目の英語以外の外国語のうちドイツ語又はフランス語から選択履修すること。		幾何学Ⅱ	2
B群Ⅲ類		応用微分方程式	2
日本の憲法		代数学Ⅲ	2
教職概論		ベクトル解析	2
教育原理		集合と位相	2
人権教育論		代数構造	2
教育課程論		○日本語・日本文化教育科目	
発達と学習の心理学		日本語・日本文化教育科目の履修は、外国人留学生に限る。日本語1(読解AⅥ)～日本語1(文法Ⅸ)、日本語2(読解AⅥ)～日本語2(文法Ⅸ)、ビジネス日本語C、ビジネス日本語Dのうち4単位を、選択科目B群Ⅱ類のうち一種類の外国語の単位に代えることができる。その他の科目は、選択科目B群Ⅲ類の単位として、卒業必要単位に算入される。	
教育制度と学校経営		○自由科目	
学校教育社会学		地学概論Ⅰ	
道德教育の理論と実践			

地学概論 II	2	ビジネスワークショップ	2
地学実験	1	メディカルワークショップ	2
化学実験	3	取材・インタビュー実践講座	2
教科教育法 A1(数学)	2	未知型探索ビジネスワークショップ	2
教科教育法 A2(数学)	2	特別ニーズ教育論	2
教科教育法 B(数学)	2	スクールインターンシップ	2
教科教育法 C(数学)	2	特別講義アドバンス	2
教科教育法 A1(理科)	2	履修方法	
教科教育法 A2(理科)	2	必修科目 54 単位, 選択科目 74 単位以上, 合計 128 単	
教科教育法 B(理科)	2	位以上を履修しなければならない。	
教科教育法 C(理科)	2	ただし, 選択科目については, A群Ⅰ類－1 から 12	
教職実践演習(中・高)	2	単位, Ⅰ類－2 から 14 単位を含めA群Ⅰ類から 26 単位	
教育実習指導	1	以上, A群Ⅱ類－1 から 8 単位以上を含めA群Ⅱ類から	
教育実習 A	2	16 単位以上, A群全体から 42 単位以上, B群Ⅰ類から 8	
教育実習 B	2	単位以上, B群Ⅱ類から 4 単位以上, B群Ⅲ類から 8 単	
教育実習 C	4	位以上を含めB群及びC群から 20 単位以上を履修しな	
医生命基礎実験	2	ければならない。	
学校図書館サービス論	2		
ニューロサイエンス入門 1	2	医 情 報 学 科	
ニューロサイエンス入門 2	2	人材養成目的	
科学技術概論 I	2	医情報学科は, 生体情報の取得・制御に関する知識や	
科学技術概論 II	2	技能と, 生体情報処理機構を次世代高度情報システムの	
アウトリーチ実習	2	構築へと展開できる応用力について, 幅広いリベラルアー	
サイエンスライティング	2	ツと自然科学基礎, 電子・情報工学, 生体情報, 脳科学	
サイエンスとインテリジェンス	2	に関する講義や演習, 実験, 卒業研究をとおして, 自発的	
サイエンス・ナウ 1	2	に問題発見・解決を行い, それを伝えることのできる創造	
サイエンス・ナウ 2	2	力を身に付けて, 企業や研究所等において活躍する人材を	
サイエンス・ナウ 3	2	養成することを目的とする。	
サイエンス・ナウ 4	2	科 目	履修単位
サイエンス・ナウ 5	2	○必修科目	
サイエンス・ナウ 6	2	微分積分学 I	2
サイエンス・ナウ 7	2	微分積分学 II	2

線形代数学 I	2	基礎数理統計学	2
生物学	2	システム思考	2
物理科学実験 I	2	構造有機化学	2
物理学基礎	2	A群 I 類－1 b	
生命医科学概論	2	医情報応用実験 IV	2
医工・医情報学概論	2	特別演習実習 A	2
化学	2	特別演習実習 B	2
知覚情報システム論	2	A群 I 類－2	
エレクトロニクス I	4	線形代数学 II	2
物理科学実験 II	2	電磁気学	2
エレクトロニクス II	4	電子回路	2
情報処理工学	2	物理学 II	2
物理学 I	2	応用微分方程式	2
医情報応用実験 I	2	放射線科学	2
医情報応用実験 II	2	医用情報処理	2
生化学	2	特別講義 A	2
フーリエ・ラプラス解析	2	特別講義 B	2
プログラミング I	4	生物情報	2
人体の構造と機能 I	2	バイオインフォマティクス	2
医情報応用実験 III	2	応用数理統計学	2
卒業論文 I	2	超音波エレクトロニクス	2
卒業論文 II	2	プロジェクト実習	2
○選択科目		医用画像工学	2
A群 I 類		量子力学	2
A群 I 類－1 a		分析化学	2
医用機器概論	2	A群 II 類	
生物情報概論	2	A群 II 類－1	
複素解析	2	公衆衛生学	2
デジタル信号処理	2	スポーツ運動学	2
知覚認知	2	ケア倫理学	2
計測システム	2	スポーツ・バイオメカニクス	2
プログラミング II	2	人体の構造と機能 II	2

システム生物科学	2	サイエンス・ナウ 2	2
臨床医学概論	2	サイエンス・ナウ 3	2
内科学概論	2	サイエンス・ナウ 4	2
外科学概論（病態生理学）	2	サイエンス・ナウ 5	2
再生医科学	2	サイエンス・ナウ 6	2
アンチエイジング	2	サイエンス・ナウ 7	2
薬理学	2	ビジネスワークショップ	2
神経科学	2	メディカルワークショップ	2
リハビリテーション医学	2	取材・インタビュー実践講座	2
臨床解剖学概論	2	未知型探索ビジネスワークショップ	2
神経情報伝達制御学	2	B群Ⅰ類	
遺伝情報医学（病態生理学）	2	選択科目B群Ⅰ類は、全学共通教養教育科目の外国語	
脳神経機構学	2	教育科目の英語から選択履修すること。	
特別講義	2	なお、TOEIC, TOEFL, 実用英語技能検定試験及び国際	
ニューロサイエンス入門 1	2	連合公用語英語検定試験で一定水準以上の成果を修めた	
ニューロサイエンス入門 2	2	者は、4単位を限度として、選択科目B群Ⅰ類の単位に	
A群Ⅱ類－2		認定する。	
アナログ電子回路	2	B群Ⅱ類	
画像処理	2	選択科目B群Ⅱ類は、全学共通教養教育科目の英語以	
バイオメカニクス	2	外の外国語のうちドイツ語又はフランス語から選択履修	
メカトロニクス	2	すること。	
パターン認識	2	B群Ⅲ類	
バイオマテリアル	2	日本の憲法	2
BioMEMS	2	教職概論	2
医用ロボット	2	教育原理	2
コンピュータグラフィックス	2	人権教育論	2
科学技術概論Ⅰ	2	教育課程論	2
科学技術概論Ⅱ	2	発達と学習の心理学	2
アウトリーチ実習	2	教育制度と学校経営	2
サイエンスライティング	2	学校教育社会学	2
サイエンスとインテリジェンス	2	道德教育の理論と実践	2
サイエンス・ナウ 1	2	特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2

教育方法とICT活用の理論と実践	2	教科教育法 C(数学)	2
生徒・進路指導の理論と方法	2	教科教育法 A1(理科)	2
教育相談の理論と方法	2	教科教育法 A2(理科)	2
選択科目B群Ⅲ類は、上記の科目に加え、全学共通教養教育科目（同志社科目、キャリア形成支援科目、国際教養科目、クリエイティブ・ジャパン科目、人文科学系科目、社会科学系科目、自然・人間科学系科目、複合領域科目、プロジェクト科目、外国語教育科目、保健体育科目）、他学部設置科目、同志社女子大学単位互換科目、大学コンソーシアム京都単位互換科目及びテュービンゲン大学IES科目のうち卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。		教科教育法 B(理科)	2
		教科教育法 C(理科)	2
		教職実践演習(中・高)	2
		教育実習指導	1
		教育実習 A	2
		教育実習 B	2
		教育実習 C	4
		製図学基礎	2
		地学概論 I	2
		地学概論 II	2
		地学実験	1
		化学実験	3
		学校図書館サービス論	2
		医療情報学	2
		生物センシング工学	2
		生物物理学	2
		自己組織化の科学	2
		医用画像システム	2
		有機合成	2
		有機反応 1	2
		有機反応 2	2
		臨床医学開発	2
		神経行動科学	2
		応用化学	2
		超音波医科学	2
		生体情報アルゴリズム	2
		バイオメディカルコンピューティング	2
		生物音響工学	2
		特別ニーズ教育論	2
C 群			
計算機代数	2		
幾何学 I	2		
幾何学 II	2		
代数学 III	2		
ベクトル解析	2		
集合と位相	2		
代数構造	2		
○日本語・日本文化教育科目			
日本語・日本文化教育科目の履修は、外国人留学生に限る。日本語1(読解AⅥ)～日本語1(文法Ⅸ)、日本語2(読解AⅥ)～日本語2(文法Ⅸ)、ビジネス日本語C、ビジネス日本語Dのうち4単位を、選択科目B群Ⅱ類のうち一種類の外国語の単位に代えることができる。その他の科目は、選択科目B群Ⅲ類の単位として、卒業必要単位に算入される。			
○自由科目			
教科教育法 A1(数学)	2		
教科教育法 A2(数学)	2		
教科教育法 B(数学)	2		

スクールインターンシップ	2	医生命基礎実験	2
特別講義アドバンス	2	医工・医情報学概論	2
スポーツ医学の未来	2	臨床医学概論	2
履修方法		人体の構造と機能 I	2
必修科目 54 単位，選択科目 74 単位以上，合計 128 単位以上を履修しなければならない。		ケミカルバイオロジー	2
ただし，選択科目については，A群Ⅰ類－1 a から 12 単位以上，1 b から 2 単位以上を含め A群Ⅰ類から 26 単位以上，A群Ⅱ類－1 から 8 単位以上，これらを含め A群全体から 42 単位以上，B群Ⅰ類から 8 単位以上，B群Ⅱ類から 4 単位以上，B群Ⅲ類から 8 単位以上を含め B群及びC群から 20 単位以上を履修しなければならない。		分子生物学 I	2
		生体物質分析化学	2
		システム生物科学	2
		ケア倫理学	2
		ヒトの病理と防御システム I	2
		ヒトの病理と防御システム II	2
		生化学	2
		物理学基礎	2
		コンピュータプログラミング	2
		分子生物学実験	2
		人体の構造と機能 II	2
		人体の構造と機能 III	2
		人体の構造と機能実験	2
		薬理学	2
		基礎数理統計学	2
		卒業論文 I	2
		卒業論文 II	2
		○選択科目	
		A群Ⅰ類	
		細胞生物学 II	2
		分子生物学 II	2
		内科学概論	2
		特別講義 A	2
		特別講義 B	2
		分子創薬科学	2
		バイオマーカー解析学	2
		アンチエイジング	2
医 生 命 シ ス テ ム 学 科			
人材養成目的			
医生命システム学科は，ヒトをひとつの生命システムと捉え，それを維持する生理機構やその破綻による各種疾病の発症機構，さらにはその治療・予防について，生命科学，薬学，基礎医学，臨床医学に関する講義，ならびにこれらと密接に関連した実験実習をとおして，体系的な理解能力と実践的な問題解決能力を身に付けて，生命科学，基礎医学，健康科学の関連分野において活躍する人材を養成することを目的とする。			
科 目	履修単位		
○必修科目			
生命医科学概論	2		
生物学	2		
化学	2		
微生物学	2		
細胞生物学 I	2		
公衆衛生学	2		

機能性食品医学	2	バイオメカニクス	2
神経科学	2	BioMEMS	2
神経情報伝達制御学	2	放射線科学	2
脳神経機構学	2	生物情報	2
ストレス適応科学	2	バイオインフォマティクス	2
遺伝情報医学(病態生理学)	2	応用数理統計学	2
外科学概論 (病態生理学)	2	電磁気学	2
再生医科学	2	画像処理	2
創薬化学	2	医用画像工学	2
ニューロサイエンス入門 1	2	医用機械設計法	2
ニューロサイエンス入門 2	2	流体力学	2
スポーツ医学の未来	2	医用ロボット	2
発生遺伝学概論	2	メカトロニクス	2
神経機能学	2	デジタル信号処理	2
生体データ解析	2	知覚認知	2
A群Ⅱ類		計測システム	2
線形代数学 I	2	超音波エレクトロニクス	2
線形代数学 II	2	臨床解剖学概論	2
知覚情報システム論	2	電磁気と生命体	2
数学基礎	2	特別講義	2
微分積分学 I	2	科学技術概論 I	2
微分積分学 II	2	科学技術概論 II	2
スポーツ運動学	2	アウトリーチ実習	2
生物情報概論	2	サイエンスライティング	2
電気回路・電子回路	2	サイエンスとインテリジェンス	2
医用機器概論	2	サイエンス・ナウ 1	2
計測工学	2	サイエンス・ナウ 2	2
スポーツ・バイオメカニクス	2	サイエンス・ナウ 3	2
リハビリテーション医学	2	サイエンス・ナウ 4	2
医用情報処理	2	サイエンス・ナウ 5	2
制御工学 I	2	サイエンス・ナウ 6	2
バイオマテリアル	2	サイエンス・ナウ 7	2

ビジネスワークショップ	2	教養科目、クリエイティブ・ジャパン科目、人文科学系科目、社会科学系科目、自然・人間科学系科目、複合領域科目、プロジェクト科目、外国語教育科目、保健体育科目)、
メディカルワークショップ	2	他学部設置科目、同志社女子大学単位互換科目、大学コンソーシアム京都単位互換科目及びテュービンゲン大学
取材・インタビュー実践講座	2	I E S 科目のうち卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。
未知型探索ビジネスワークショップ	2	○日本語・日本文化教育科目
海外キャリアリサーチ	2	日本語・日本文化教育科目の履修は、外国人留学生に限る。日本語 1(読解AⅥ)～日本語 1(文法Ⅸ)、日本語 2(読解AⅥ)～日本語 2(文法Ⅸ)、ビジネス日本語C、ビジネス日本語Dのうち4単位を、選択科目B群Ⅱ類のうち一種類の外国語の単位に代えることができる。その他の科目は、選択科目B群Ⅲ類の単位として、卒業必要単位に算入される。
B群Ⅰ類		○自由科目
選択科目B群Ⅰ類は、全学共通教養教育科目の外国語教育科目の英語から選択履修すること。		教科教育法 A1(理科) 2
なお、TOEIC、TOEFL、実用英語技能検定試験及び国際連合公用語英語検定試験で一定水準以上の成果を修めた者は、4単位を限度として、選択科目B群Ⅰ類の単位に認定する。		教科教育法 A2(理科) 2
B群Ⅱ類		教科教育法 B(理科) 2
選択科目B群Ⅱ類は、全学共通教養教育科目の英語以外の外国語のうちドイツ語又はフランス語から選択履修すること。		教科教育法 C(理科) 2
B群Ⅲ類		教職実践演習(中・高) 2
日本の憲法	2	教育実習指導 1
教職概論	2	教育実習 A 2
教育原理	2	教育実習 B 2
人権教育論	2	教育実習 C 4
教育課程論	2	地学概論 I 2
発達と学習の心理学	2	地学概論 II 2
教育制度と学校経営	2	地学実験 1
学校教育社会学	2	物理実験 2
道德教育の理論と実践	2	化学実験 3
特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2	学校図書館サービス論 2
教育方法とICT活用の理論と実践	2	特別ニーズ教育論 2
生徒・進路指導の理論と方法	2	
教育相談の理論と方法	2	
選択科目B群Ⅲ類は、上記の科目に加え、全学共通教養教育科目(同志社科目、キャリア形成支援科目、国際		

スクールインターンシップ	2	演習Ⅰ	2
特別講義アドバンス	2	演習Ⅱ	2
履修方法		演習Ⅲ	2
必修科目 56 単位，選択科目 72 単位以上，合計 128 単位以上を履修しなければならない。ただし，選択科目については，A 群からⅠ類 20 単位以上を含め 40 単位以上，B 群Ⅰ類から 8 単位以上，B 群Ⅱ類から 4 単位以上，B 群Ⅲ類から 8 単位以上を含め B 群から 20 単位以上を履修しなければならない。		演習Ⅳ	2
		卒業研究 A	3
		卒業研究 B	3
		○選択科目	
		A 群(基幹科目)	
		健康運動論	2
		スポーツ政策論	2
		公衆衛生学	2
		スポーツ運動学	2
		トレーニング論	2
		スポーツ教育学	2
		A 群より 6 単位以上履修すること。	
		B 群(展開科目)	
		スポーツ機能解剖学	2
		生命医科学概論	2
		人体の構造と機能Ⅰ	2
		スポーツ医学 A (内科系)	2
		スポーツ医学 B (外科系)	2
		生活習慣病概論	2
		発育発達と老化	2
		栄養学	2
		学校保健	2
		スポーツ栄養学	2
		スポーツ・バイオメカニクス	2
		コンディショニング論	2
		スポーツ心理学	2
		スポーツの原理	2
		スポーツ測定評価論	2
		メンタル・トレーニング論	2
ス ポ ー ツ 健 康 科 学 部			
ス ポ ー ツ 健 康 科 学 科			
人材養成目的			
スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科は，健康とスポーツ活動及び，それらを取り巻く社会環境に関する知見と諸理論を包括したスポーツ健康科学の知識と理論を総合的・体系的に修得し，地域・社会，学校教育，スポーツ関連産業及びヘルスケア産業等の現場で，専門的な立場から，健康の維持・増進とスポーツの社会的発展に寄与・貢献できる多様な人材を養成することを目的とする。			
科 目	履修単位		
○必修科目			
基礎科目			
ファースト・イヤー・セミナー	2		
スポーツ健康科学論入門	2		
生理学	2		
スポーツ生理学	2		
スポーツ社会学	2		
基礎実習	2		
演習科目			

コーチング論	2	スポーツ健康科学グローバル演習	2
スポーツ・マーケティング論	2	スポーツ健康科学特殊講義 A	2
障がい者スポーツ論	2	スポーツ健康科学特殊講義 B	2
障がい者スポーツ論(応用)	2	B群より 22 単位以上履修すること。	
スポーツ統計情報処理	2	C 群(応用科目)	
スポーツ倫理学	2	C群 I 類	
スポーツ・トピックス 1	2	スポーツ方法実習(フィットネス)	1
スポーツ・トピックス 2	2	スポーツ方法実習(器械運動)	1
スポーツ行政論	2	スポーツ方法実習(水泳)	1
スポーツ組織文化論	2	スポーツ方法実習(バスケットボール)	1
身体運動制御論	2	スポーツ方法実習(バレーボール)	1
スポーツ生体ダイナミクス	2	スポーツ方法実習(サッカー)	1
健康教育学	2	スポーツ方法実習(卓球)	1
ヒトの病理と防御システム I	2	スポーツ方法実習(テニス)	1
リハビリテーション医学	2	スポーツ方法実習(柔道)	1
スポーツ生化学	2	スポーツ方法実習(剣道)	1
薬理学	2	スポーツ方法実習(ダンス)	1
精神保健論	2	スポーツ方法実習(スキー)	1
スポーツマッサージ・テーピング論	2	スポーツ方法実習(ゴルフ)	1
高齢者スポーツ論	2	スポーツ方法実習(野外活動)	1
競技者育成システム論	2	スポーツ方法実習(バドミントン)	1
スポーツ経済学	2	スポーツ方法実習(フェンシング)	1
スポーツビジネス論	2	スポーツ方法実習(陸上競技)	1
スポーツ人類学	2	スポーツ方法実習(ウォータースポーツ)	1
スポーツ・メディア論	2	スポーツ方法実習(ソフトテニス)	1
スポーツ・マネジメント論	2	スポーツ方法実習(ニュースポーツ)	1
障がい者スポーツ指導論	2	スポーツ指導法実習(フィットネス)	1
スポーツ健康外国書講読 I	2	スポーツ指導法実習(器械運動)	1
スポーツ健康外国書講読 II	2	スポーツ指導法実習(水泳)	1
環境生理学	2	スポーツ指導法実習(バスケットボール)	1
スポーツ分子生物学	2	スポーツ指導法実習(バレーボール)	1
インターンシップ演習	2	スポーツ指導法実習(サッカー)	1

スポーツ指導法実習(卓球)	1	人権教育論	2
スポーツ指導法実習(テニス)	1	学校教育社会学	2
スポーツ指導法実習(柔道)	1	保健体育科教育法 A1	2
スポーツ指導法実習(剣道)	1	保健体育科教育法 A2	2
スポーツ指導法実習(ダンス)	1	教育方法とICT活用の理論と実践	2
スポーツ指導法実習(スキー)	1	保健体育科教育法 B	2
スポーツ指導法実習(ゴルフ)	1	保健体育科教育法 C	2
スポーツ指導法実習(野外活動)	1	選択科目A群, B群, C群, D群, E群より合計48単位以上(A群6単位以上, B群22単位以上, C群I類より4単位以上を含めC群より6単位以上を含む)を履修すること。	
スポーツ指導法実習(バドミントン)	1		
スポーツ指導法実習(陸上競技)	1		
C群II類			
スポーツ健康科学特殊講義 S	2	F 群(全学共通教養教育科目)	
スポーツ健康科学応用演習	2	全学共通教養教育科目(「スポーツ・健康の科学A」,	
C群I類より4単位以上を含めC群より6単位以上履修すること。		「スポーツ・健康の科学B」,「スポーツ・健康の科学C」を除く), 他学部設置科目, 同志社女子大学単位互換科目, 大学コンソーシアム京都単位互換科目及びテュービンゲン大学IES科目より30単位以上を履修すること。	
D 群(隣接科目)		ただし, 全学共通教養教育科目の外国語教育科目のうち, 英語8単位, ドイツ語, フランス語, 中国語, ロシア語, スペイン語及びコリア語のうち一つの外国語4単位, 並びに全学共通教養教育科目(外国語教育科目, 「スポーツ・健康の科学A」, 「スポーツ・健康の科学B」, 「スポーツ・健康の科学C」を除く), 他学部設置科目, 同志社女子大学単位互換科目, 大学コンソーシアム京都単位互換科目及びテュービンゲン大学IES科目から18単位を含むこと。	
スポーツ健康科学のための自然科学入門 A	2	なお, 全学共通教養教育科目の「スポーツ・パフォーマンス1」は, 2単位を上限として卒業単位に算入する。 TOEIC, TOEFL 等外部試験において, 一定水準以上の成果を修めた者は, 4単位を限度として外国語教育科目の英語科目の単位として認定する。 ○日本語・日本文化教育科目	
スポーツ健康科学のための自然科学入門 B	2		
現代社会論	2		
児童・家庭福祉論	2		
福祉社会論	2		
生物学	2		
発達と学習の心理学	2		
学習心理学(学習・言語心理学I)	2		
生理心理学(神経・生理心理学)	2		
学校心理学(教育・学校心理学)	2		
健康心理学(健康・医療心理学)	2		
生化学	2		
内科学概論	2		
外科学概論(病態生理学)	2		
臨床解剖学概論	2		
E 群(教育関連科目)			

日本語・日本文化教育科目の履修は、外国人留学生に限る。履修した単位は、F群の必要単位に算入する。なお、日本語1(読解AⅥ)～日本語2(文法Ⅸ)、ビジネス日本語C及びビジネス日本語Dの単位を英語以外の外国語の単位に代えることができる。

○自由科目

教職概論	2
教育原理	2
特別ニーズ教育論	2
スクールインターンシップ	2
教育課程論	2
教育制度と学校経営	2
道德教育の理論と実践	2
特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2
生徒・進路指導の理論と方法	2
教育相談の理論と方法	2
教職実践演習(中・高)	2
教育実習指導	1
教育実習 A	2
教育実習 B	2
教育実習 C	4
健康運動指導実習	1

上記科目のほか、全学共通教養教育科目(保健体育科目)の「スポーツ・健康の科学A」、「スポーツ・健康の科学B」、「スポーツ・健康の科学C」を履修することができる。

自由科目は卒業単位に算入しない。

履修方法

必修科目 26 単位(卒業研究A・B各 3 単位を含む)、選択科目 98 単位以上(A群, B群, C群, D群, E群, F群よりそれぞれの最低必要単位数以上を含む)、合計 124 単位以上を履修すること。

心 理 学 部

心 理 学 科

人材養成目的

心理学部心理学科は、こころと行動の仕組みとその機能を実証的に明らかにし、それを通じて実社会への貢献を目指す学問である心理学を、専門的な講義及び少人数クラスにおける演習・実習をとおして学び、実証的なものの捉え方、そして基礎・応用心理学に関する高度な知識と技能を身に付け、ひいてはキリスト教主義の精神に基づき、こころの問題を解決する心理学の専門家、広く社会において活躍する人材を養成することを目的とする。

科 目

履修単位

○必修科目

心理学概論(1)	2
心理学概論(2)	2
臨床心理学概論	2
外国書講読(1)	2
外国書講読(2)	2
心理学統計法(1)	2
心理学統計法(2)	2
心理学研究法(1)	2
心理学研究法(2)	2
ファーストイヤーセミナー	2
心理学実験(1)	2
心理学実験(2)	2
心理学実験(3)	2
心理学データ解析実習	2
プレ演習	2
演習(1)	2
演習(2)	2

卒業論文	8	生徒・進路指導の理論と方法	2
○選択科目Ⅰ		ヒューマン・モチベーション	2
A 群(神経・行動)		家族心理学(社会・集団・家族心理学Ⅲ)	2
生理心理学(神経・生理心理学)	2	高齢者心理学	2
学習心理学(学習・言語心理学Ⅰ)	2	学校心理学(教育・学校心理学)	2
認知心理学(知覚・認知心理学)	2	教育相談の理論と方法	2
精神生理学	2	福祉心理学	2
感情心理学(感情・人格心理学Ⅰ)	2	D 群(共通)	
神経科学の基礎	2	心理学史	2
行動分析学(学習・言語心理学Ⅱ)	2	心理学特論	2
比較認知心理学	2	多変量解析法の基礎	2
食行動の心理学	2	心理学情報機器基礎	2
スポーツ心理学	2	心理学実験演習(上級)	2
B 群(臨床・社会)		心理学実験プロジェクト演習	2
パーソナリティ心理学(感情・人格心理学Ⅱ)	2	心理的アセスメント	2
健康心理学(健康・医療心理学)	2	発達と学習の心理学	2
環境心理学	2	E 群(公認心理師共通)	
臨床社会心理学	2	公認心理師の職責	2
心理学的支援法	2	人体の構造と機能及び疾病	2
精神疾患とその治療	2	関係行政論	2
実験社会心理学(1)(社会・集団・家族心理学Ⅰ)	2	心理演習	2
実験社会心理学(2)(社会・集団・家族心理学Ⅱ)	2	心理実習(1)	2
産業・組織心理学	2	心理実習(2)	2
犯罪心理学(司法・犯罪心理学)	2	選択科目Ⅰは、A群、B群及びC群から各6単位以上 を含め32単位以上履修すること。なお、32単位を超え て履修した単位は、選択科目Ⅱに算入する。	
交通心理学	2	○選択科目Ⅱ	
リスク心理学	2	学校教育社会学	2
C 群(発達・教育)		教育原理	2
発達心理学	2	道德教育の理論と実践	2
乳幼児心理学	2	教育方法とICT活用の理論と実践	2
障害者・障害児心理学	2	社会科・地理歴史科教育法	2

社会科・公民科教育法	2	読書と豊かな人間性	2
社会科教育法 1	2	学校図書館メディアの構成	2
社会科教育法 2	2	学習指導と学校図書館	2
公民科教育法	2	情報メディアの活用	2
教育制度と学校経営	2	生涯学習概論	2
特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2	図書館情報学概論	2
教育実習 A	2	図書館制度・経営論	2
教育実習 B	2	図書館情報技術論	2
教育実習 C	4	図書館情報サービス論 I	2
教職概論	2	図書館情報サービス論 II	2
教職実践演習(中・高)	2	児童サービス論	2
教育実習指導	1	情報サービス演習 I	2
教育課程論	2	情報サービス演習 II	2
哲学概論(1)	2	図書館情報資源概論	2
哲学概論(2)	2	情報資源組織論 I	2
倫理学概論(1)	2	情報資源組織論 II	2
倫理学概論(2)	2	情報資源組織演習 I	2
人文地理学(1)	2	情報資源組織演習 II	2
人文地理学(2)	2	図書館情報学特論	2
地理学総論(1)	2	学術情報利用教育論	2
地理学総論(2)	2	図書館情報資源特論	2
地誌学	2	図書・図書館史	2
日本文化史概説(1)	2	図書館演習	4
日本文化史概説(2)	2	スクールインターンシップ	2
東洋文化史概説(1)	2	学校図書館サービス論	2
東洋文化史概説(2)	2	日本の憲法	2
西洋文化史概説(1)	2	選択科目Ⅱは上記の科目のほか、全学共通教養教育科目、他学部設置科目、同志社女子大学単位互換科目及び大学コンソーシアム京都単位互換科目のうち、学部が定める科目から履修する。	
西洋文化史概説(2)	2		
社会学概論	4	ヨーロッパ・スタディーズEUキャンパスプログラムにおいて、テュービンゲン大学IES科目を修得した	
経済原論	4		
人権教育論	2		
学校教育図書館論	2		

場合は、その単位を認定することがある。

なお、全学共通教養教育科目の同志社科目及び宗教学(1)、宗教学(2)より4単位以上、保健体育科目から2単位以上を含め46単位以上履修すること。

○選択科目Ⅲ

選択科目Ⅲは、全学共通教養教育科目(外国語教育科目)のうち、学部が定める科目から履修する。英語8単位、英語以外の外国語4単位、計12単位以上を履修すること。

TOEIC、TOEFL等、学部が定める外部試験において、一定水準以上の成果を修めた場合は、4単位を上限として認定する。

ヨーロッパ・スタディーズEUキャンパスプログラムにおいて、テュービンゲン大学IES科目を修得した場合は、12単位を上限として認定することがある。

なお、12単位を超えて履修、または認定された単位は、選択科目Ⅱに算入する。

○自由科目

特別ニーズ教育論

2

○外国人留学生科目

外国人留学生科目の履修は、外国人留学生に限る。外国人留学生科目は、日本語・日本文化教育科目から選択履修する。履修した単位は選択科目Ⅱの必要単位に算入する。なお、日本語1(読解AⅥ)～日本語1(文法Ⅸ)、日本語2(読解AⅥ)～日本語2(文法Ⅸ)およびビジネス日本語C、ビジネス日本語Dの単位を選択科目Ⅲの単位に代えることができる。

以上、必修科目42単位(卒業論文8単位を含む)、選択科目Ⅰ32単位以上、選択科目Ⅱ46単位以上、選択科目Ⅲ12単位以上、合計132単位以上を履修すること。

グローバル・コミュニケーション学部

グローバル・コミュニケーション学科

人材養成目的

グローバル・コミュニケーション学部グローバル・コミュニケーション学科は、グローバル化した社会に対する幅広い教養と国際的センス、強い自立心と倫理観を養わせると同時に、高度で実践的・実用的外国語運用能力を習得させることをとおして、ビジネス関連の諸分野や教育機関、また国際政治や文化交流に係わる非営利事業の諸分野などの国際的舞台で、facilitator, negotiator, administratorとして活躍できる人材を養成することを目的とする。

英語コース：現代における世界共通言語としての英語の重要性に鑑み、卓越した英語運用能力を獲得し、「国際主義」を体現する人物の育成、すなわち、現代社会のグローバル化の構造と動向に関する理解、及び英語圏文化に対する理解を基礎に、高度な外国語運用能力を駆使して、グローバル時代を牽引する人材を養成することを目的とする。

中国語コース：国境を越えて地球規模で展開する中国語の重要性に鑑み、卓越した中国語運用能力を獲得し、「国際主義」を体現する人物の育成、すなわち、現代社会のグローバル化の構造と動向に関する理解、及び中国語圏文化に対する理解を基礎に、高度な外国語運用能力を駆使して、中国語圏への架け橋となる人材を養成することを目的とする。

日本語コース：留学生を対象とする日本語コースでは、日本文化・社会への深い造詣を持つ人材育成の重要性に鑑み、卓越した日本語運用能力を獲得し、「国際主義」を体現する人物の育成、すなわち、現代社会のグローバル化の構造と動向に関する理解、及び日本文化に対する理解を基礎に、高度な外国語運用能力を駆使して、日本

と世界を結ぶ架け橋となる人材を養成することを目的とする。

科 目 履修単位

○必修科目

【各コース共通】

Introduction to Global Communication 2
Seminar Project 1 2
Seminar Project 2 2

【英語コース】

Introduction to English-Speaking Cultures 2
Introduction to Japanese Culture 2
Progress in Reading 1 2
Progress in Reading 2 2
Progress in Writing 1 2
Progress in Writing 2 2
Preparation for TOEFL 2
Preparation for Academic Study 2
Communicative Performance 1 4
Communicative Performance 2 4
Threshold Seminar 1 2
Threshold Seminar 2 2
Intermediate Seminar 1 2
Intermediate Seminar 2 2
Advanced Seminar 1 2
Advanced Seminar 2 2

【中国語コース】

基幹中国語Ⅰ会話 4
基幹中国語Ⅱ会話 4
基幹中国語Ⅲ会話 4
基幹中国語Ⅰ講読 4
基幹中国語Ⅱ講読 4

基幹中国語Ⅲ講読 4

上級中国語精読 2

上級中国語ライティング 2

基礎演習 1 2

基礎演習 2 2

基礎演習 3 2

専門演習 1 2

専門演習 2 2

専門演習 3 2

中国総合研究 2

【日本語コース】

プレゼンテーション 1 2
プレゼンテーション 2 2
アカデミックライティング 1 2
アカデミックライティング 2 2
クリティカルリーディング 1 2
クリティカルリーディング 2 2
日本語コミュニケーションの基礎 1 2
日本語コミュニケーションの基礎 2 2
日本語コミュニケーションの基礎 3 2
日本語コミュニケーションの基礎 4 2
ファーストイヤーセミナー 2
グローバル化と日本社会 1 2
グローバル化と日本社会 2 2
応用演習 1 2
応用演習 2 2
専門演習 1 2
専門演習 2 2
ワークショップ現代日本社会 1 2
ワークショップ現代日本社会 2 2

○選択科目Ⅰ

【英語コース】

A 群(English Proficiency Skills)		Structure of English	2
Business English 1	2	History of English and World	2
Business English 2	2	Englishes	
Critical Reading	2	Contrastive Study of English and	2
Critical Writing	2	Japanese	
Interpretation 1	2	Special Topics in Language Issues 1	2
Interpretation 2	2	Special Topics in Language Issues 2	2
Advanced Interpretation	2	E 群(The German, French or Chinese Language)	
Translation 1	2	Communicative Skills in German I	3
Translation 2	2	Communicative Skills in German II	3
Preparation for TOEIC	2	Communicative Skills in French I	3
Advanced Communicative Performance 1	2	Communicative Skills in French II	3
Advanced Communicative Performance 2	2	Communicative Skills in Chinese I	3
		Communicative Skills in Chinese II	3
B 群(Global Issues)		F 群(English Education)	
Environmental Issues	2	I C T活用基礎	2
Media and Globalization	2	英語科教育法 A1	2
Technology and Communication	2	英語科教育法 A2	2
World Economy and Business	2	英語科教育法 B	2
International Political Issues	2	英語科教育法 C	2
Special Topics in Global Issues 1	2	教育実習指導	1
Special Topics in Global Issues 2	2	教育実習 A	2
		教育実習 B	2
C 群(Cultural Issues)		教育実習 C	4
Cultural Interaction	2	教職実践演習 (中・高)	2
Intercultural Communication	2		
Japanese Culture and Society	2	英語コースの者は選択科目 I A群から 8 単位以上, B	
Cultural Issues in Literature	2	群から 6 単位以上, C群から 6 単位以上, D群から 6 単	
Introduction to British Literature	2	位以上, E群から 1 言語を選択して 6 単位 (ただし, 6	
Introduction to American Literature	2	単位を超えて履修した単位は, 卒業要件単位に算入す	
Special Topics in Cultural Issues 1	2	る) に A群~F 群 4 単位を加えた合計 36 単位以上を履	
Special Topics in Cultural Issues 2	2	修すること。なお, これに加えて中国語コースの B・	
D 群(Language Issues)		C・D群, 日本語コースの B・C・D群からも履修する	
Knowledge of English	2		

ことができる。中国語コースのB・C・D群、日本語コースのB・C・D群の単位は6単位を上限として卒業要件単位に含めることができる。

【中国語コース】

A 群1類(基礎中国語)

基幹中国語Ⅰリスニング	1
基幹中国語Ⅱリスニング	1
基幹中国語Ⅲリスニング	1
基幹中国語Ⅰライティング	1
基幹中国語Ⅱライティング	1
基幹中国語Ⅲライティング	1
基幹中国語応用 1	2
基幹中国語応用 2	2
基幹中国語応用 3	2

A 群2類(実践的中国語)

ビジネス中国語会話	2
時事中国語	2
中国語コミュニケーション	2
中国語速読技法	2
ビジネス中国語ライティング	2
日中翻訳技法	2
中日翻訳技法	2
中国語検定試験特別講座	2
通訳の理論と実践	2

B 群(グローバル論)

中国語圏の経済と貿易	2
中国語圏の資源と環境	2
現代中国の社会と文化	2
中国語圏の政治事情	2

C 群(異文化間交渉論)

異文化間交渉概論	2
日中組織運営論	2

国際交流支援論 2

発信型日本学 2

D 群(中国語論)

中国語文法論	2
中国語の方言と諸言語	2
中国語と日本語	2
コンテンポラリー・チャイニーズ論	2

E 群(英語)

英語リーディング 1	1
英語リーディング 2	1
英語リーディング 3	1
英語リーディング 4	1
英語コミュニケーション 1	1
英語コミュニケーション 2	1
英語コミュニケーション 3	1
英語コミュニケーション 4	1
英語リーディング (上級)	2
英語コミュニケーション (上級)	2
英語能力試験特殊講座	2

中国語コースの者は選択科目ⅠA群1類から6単位以上、A群2類から8単位以上、B群から4単位以上、C群から4単位以上、D群から4単位以上、E群から8単位以上にA群～E群2単位を加えた合計36単位以上を履修すること。E群については、英語を母語とする者、又はそれに準ずる者は英語コースの選択科目ⅠE群のドイツ語、フランス語いずれかの言語を選択履修するものとし、また中国語コースの選択科目ⅠE群の英語能力試験特殊講座の単位認定を受けることとする。なお、これに加えて英語コースのB・C・D群、日本語コースのB・C・D群からも履修することができる。英語コースのB・C・D群、日本語コースのB・C・D群の単位は6単位を上限として卒業要件単位に含めることができ

る。		英語リーディング 4	1
【日本語コース】		英語コミュニケーション 1	1
A 群(実践日本語)		英語コミュニケーション 2	1
ビジネス日本語 1	2	英語コミュニケーション 3	1
ビジネス日本語 2	2	英語コミュニケーション 4	1
通訳翻訳の基礎 1	2	英語リーディング(上級)	2
通訳翻訳の基礎 2	2	英語コミュニケーション(上級)	2
通訳翻訳の実践 1	2	英語初級インテンシヴ 1	3
通訳翻訳の実践 2	2	英語初級インテンシヴ 2	3
時事日本語	2	日本語コースの者は選択科目ⅠA群から6単位以上、	
日本語検定試験講座	2	B群から6単位以上、C群から6単位以上、D群から6	
B 群(グローバル論)		単位以上、E群から6単位以上、合わせて30単位以上履	
グローバル化と日本企業	2	修すること。なお、英語コースのB・C・D群、中国語コ	
多文化間コミュニケーション	2	ースのB・C・D群からも履修することができる。英語コ	
多文化共生社会と日本	2	ースB・C・D群、中国語コースB・C・D群の単位は、	
多言語社会と言語政策	2	6単位ずつ(合計12単位)を上限として卒業要件単位に含	
C 群(日本文化論)		めることができる。	
日本の現代文学	2	○選択科目Ⅱ	
日本のマンガとアニメ	2	【英語コース】	
京都学	2	Communicative Skills in English A1	4
日本のツーリズム	2	Communicative Skills in English A2	4
D 群(日本語論)		Communicative Skills in English B	2
社会の中の日本語	2	Improving German, French or Chinese 1	2
外国語から見た日本語	2	Improving German, French or Chinese 2	2
日本語教育	2	Current Trends in World Business 1	2
日本語コミュニケーションの諸相	2	Current Trends in World Business 2	2
E 群(日本語および第二外国語)		Current Trends in the World Economy 1	2
日本語インテンシヴ 1	3	Current Trends in the World Economy 2	2
日本語インテンシヴ 2	3	Current Trends in World Politics 1	2
英語リーディング 1	1	Current Trends in World Politics 2	2
英語リーディング 2	1	Current Trends in World Environmental	2
英語リーディング 3	1	Policy 1	

Current Trends in World Environmental Policy 2	2	Cultural Survey in Europe 1	2
Topics in Globalization and Local Issues 1	2	Cultural Survey in Europe 2	2
Topics in Globalization and Local Issues 2	2	Depth in European History 1	2
Topics in Globalization and Local Issues 3	2	Depth in European History 2	2
Topics in Globalization and Local Issues 4	2	Studies on Asian Countries 1	2
Topics in Communication and Interaction 1	2	Studies on Asian Countries 2	2
Topics in Communication and Interaction 2	2	Basics in Social Science 1	2
Topics in Communication and Interaction 3	2	Basics in Social Science 2	2
Topics in Communication and Interaction 4	2	Basics in Communication 1	2
Cultural Survey in Oceania 1	2	Basics in Communication 2	2
Cultural Survey in Oceania 2	2	Art and Communication 1	2
Depth in American History 1	2	Art and Communication 2	2
Depth in American History 2	2	Human and Science 1	2
Depth in Oceanian History 1	2	Human and Science 2	2
Depth in Oceanian History 2	2	Human and Science 3	2
Cultural Survey of Japan 1	2	Human and Science 4	2
Cultural Survey of Japan 2	2		
Japan viewed from English-Speaking Countries 1	2	英語コースの者は Study Abroad を通じて、各研修先で単位を修得し、選択科目Ⅱの科目から2単位以上の単位認定を受けること。ただし研修先大学の本科で修得した科目の中で上記科目に該当しない科目については選択科目Ⅲとして認定可能な場合がある。なお、災害、事故、感染症等により、Study Abroad が実施できなかった場合は、選択科目Ⅱの科目を本学で開講し、代替とする場合がある。	
Japan viewed from English-Speaking Countries 2	2	【中国語コース】	
Science of Language 1	2	展開中国語会話 1	2
Science of Language 2	2	展開中国語会話 2	2
Cultural Survey in Americas 1	2	展開中国語会話 3	2
Cultural Survey in Americas 2	2	展開中国語会話 4	2
		展開中国語講読 1	2
		展開中国語講読 2	2
		展開中国語講読 3	2

展開中国語講読 4	2	教育方法とICT活用の理論と実践	2
展開中国語作文 1	2	生徒・進路指導の理論と方法	2
展開中国語作文 2	2	教育相談の理論と方法	2
展開中国語作文 3	2	スクールインターンシップ	2
展開中国語作文 4	2	【英語コース】	
中国の社会と文化 1	2	選択科目Ⅲとして上記科目のほか、全学共通教養教育	
中国の社会と文化 2	2	科目、他学部設置科目、同志社女子大学単位互換科目、大	
中国の社会と文化 3	2	学コンソーシアム京都単位互換科目及びチュービンゲン	
中国の社会と文化 4	2	大学IES科目の中から14単位以上を履修すること。	
中国語コースの者はStudy Abroadを通じて、各研修先		ただし、全学共通教養教育科目の外国語教育科目のう	
で単位を修得し、選択科目Ⅱの科目から2～30単位の単		ち、英語に関しては、「English for Academic Purposes	
位認定を受けること。なお、災害、事故、感染症等によ		1・2・3」「English for Professional Purposes 1・2」	
り、Study Abroadが実施できなかった場合は、選択科目		「サマープログラム・英語A・B・C」「スプリングプロ	
Ⅱの科目を本学で開講し、代替とする場合がある。		グラム・英語A・B・C・D」「セメスタープログラム・	
【日本語コース】		英語Ⅰ・Ⅱ」「Study Abroad Preparation(TOEFL TEST) 1・	
日本の伝統文化演習 A	2	2」及び「Study Abroad Preparation(IELTS) 1・2」のみ	
日本の伝統文化演習 B	2	履修することができる。英語以外の外国語に関しては、	
日本の社会実習 A	1	選択科目IE群で選択した外国語（ドイツ語、フランス	
日本の社会実習 B	1	語、中国語）科目のうち、入門Ⅰ・Ⅱ、インテンシヴⅠ・	
日本語コースの者は選択科目Ⅱから3単位以上履修す		Ⅱは履修することができない。	
ること。		【中国語コース】	
○選択科目Ⅲ		選択科目Ⅲとして上記科目のほか、全学共通教養教育	
教育原理	2	科目、他学部設置科目、同志社女子大学単位互換科目、大	
教職概論	2	学コンソーシアム京都単位互換科目及びチュービンゲン	
教育制度と学校経営	2	大学IES科目の中から14単位以上を履修すること。	
学校教育社会学	2	ただし、全学共通教養教育科目の外国語教育科目のう	
人権教育論	2	ち、英語に関しては、「English for Academic Purposes	
発達と学習の心理学	2	1・2・3」「English for Professional Purposes 1・2」	
特別ニーズ教育論	2	「サマープログラム・英語A・B・C」「スプリングプロ	
教育課程論	2	グラム・英語A・B・C・D」「セメスタープログラム・	
道德教育の理論と実践	2	英語Ⅰ・Ⅱ」「Study Abroad Preparation(TOEFL TEST) 1・	
特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2	2」及び「Study Abroad Preparation(IELTS) 1・2」のみ	

履修することができる。英語以外の外国語に関しては、中国語科目を履修することはできない。

【日本語コース】

選択科目Ⅲとして上記科目のほか、全学共通教養教育科目、他学部設置科目、日本語・日本文化教育科目(ただし、日本事情科目に限る)、同志社女子大学単位互換科目、大学コンソーシアム京都単位互換科目及びテュービンゲン大学 I E S 科目の中から 1 単位以上を履修すること。

履修方法

【英語コース】

以上、必修科目 42 単位、選択科目Ⅰから 36 単位以上、選択科目Ⅱから 2 単位以上、選択科目Ⅲから 14 単位以上、合計 124 単位以上を履修すること。

【中国語コース】

以上、必修科目 48 単位、選択科目Ⅰから 36 単位以上、選択科目Ⅱから 2～30 単位、選択科目Ⅲから 14 単位以上、合計 124 単位以上を履修すること。

【日本語コース】

以上、必修科目 44 単位、選択科目Ⅰから 30 単位以上、選択科目Ⅱから 3 単位以上、選択科目Ⅲから 1 単位以上、合計 124 単位以上を履修すること。

グローバル地域文化学部

グローバル地域文化学科

人材養成目的

グローバル地域文化学部グローバル地域文化学科は、ヨーロッパ、アジア・太平洋、南北アメリカ 3 つの諸地域における文化の歴史的背景や現状を正確に理解しつつ、グローバル社会に対応できる幅広い教養をもって国内外のあらゆる場面で活躍し、本学教育理念のひとつ

である国際主義を更に推進できる、良心と自由な精神を備えた人物の育成を目的としている。従って、本学部では、世界の中で自身の地歩をしっかりと持つ自立心と獨創性、自身とは異なる価値観を受け入れることのできる、広い識見に支えられた寛容さと柔軟さ、および隣人との関係性の内に地球規模の課題を発見し、希望ある共生社会を構想する高い志を身に付けさせる。

科 目	履修単位
-----	------

○必修科目

【共通科目】

グローバル地域文化論Ⅰ	2
グローバル地域文化論Ⅱ	2
グローバル地域文化導入セミナー	2
グローバル地域文化入門セミナー	2
グローバル地域文化発展セミナーⅠ	2
グローバル地域文化発展セミナーⅡ	2
グローバル地域文化専門セミナーⅠ	2
グローバル地域文化専門セミナーⅡ	2
卒業論文	8

【ヨーロッパ】

ヨーロッパ研究入門Ⅰ	2
ヨーロッパ研究入門Ⅱ	2

【アジア・太平洋】

アジア・オセアニア研究入門Ⅰ	2
アジア・オセアニア研究入門Ⅱ	2

【アメリカ】

南北アメリカ研究入門Ⅰ	2
南北アメリカ研究入門Ⅱ	2

○選択必修科目 A 群

(グローバル・イシュー科目)

グローバル・イシュー 1	2
グローバル・イシュー 2	2

グローバル・イシュー 3	2	サマープログラム・ロシア語	4
グローバル・イシュー 4	2	サマープログラム・韓国語	3
グローバル・イシュー 5	2	スプリングプログラム・英語 A	4
グローバル・イシュー 6	2	スプリングプログラム・英語 B	3
グローバル・イシュー 7	2	スプリングプログラム・英語 C	2
グローバル・イシュー 8	2	スプリングプログラム・英語 D	1
グローバル・イシュー 9	2	スプリングプログラム・ドイツ語	3
グローバル・イシュー 10	2	スプリングプログラム・フランス語	3
グローバル・イシュー 11	2	スプリングプログラム・中国語	1
(グローバル地域文化教養セミナー科目)		スプリングプログラム・スペイン語 B	3
グローバル地域文化教養セミナー 1	2	スプリングプログラム・韓国語	3
グローバル地域文化教養セミナー 2	2	セメスタープログラム・英語 I	4
グローバル地域文化教養セミナー 3	2	セメスタープログラム・英語 II	4
グローバル地域文化教養セミナー 4	2	セメスタープログラム・ドイツ語 I	4
グローバル地域文化教養セミナー 5	2	セメスタープログラム・ドイツ語 II	4
グローバル地域文化教養セミナー 6	2	スタディ・ツアー	2
グローバル地域文化教養セミナー 7	2	海外インターンシップ	2
グローバル地域文化教養セミナー 8	2	海外語学プログラム(英語) I	4
グローバル地域文化教養セミナー 9	2	海外語学プログラム(英語) II	4
グローバル地域文化教養セミナー 10	2	海外語学プログラム(英語) III	1
グローバル地域文化教養セミナー 11	2	留学とキャリア形成	1
グローバル地域文化教養セミナー 12	2	グローバル地域文化学の発信	1
グローバル地域文化教養セミナー 13	2	派遣留学プログラム 1	1
○選択必修科目B群 (スタディ・アブロード科目群)		派遣留学プログラム 2	2
サマープログラム・英語 A	4	選択必修科目B群から1単位履修すること。1単位以上履修した場合は、超過分の単位を選択必修科目C群 (外国語関連科目群) の卒業要件単位に算入する。	
サマープログラム・英語 B	3		
サマープログラム・英語 C	2		
サマープログラム・ドイツ語 A	4		
サマープログラム・ドイツ語 B	3		
サマープログラム・フランス語	4	○選択必修科目C群 (外国語関連科目群)	
サマープログラム・中国語 B	3	(英語)	
サマープログラム・スペイン語	4	Intensive Advanced English 1	3
		Intensive Advanced English 2	3
		Core English (LS) - Intermediate 1	2

Core English (LS) - Intermediate 2	2	ポスト・アドヴァンスト・イングリッシュ A4	2
Core English (RW) - Intermediate 1	1	ポスト・アドヴァンスト・イングリッシュ B1	2
Core English (RW) - Intermediate 2	1	ポスト・アドヴァンスト・イングリッシュ B2	2
Core English (LS) - Pre-Intermediate 1	2	(ドイツ語)	
Core English (LS) - Pre-Intermediate 2	2	ドイツ語入門 I	2
Core English (RW) - Pre-Intermediate 1	1	ドイツ語入門 II	2
Core English (RW) - Pre-Intermediate 2	1	ドイツ語応用 1	1
Basic English (LS) 1	2	ドイツ語応用 2	1
Basic English (LS) 2	2	ドイツ語応用 3	1
Basic English (RW) 1	1	ドイツ語応用 4	1
Basic English (RW) 2	1	ドイツ語インテンシヴ I	3
General Academic English (LS)		ドイツ語インテンシヴ II	3
- Intermediate	1	ドイツ語インテンシヴ III	3
General Academic English (RW)		ドイツ語インテンシヴ IV	3
- Intermediate	1	ドイツ語インテンシヴ V	2
General Academic English (LS)		ドイツ語インテンシヴ VI	2
- Pre-Intermediate	1	ドイツ語文化事情 1	2
General Academic English (RW)		ドイツ語文化事情 2	2
- Pre-Intermediate	1	ドイツ語表現法 1	2
English for Professional Purposes 1	1	ドイツ語表現法 2	2
English for Professional Purposes 2	1	言語文化原典演習(ドイツ語) 1	2
English for Academic Purposes 1	2	言語文化原典演習(ドイツ語) 2	2
English for Academic Purposes 2	2	現代地域事情・上級講読(ドイツ語圏) 1	2
English for Academic Purposes 3	2	現代地域事情・上級講読(ドイツ語圏) 2	2
Study Abroad Preparation (TOEFL TEST) 1	2	ドイツ語会話初級 1	1
Study Abroad Preparation (TOEFL TEST) 2	2	ドイツ語会話初級 2	1
Study Abroad Preparation (IELTS) 1	2	ドイツ語会話中級 1	1
Study Abroad Preparation (IELTS) 2	2	ドイツ語会話中級 2	1
ポスト・アドヴァンスト・イングリッシュ A1	2	ドイツ語会話上級 1	1
ポスト・アドヴァンスト・イングリッシュ A2	2	ドイツ語会話上級 2	1
ポスト・アドヴァンスト・イングリッシュ A3	2	(フランス語)	
		フランス語入門 I	2

フランス語入門 II	2	中国語応用 3	1
フランス語応用 1	1	中国語応用 4	1
フランス語応用 2	1	中国語インテンシヴ I	3
フランス語応用 3	1	中国語インテンシヴ II	3
フランス語応用 4	1	中国語インテンシヴ III	3
フランス語インテンシヴ I	3	中国語インテンシヴ IV	3
フランス語インテンシヴ II	3	中国語インテンシヴ V	2
フランス語インテンシヴ III	3	中国語インテンシヴ VI	2
フランス語インテンシヴ IV	3	中国語インテンシヴ VII	2
フランス語インテンシヴ V	2	中国語インテンシヴ VIII	2
フランス語インテンシヴ VI	2	中国語文化事情 1	2
フランス語インテンシヴ VII	2	中国語文化事情 2	2
フランス語インテンシヴ VIII	2	中国語表現法 1	2
フランス語文化事情 1	2	中国語表現法 2	2
フランス語文化事情 2	2	言語文化原典演習(中国語) 1	2
フランス語表現法 1	2	言語文化原典演習(中国語) 2	2
フランス語表現法 2	2	現代地域事情・上級講読(中国語圏) 1	2
言語文化原典演習(フランス語) 1	2	現代地域事情・上級講読(中国語圏) 2	2
言語文化原典演習(フランス語) 2	2	中国語会話初級 1	1
現代地域事情・上級講読(フランス語圏) 1	2	中国語会話初級 2	1
現代地域事情・上級講読(フランス語圏) 2	2	中国語会話中級 1	1
フランス語会話初級 1	1	中国語会話中級 2	1
フランス語会話初級 2	1	中国語会話上級 1	1
フランス語会話中級 1	1	中国語会話上級 2	1
フランス語会話中級 2	1	(スペイン語)	
フランス語会話上級 1	1	スペイン語入門 I	2
フランス語会話上級 2	1	スペイン語入門 II	2
(中国語)		スペイン語応用 1	1
中国語入門 I	2	スペイン語応用 2	1
中国語入門 II	2	スペイン語応用 3	1
中国語応用 1	1	スペイン語応用 4	1
中国語応用 2	1	スペイン語インテンシヴ I	3

スペイン語インテンシヴ II	3	ロシア語表現法 1	2
スペイン語インテンシヴ III	3	ロシア語表現法 2	2
スペイン語インテンシヴ IV	3	言語文化原典演習(ロシア語) 1	2
スペイン語インテンシヴ V	2	言語文化原典演習(ロシア語) 2	2
スペイン語インテンシヴ VI	2	現代地域事情・上級講読(ロシア語圏) 1	2
スペイン語文化事情 1	2	現代地域事情・上級講読(ロシア語圏) 2	2
スペイン語文化事情 2	2	ロシア語会話初級 1	1
スペイン語表現法 1	2	ロシア語会話初級 2	1
スペイン語表現法 2	2	ロシア語会話中級 1	1
言語文化原典演習(スペイン語) 1	2	ロシア語会話中級 2	1
言語文化原典演習(スペイン語) 2	2	ロシア語会話上級 1	1
現代地域事情・上級講読(スペイン語圏) 1	2	ロシア語会話上級 2	1
現代地域事情・上級講読(スペイン語圏) 2	2	(ロシア語)	
スペイン語会話初級 1	1	ロシア語入門 I	2
スペイン語会話初級 2	1	ロシア語入門 II	2
スペイン語会話中級 1	1	ロシア語応用 1	1
スペイン語会話中級 2	1	ロシア語応用 2	1
スペイン語会話上級 1	1	ロシア語応用 3	1
スペイン語会話上級 2	1	ロシア語応用 4	1
(ロシア語)		ロシア語インテンシヴ I	3
ロシア語入門 I	2	ロシア語インテンシヴ II	3
ロシア語入門 II	2	ロシア語インテンシヴ III	3
ロシア語応用 1	1	ロシア語インテンシヴ IV	3
ロシア語応用 2	1	ロシア語インテンシヴ V	2
ロシア語応用 3	1	ロシア語インテンシヴ VI	2
ロシア語応用 4	1	ロシア語文化事情 1	2
ロシア語インテンシヴ I	3	ロシア語文化事情 2	2
ロシア語インテンシヴ II	3	ロシア語表現法 1	2
ロシア語インテンシヴ III	3	ロシア語表現法 2	2
ロシア語インテンシヴ IV	3	言語文化原典演習(ロシア語) 1	2
ロシア語文化事情 1	2	言語文化原典演習(ロシア語) 2	2
ロシア語文化事情 2	2	現代地域事情・上級講読(ロシア語圏) 1	2

現代地域事情・上級講読(コリア語圏) 2	2	地域文化理解のためのポルトガル語 4	2
コリア語会話初級 1	1	(講読)	
コリア語会話初級 2	1	地域文化理解のためのポルトガル語 5	2
コリア語会話中級 1	1	(講読)	
コリア語会話中級 2	1	(アラビア語)	
コリア語会話上級 1	1	地域文化理解のためのアラビア語 1(文法)	2
コリア語会話上級 2	1	地域文化理解のためのアラビア語 2(文法)	2
(インドネシア語)		地域文化理解のためのアラビア語 3	2
地域文化理解のためのインドネシア語 1	2	(コミュニケーション)	
(文法)		地域文化理解のためのアラビア語 4(講読)	2
地域文化理解のためのインドネシア語 2	2	地域文化理解のためのアラビア語 5(講読)	2
(文法)		(イタリア語)	
地域文化理解のためのインドネシア語 3	2	イタリア語初級 I	1
(コミュニケーション)		イタリア語初級 II	1
地域文化理解のためのインドネシア語 4	2	地域文化理解のためのイタリア語 1	2
(講読)		(コミュニケーション)	
地域文化理解のためのインドネシア語 5	2	イタリア語中級 I	1
(講読)		イタリア語中級 II	1
(トルコ語)		地域文化理解のためのイタリア語 2(講読)	2
地域文化理解のためのトルコ語 1(文法)	2	地域文化理解のためのイタリア語 3(講読)	2
地域文化理解のためのトルコ語 2(文法)	2	地域文化理解のためのイタリア語 4	2
地域文化理解のためのトルコ語 3	2	(コミュニケーション)	
(コミュニケーション)		(フランス語・カナダ)	
地域文化理解のためのトルコ語 4(講読)	2	地域文化理解のためのフランス語	2
地域文化理解のためのトルコ語 5(講読)	2	(カナダ) 1(総合)	
(ポルトガル語)		地域文化理解のためのフランス語	2
地域文化理解のためのポルトガル語 1	2	(カナダ) 2(総合)	
(文法)		選択必修科目C群(外国語関連科目群)のうち、英語	
地域文化理解のためのポルトガル語 2	2	及び英語以外の外国語から1言語、計2言語を選択し、	
(文法)		第一言語14単位以上、第二言語10単位以上履修すること。	
地域文化理解のためのポルトガル語 3	2	外国人留学生在が日本語・日本文化教育科目のうち、日	
(コミュニケーション)		本語1(読解AⅥ)～日本語2(文法Ⅸ)、ビジネス日本語	

C, ビジネス日本語Dの単位を履修した場合は、選択必修科目C群（外国語関連科目群）の英語以外の外国語の単位として卒業要件単位に算入する。

TOEIC 等英語能力に関する判定試験で一定水準以上の成果を修めた者は、8 単位を限度として、選択必修科目C群（外国語関連科目群）の英語の単位として認定する。

【ヨーロッパコース】

第一言語は英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語の中から選択すること。第一言語としてドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語を選択した場合は、第二言語として英語を履修すること。

【アジア・太平洋コース】

第一言語は英語、中国語、コリア語の中から選択すること。第一言語として中国語、コリア語を選択した場合は、第二言語として英語を履修すること。

【アメリカコース】

第一言語は英語、スペイン語の中から選択すること。第一言語としてスペイン語を選択した場合は、第二言語として英語を履修すること。

○選択科目A群（地域文化研究科目群）

【ヨーロッパ】

（地域の歴史）

ヨーロッパ地域の歴史 1	2
ヨーロッパ地域の歴史 2	2
ヨーロッパ地域の歴史 3	2

（地域の文化）

ヨーロッパ地域の文化 1	2
ヨーロッパ地域の文化 2	2
ヨーロッパ地域の文化 3	2
ヨーロッパ地域の文化 4	2
ヨーロッパ地域の文化 5	2

（地域と地球規模の課題）

ヨーロッパ地域の課題 1	2
ヨーロッパ地域の課題 2	2
ヨーロッパ地域の課題 3	2
ヨーロッパ地域の課題 4	2
ヨーロッパ地域の課題 5	2
ヨーロッパ地域の課題 6	2
ヨーロッパ地域の課題 7	2
ヨーロッパ地域の課題 8	2

【アジア・太平洋】

（地域の歴史）

アジア・オセアニア地域の歴史 1	2
アジア・オセアニア地域の歴史 2	2
アジア・オセアニア地域の歴史 11	2
アジア・オセアニア地域の歴史 12	2
アジア・オセアニア地域の歴史 13	2

（地域の文化）

アジア・オセアニア地域の文化 1	2
アジア・オセアニア地域の文化 2	2
アジア・オセアニア地域の文化 3	2
アジア・オセアニア地域の文化 4	2
アジア・オセアニア地域の文化 11	2
アジア・オセアニア地域の文化 12	2
アジア・オセアニア地域の文化 13	2
アジア・オセアニア地域の文化 14	2
アジア・オセアニア地域の文化 15	2
アジア・オセアニア地域の文化 16	2

（地域と地球規模の課題）

アジア・オセアニア地域の課題 1	2
アジア・オセアニア地域の課題 2	2
アジア・オセアニア地域の課題 3	2
アジア・オセアニア地域の課題 4	2

アジア・オセアニア地域の課題 5	2	グローバル地域文化学の実践 1	2
アジア・オセアニア地域の課題 6	2	グローバル地域文化学の実践 2	2
【アメリカ】		グローバル地域文化学の実践 3	2
(地域の歴史)		グローバル地域文化学の実践 4	2
南北アメリカ地域の歴史 1	2	グローバル地域文化学の実践 5	2
南北アメリカ地域の歴史 2	2	選択科目 A 群（地域文化研究科目群）、選択科目 A 群	
南北アメリカ地域の歴史 3	2	（実践科目群）より計 20 単位以上履修すること。	
南北アメリカ地域の歴史 4	2	【ヨーロッパコース】	
南北アメリカ地域の歴史 5	2	上記 20 単位のうち、選択科目 A 群（地域文化研究科	
南北アメリカ地域の歴史 6	2	目群）のヨーロッパ科目から 14 単位以上履修するこ	
南北アメリカ地域の歴史 7	2	と。	
(地域の文化)		【アジア・太平洋コース】	
南北アメリカ地域の文化 1	2	上記 20 単位のうち、選択科目 A 群（地域文化研究科	
南北アメリカ地域の文化 2	2	目群）のアジア・太平洋科目から 14 単位以上履修する	
南北アメリカ地域の文化 3	2	こと。	
南北アメリカ地域の文化 4	2	【アメリカコース】	
南北アメリカ地域の文化 5	2	上記 20 単位のうち、選択科目 A 群（地域文化研究科	
南北アメリカ地域の文化 6	2	目群）のアメリカ科目から 14 単位以上履修すること。	
南北アメリカ地域の文化 7	2	○選択科目 B 群（地域文化研究隣接科目群）	
(地域と地球規模の課題)		【共通科目】	
南北アメリカ地域の課題 1	2	世界の言語 1	1
南北アメリカ地域の課題 2	2	世界の言語 2	1
南北アメリカ地域の課題 3	2	世界の言語 3	1
南北アメリカ地域の課題 4	2	世界の言語 4	1
南北アメリカ地域の課題 5	2	世界の言語 5	1
南北アメリカ地域の課題 6	2	世界の言語 6	1
南北アメリカ地域の課題 7	2	世界の言語 7	1
南北アメリカ地域の課題 8	2	世界の言語 8	1
○選択科目 A 群（実践科目群）		世界の言語 9	1
発信スキル実践	1	世界の言語 10	1
質的調査の方法	2	グローバル地域文化特殊講義 1	2
計量分析の方法	2	グローバル地域文化特殊講義 2	2

グローバル地域文化特殊講義 3	2	アメリカの経済	2
グローバル地域文化特殊講義 4	2	アメリカの経済史	2
グローバル地域文化特殊講義 5	2	アメリカの政治と外交	2
グローバル地域文化特殊講義 6	2	ラテンアメリカの政治と社会	2
グローバル地域文化特殊講義 7	2	○選択科目C群	
グローバル地域文化特殊講義 8	2	テュービンゲン大学 I E S 単位互換科目 1	2
グローバル地域文化特殊講義 9	2	テュービンゲン大学 I E S 単位互換科目 2	2
グローバル地域文化特殊講義 10	2	テュービンゲン大学 I E S 単位互換科目 3	2
グローバル地域文化研究の実践 1	1	テュービンゲン大学 I E S 単位互換科目 4	2
グローバル地域文化研究の実践 2	1	テュービンゲン大学 I E S 単位互換科目 5	2
【ヨーロッパ】		テュービンゲン大学 I E S 単位互換科目 6	2
ヨーロッパの思想史	2	(免許・資格関連科目)	
ヨーロッパ社会史 1	2	日本史概論	4
ヨーロッパ社会史 2	2	西洋文化史概説(1)	2
ヨーロッパの政治史	2	西洋文化史概説(2)	2
ヨーロッパの経済	2	地理学 1	2
ヨーロッパの経済史	2	地理学 2	2
ロシア・東ヨーロッパの政治	2	地誌学	2
EUの政治	2	社会学概論	4
【アジア・太平洋】		経済原論	4
アジアの教育と社会 1	2	哲学概論(1)	2
アジアの教育と社会 2	2	哲学概論(2)	2
中国の政治	2	倫理学概論(1)	2
南アジアの政治と社会	2	倫理学概論(2)	2
東アジアの国際関係	2	教育原理	2
アジアの経済	2	教職概論	2
中国の経済	2	教育制度と学校経営	2
アセアンの経済	2	学校教育社会学	2
韓国の経済	2	人権教育論	2
【アメリカ】		発達と学習の心理学	2
アメリカ文化の歴史 1	2	特別ニーズ教育論	2
アメリカ文化の歴史 2	2	教育課程論	2

道徳教育の理論と実践	2	図書館情報資源特論	2
特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2	図書・図書館史	2
教育方法とICT活用の理論と実践	2	図書館演習	4
生徒・進路指導の理論と方法	2	学校図書館サービス論	2
教育相談の理論と方法	2	選択科目C群は上記科目に加え、全学共通教養教育科目（外国語教育科目を除く）、他学部設置科目、同志社女子大学単位互換科目及び大学コンソーシアム京都単位互換科目の中から16単位以上履修すること。	
スクールインターンシップ	2		
学校教育図書館論	2		
学校図書館メディアの構成	2	外国人留学生が、日本語・日本文化教育科目（日本語1(読解AVI)～日本語2(文法IX)、ビジネス日本語C、ビジネス日本語D及び日本の文学Bを除く）を履修した場合は、選択科目C群の卒業要件単位に算入する。	
学習指導と学校図書館	2		
読書と豊かな人間性	2		
情報メディアの活用	2	○選択科目D群（原語で学ぶ地域文化研究科目群）	
社会科・地理歴史科教育法	2		
社会科・公民科教育法	2		
社会科教育法 1	2	英語で読む地域文化研究 1	2
社会科教育法 2	2	英語で読む地域文化研究 2	2
地理歴史科教育法	2	英語で読む地域文化研究 3	2
生涯学習概論	2	英語で読む地域文化研究 4	2
図書館情報学概論	2	英語で読む地域文化研究 5	2
図書館制度・経営論	2	Global and Regional Cultural Studies Seminar 1	2
図書館情報技術論	2	Global and Regional Cultural Studies Seminar 2	2
図書館情報サービス論 I	2	Global and Regional Cultural Studies Seminar 3	2
図書館情報サービス論 II	2	Global and Regional Cultural Studies Seminar 4	2
児童サービス論	2	ドイツ語で読む地域文化研究 1	2
情報サービス演習 I	2	ドイツ語で読む地域文化研究 2	2
情報サービス演習 II	2	フランス語で読む地域文化研究 1	2
図書館情報資源概論	2	フランス語で読む地域文化研究 2	2
情報資源組織論 I	2	中国語で読む地域文化研究 1	2
情報資源組織論 II	2	中国語で読む地域文化研究 2	2
情報資源組織演習 I	2		
情報資源組織演習 II	2		
図書館情報学特論	2		
学術情報利用教育論	2		

スペイン語で読む地域文化研究 1	2	文化・経済・ビジネス・法律・政治・政策・国際協力等の	
スペイン語で読む地域文化研究 2	2	分野において、国際的に活躍するために必要な幅広い学	
ロシア語で読む地域文化研究 1	2	際的教養及び国際的コミュニケーションの技能を身に付	
ロシア語で読む地域文化研究 2	2	け、日本と各国の架け橋となる人材を養成することを目	
コリア語で読む地域文化研究 1	2	的とする。	
コリア語で読む地域文化研究 2	2	科 目	履修単位
アジア諸言語で読む地域文化研究 1	2	○演習・卒業論文	
アジア諸言語で読む地域文化研究 2	2	入門ゼミ	
○自由科目		Introductory Seminar A	2
情報機器の操作	2	Introductory Seminar B	2
教育実習指導	1	Introductory Seminar C	2
教育実習 A	2	Introductory Seminar D	2
教育実習 B	2	Introductory Seminar E	2
教育実習 C	4	展開ゼミ	
教職実践演習(中・高)	2	Intermediate Seminar A	2
履修方法		Intermediate Seminar B	2
【全コース共通】		Intermediate Seminar C	2
以上、必修科目の共通科目から 24 単位、各コースの必		Intermediate Seminar D	2
修科目からそれぞれ 4 単位、選択必修科目 A 群のグロー		Intermediate Seminar E	2
バル・イシュー科目から 4 単位以上、グローバル地域文		発展ゼミ・卒業論文	
化教養セミナー科目から 2 単位以上、選択必修科目 B 群		Advanced Seminar 1	2
(スタディ・アブロード科目群) から 1 単位、選択必修		Advanced Seminar 2	2
科目 C 群(外国語関連科目群) から 24 単位以上、選択科		Honors Thesis	2
目 A 群(地域文化研究科目群)、選択科目 A 群(実践科目		入門ゼミから 8 単位以上、展開ゼミから 4 単位以上、	
群) から計 20 単位以上、選択科目 C 群から 16 単位以上、		発展ゼミから Advanced Seminar 1, Advanced Seminar 2	
合計 124 単位以上履修すること。		を含み 4 単位以上、計 16 単位以上を履修すること。	
		○基幹科目	
		アカデミック・リサーチスキル科目	
国際教育インスティテュート		Library Research Skills	2
人材養成目的		Introduction to Information Systems	2
国際教育インスティテュートは、キリスト教主義、国		Academic Presentations and Debate	2
際主義、自由主義の同志社建学の理念に基づき、社会・		Academic Writing	2

Mathematical Methods for the Social Sciences	2	Introduction to Japanese History	2
Probability for the Social Sciences	2	Manga and Anime Studies	2
Introduction to Asian Philosophy and Thought	2	Japanese Society and Culture	2
Introduction to Social, Political, and Economic Thought	2	Introduction to the Arts	2
Introduction to Philosophy and Ethics	2	Introduction to Media and Communications	2
Introduction to Qualitative Research Methods	2	Introduction to Globalization	2
Introduction to Quantitative Research Methods	2	World Civilizations	2
Advanced Mathematical Methods for the Social Sciences	2	<展開>	
日本・京都理解基礎科目		Media in Japan	2
Basic Japanese	2	Japanese and World Literature	2
Communities of Practice in Japan	2	World, Youth, and Pop Culture	2
Japanese Issues and Topics	2	Ethnicity in Japan	2
Introduction to Kyoto	2	Japan in the World: Cultural Flows and Diasporas	2
Doshisha and Christianity	2	Social Foundations of Language	2
Geography of Japan	2	Asian Civilizations	2
Nature and the Environment in Japan	2	Modern Japanese History	2
Religion in Japan	2	<発展>	
Understanding and Experiencing Work in Japan	2	Social Foundations of Education	2
アカデミック・リサーチスキル科目から 12 単位以上,		Nations and Nationalism	2
日本・京都理解基礎科目から 4 単位以上, 計 16 単位以上		Advanced Themes in Anthropology	2
を履修すること。		Disaster Studies	2
○専門領域科目		Social Inequalities in Japan	2
Japanese Society and Global Culture Concentration		Colonialism and Imperialism	2
<入門>		Advanced Media Studies	2
What Makes Humans Human?	2	Migration and Transnationalism	2
		Japanese Business and the Global Economy	
		Concentration	
		<入門>	
		Introduction to Contemporary Economics and Business	2

Introduction to the Japanese Economy	2	Winners and Losers:Introduction to	2
Macroeconomics	2	Political Theory	
Microeconomics	2	Introduction to Japanese Law	2
Introduction to Finance	2	Power and Politics in Japan	2
Introduction to Business		Introduction to Comparative	2
Administration	2	Policymaking	
Introduction to Accounting	2	Introduction to International	2
Society and Economy in Kyoto	2	Relations	
<展開>		Comparative Politics	2
Consumers and the Market in Japan	2	Peace and Conflict	2
Ecology and Economy in Japan	2	<展開>	
Industry and Labor in Japan	2	Citizen Politics in Japan and Beyond	2
The Creative Industries in		International Relations in East Asia	2
Contemporary Japan	2	Postwar Japan - U.S. Relations	2
The Financial System in Japan	2	What Makes Countries Poor?	2
Financial Accounting in Japan	2	International Human Rights Law	2
Introduction to Marketing	2	Political Behavior,Campaigns	2
Japanese Corporations	2	and Elections	
<発展>		Civic Engagement	2
Economic Growth	2	Public Opinion and Political	2
International Economics	2	Psychology	
Corporate Strategy and Organization	2	<発展>	
Management Accounting in Japan	2	Topics in Public Policy	2
International Marketing	2	Mass Media in the Policymaking	2
International Business Communication	2	Process	
Industry and Corporation in Kyoto	2	International Law and Organizations	2
Contemporary Issues in Business and	2	International Political Economy	2
Economics		Development and Law	2
Japanese Politics and Global Studies Concentration		Topics in Japan' s Contemporary	2
<入門>		International Relations	
The Politics of Growth in Developing	2	Social Movements and Contentious	2
Countries		Politics	
		Politics through Film	2

選択したコンセントレーションの入門・展開・発展から各 4 単位以上を含む 30 単位以上を履修すること。

○選択科目

Special Lecture Series (1 科目 1～8 単位)

Recognized Transfer Credits (1 科目 1～8 単位)

上記のほか、日本語・日本文化教育科目、全学共通教養教育科目、学部及び大学院設置科目、大学コンソーシアム京都単位互換科目及び同志社女子大学単位互換科目のうち国際教育インスティテュートが定める科目から選択履修すること。学則第 9 条の 2 及び第 9 条の 4 により修得した単位を Recognized Transfer Credits として認定することがある。全学共通教養教育科目の外国語教育科目の英語及び母語の履修は認めない。

以上、演習・卒業論文、基幹科目、専門領域科目及び選択科目から 124 単位以上を履修すること。

教育職員免許状を得るための課程

高等学校教諭一種免許状及び中学校教諭一種免許状を得ようとする者は、学士の学位を有し、教科及び教科の指導法に関する科目、教育の基礎的理解に関する科目、道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目、教育実践に関する科目、大学が独自に設定する科目について下記の所定の単位及び日本国憲法 2 単位、体育 2 単位、外国語コミュニケーション 2 単位、数理、データ活用及び人工知能に関する科目 2 単位又は情報機器の操作 2 単位を修得しなければならない。

ただし、「学士の学位を有し」には、学校教育法第 102 条第 2 項の規定により本学大学院への入学が認められた場合を含むものとする。

なお、学部・学科において取得できる免許状の種類(教科)は次のとおりとする。

神学部神学科 中一種免(宗教)，高一種免(宗教)

文学部

英文学科 中一種免(英語)，高一種免(英語)

哲学科 中一種免(社会)，
高一種免(地理歴史)，
高一種免(公民)

美学芸術学科 中一種免(社会)，
高一種免(地理歴史)，
高一種免(公民)

文化史学科 中一種免(社会)，
高一種免(地理歴史)，
高一種免(公民)

国文学科 中一種免(国語)，高一種免(国語)

社会学部

社会学科 中一種免(社会)，高一種免(公民)

社会福祉学科 中一種免(社会)，
高一種免(公民)，
高一種免(福祉)

メディア学科 中一種免(社会)，高一種免(公民)

産業関係学科 中一種免(社会)，高一種免(公民)

教育文化学科 中一種免(社会)，
高一種免(地理歴史)，
高一種免(公民)

法学部

法律学科 中一種免(社会)，
高一種免(地理歴史)，
高一種免(公民)

政治学科 中一種免(社会)，
高一種免(地理歴史)，
高一種免(公民)

経済学部

経済学科 中一種免(社会)，
高一種免(地理歴史)，
高一種免(公民)

商学部

商学科 中一種免(社会)，
高一種免(地理歴史)，
高一種免(公民)，高一種免(商業)

政策学部

政策学科 中一種免(社会)，高一種免(公民)

文化情報学部

文化情報学科 中一種免(社会)，
高一種免(地理歴史)，
高一種免(公民)，
中一種免(数学)，高一種免(数学)，
高一種免(情報)

理工学部

インテリジェント情報工学科

中一種免(数学), 高一種免(数学),
高一種免(情報)

情報システムデザイン学科

中一種免(数学), 高一種免(数学),
高一種免(情報)

電気工学科 中一種免(数学), 高一種免(数学)

電子工学科 中一種免(数学), 高一種免(数学)

機械システム工学科

中一種免(数学), 高一種免(数学),
中一種免(理科), 高一種免(理科)

機械理工学科

中一種免(数学), 高一種免(数学),
中一種免(理科), 高一種免(理科)

機能分子・生命化学科

中一種免(理科), 高一種免(理科)

化学システム創成工学科

中一種免(数学), 高一種免(数学),
中一種免(理科), 高一種免(理科)

環境システム学科

中一種免(理科), 高一種免(理科)

数理システム学科

中一種免(数学), 高一種免(数学),
高一種免(情報)

生命医科学部

医工学科 中一種免(数学), 高一種免(数学),
中一種免(理科), 高一種免(理科)

医情報学科 中一種免(数学), 高一種免(数学),
中一種免(理科), 高一種免(理科)

医生命システム学科

中一種免(理科), 高一種免(理科)

スポーツ健康科学部

スポーツ健康科学科

中一種免(保健体育),
高一種免(保健体育)

心理学部

心理学科 中一種免(社会), 高一種免(公民)

グローバル・コミュニケーション学部

グローバル・コミュニケーション学科

英語コース 中一種免(英語), 高一種免(英語)

グローバル地域文化学部

グローバル地域文化学科

中一種免(社会),
高一種免(地理歴史)

教科及び教科の指導法に関する科目

大学が独自に設定する科目

免許教科名 単位修得の方法

宗教

(高等学校
及び中学校)

下記の「教科及び教科の指導法に関する科目」について高等学校 24 単位, 中学校 28 単位を修得しなければならない。

教科の指導法	4 単位以上又は 8 単位以上
宗教学	1 単位以上
宗教史	1 単位以上
『教理学, 哲学』	1 単位以上
計	24 単位又は 28 単位

本学の指示する「大学が独自に設定する科目」について, 高等学校 12 単位, 中学校 4 単位を修得しなければならない。

英語 (高等学校 及び中学校)	下記の「教科及び教科の指導法に関する科目」について高等学校 24 単位，中学校 28 単位を修得しなければならない。		地理歴史 (高等学校)	下記の「教科及び教科の指導法に関する科目」について 24 単位を修得しなければならない。	
	教科の指導法	4 単位以上又は 8 単位以上		教科の指導法	4 単位以上
	英語学	1 単位以上		日本史	1 単位以上
	英語文学	1 単位以上		外国史	1 単位以上
	英語コミュニケーション	1 単位以上		人文地理学・自然地理学	1 単位以上
	異文化理解	1 単位以上		地誌	1 単位以上
	計	24 単位又は 28 単位		計	24 単位
	本学の指示する「大学が独自に設定する科目」について，高等学校 12 単位，中学校 4 単位を修得しなければならない。			本学の指示する「大学が独自に設定する科目」について，高等学校 12 単位を修得しなければならない。	

国語 (高等学校 及び中学校)	下記の「教科及び教科の指導法に関する科目」について高等学校 24 単位，中学校 28 単位を修得しなければならない。		公民 (高等学校)	下記の「教科及び教科の指導法に関する科目」について 24 単位を修得しなければならない。	
	教科の指導法	4 単位以上又は 8 単位以上		教科の指導法	4 単位以上
	国語学(音声言語及び文章表現に関するものを含む。)	1 単位以上		『法律学(国際法を含む。)，政治学(国際政治を含む。)]	1 単位以上
	国文学(国文学史を含む。)	1 単位以上		『社会学，経済学(国際経済を含む。)]	1 単位以上
	漢文学	1 単位以上		『哲学，倫理学，宗教学，心理学』	1 単位以上
	計	24 単位又は 28 単位		計	24 単位
	高等学校の場合は上のとおりであるが，中学校の場合は書道(書写を中心とする。)1 単位以上を履修すること。			本学の指示する「大学が独自に設定する科目」について，高等学校 12 単位を修得しなければならない。	
	本学の指示する「大学が独自に設定する科目」について，高等学校 12 単位，中学校 4 単位を修得しなければならない。				

福祉 (高等学校)	下記の「教科及び教科の指導法に関する科目」について 24 単位を修得しなければならない。		社会 (中学校)	下記の「教科及び教科の指導法に関する科目」について 28 単位を修得しなければならない。	
	教科の指導法	4 単位以上		教科の指導法	8 単位以上
	社会福祉学 (職業指導を含む。)	1 単位以上		日本史・外国史	1 単位以上
	高齢者福祉・児童福祉・ 障害者福祉	1 単位以上		地理学(地誌を含む。)	1 単位以上
	社会福祉援助技術	1 単位以上		『法律学, 政治学』	1 単位以上
	介護理論・介護技術	1 単位以上		『社会学, 経済学』	1 単位以上
	社会福祉総合実習 (社会福祉援助実習及び社会福祉施設等における介護実習を含む。)	1 単位以上		『哲学, 倫理学, 宗教学』	1 単位以上
	人体構造に関する理解・日常生活行動に関する理解	1 単位以上		計	28 単位
	加齢に関する理解・障害に関する理解	1 単位以上		本学の指示する「大学が独自に設定する科目」について, 中学校 4 単位を修得しなければならない。	
	計	24 単位			
本学の指示する「大学が独自に設定する科目」について, 高等学校 12 単位を修得しなければならない。		商業 (高等学校)	下記の「教科及び教科の指導法に関する科目」について 24 単位を修得しなければならない。		
教科の指導法	4 単位以上		教科の指導法	4 単位以上	
商業の関連科目	1 単位以上		商業の関連科目	1 単位以上	
職業指導	1 単位以上		職業指導	1 単位以上	
計	24 単位		計	24 単位	
本学の指示する「大学が独自に設定する科目」について, 高等学校 12 単位を修得しなければならない。			本学の指示する「大学が独自に設定する科目」について, 高等学校 12 単位を修得しなければならない。		

理科 (高等学校)	下記の「教科及び教科の指導法に関する科目」について 24 単位を修得しなければならない。	
	教科の指導法	4 単位以上
	物理学	1 単位以上
	化学	1 単位以上
	生物学	1 単位以上
	地学	1 単位以上
	『物理学実験(コンピュータ活用を含む。), 化学実験(コンピュータ活用を含む。), 生物学実験(コンピュータ活用を含む。), 地学実験(コンピュータ活用を含む。)]	1 単位以上
	計	24 単位
	本学の指示する「大学が独自に設定する科目」について, 高等学校 12 単位を修得しなければならない。	

理科 (中学校)	下記の「教科及び教科の指導法に関する科目」について 28 単位を修得しなければならない。	
	教科の指導法	8 単位以上
	物理学	1 単位以上
	物理学実験(コンピュータ活用を含む。)	1 単位以上
	化学	1 単位以上
	化学実験(コンピュータ活用を含む。)	1 単位以上
	生物学	1 単位以上
	生物学実験(コンピュータ活用を含む。)	1 単位以上
	地学	1 単位以上
	地学実験(コンピュータ活用を含む。)	1 単位以上
	計	28 単位
	本学の指示する「大学が独自に設定する科目」について, 中学校 4 単位を修得しなければならない。	

数学 (高等学校 及び中学校)	下記の「教科及び教科の指導法に関する 科目」について高等学校 24 単位，中学 校 28 単位を修得しなければならない。		情報 (高等学校)	下記の「教科及び教科の指導法に関する 科目」について 24 単位を修得しなければなら ない。	
	教科の指導法	4 単位以上又 は 8 単位以上		教科の指導法	4 単位以上
	代数学	1 単位以上		情報社会・情報倫理	1 単位以上
	幾何学	1 単位以上		コンピュータ・情報 処理(実習を含む。)	1 単位以上
	解析学	1 単位以上		情報システム(実習を 含む。)	1 単位以上
	『確率論，統計学』	1 単位以上		情報通信ネットワーク	1 単位以上
	コンピュータ	1 単位以上		(実習を含む。)	
	計	24 単位又は 28 単位		マルチメディア表現・ マルチメディア技術 (実習を含む。)	1 単位以上
	本学の指示する「大学が独自に設定する 科目」について，高等学校 12 単位，中 学校 4 単位を修得しなければならない。			情報と職業	1 単位以上
				計	24 単位
		本学の指示する「大学が独自に設定する 科目」について，高等学校 12 単位を修 得しなければならない。			

保健体育 (高等学校 及び中学校)	下記の「教科及び教科の指導法に関する科目」について高等学校 24 単位，中学校 28 単位を修得しなければならない。		発達と学習の心理学	2
	教科の指導法		特別ニーズ教育論	2
	4 単位以上又は 8 単位以上		教育課程論	2
	体育実技	1 単位以上	道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目	
	『体育原理，体育心理学，体育経営管理学，体育社会学，体育史』・運動学(運動方法学を含む。)	1 単位以上	○必修科目	
	生理学	1 単位以上	科 目	履修単位
	(運動生理学を含む。)		道徳教育の理論と実践	2
	衛生学・公衆衛生学	1 単位以上	特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2
	学校保健(小児保健，精神保健，学校安全及び救急処置を含む。)	1 単位以上	教育方法と I C T 活用の理論と実践	2
	計	24 単位又は 28 単位	生徒・進路指導の理論と方法	2
○必修科目	本学の指示する「大学が独自に設定する科目」について，高等学校 12 単位，中学校 4 単位を修得しなければならない。		教育相談の理論と方法	2
			教育実践に関する科目	
			○必修科目	
			科 目	履修単位
			教育実習指導	1
			教育実習 A	2
			教育実習 B	2
			教育実習 C	4
			教職実践演習(中・高)	2

教育の基礎的理解に関する科目

○必修科目

科 目	履修単位
教育原理	2
教職概論	2
教育制度と学校経営	2
学校教育社会学	2
人権教育論	2

- 1 教育の基礎的理解に関する科目は，14 単位以上を履修しなければならない。
- 2 道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目は，高等学校の場合 8 単位以上，中学校の場合 10 単位以上を履修しなければならない。
- 3 教育実践に関する科目は，高等学校の場合 5 単位以上，中学校の場合 7 単位以上を履修しなければならない。

4 教科の指導法は、申請する免許状の教科ごとに修得しなければならない。本学では宗教・国語・理科・数学・保健体育科(高一種免4単位, 中一種免8単位), 商業・情報科(各4単位), 英語・社会科(8単位), 地理歴史・公民・福祉科(各4単位)の教科教育法を設けている。

「商業」, 「数学」又は「理科」の教科について高等学校教諭免許状の授与を受ける場合の各教科の指導法に関する科目, 教諭の教育の基礎的理解に関する科目等の単位数のうちその半数までの単位は, 当該免許状に係る教科に関する専門的事項に関する科目について修得することができる。

附 記

中学校教諭二種免許状を得ようとする者は, 基礎資格として大学に2年以上在学し, 62単位以上〔内, 日本国憲法2単位, 体育2単位, 外国語コミュニケーション2単位, 数理, データ活用及び人工知能に関する科目2単位又は情報機器の操作2単位を含む〕を修得すること。また, 大学において修得することを必要とする科目は, 教科及び教科の指導法に関する科目12単位, 教育の基礎的理解に関する科目6単位, 道徳, 総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導, 教育相談等に関する科目6単位, 教育実践に関する科目7単位, 大学が独自に設定する科目4単位を修得しなければならない。